

みて止まざるなり。妄りに新聞社會を排斥するの謬策たるは、このポーツマスの日本全權善く之を誑して餘りありと謂ふべし。然れども又思ふに、日本全權既に一たび決して此に出づる以上、媾和條約調印の時に至るまで、能く其志を貫きて終始渝らざるば、或は其威嚴體面を失せず、又幾何か事に益する所ありしなるべし。而も彼等は事の復たなすべからざるに及んで、周章狼狽、卒然其方針を易へたり。清國の諺能く日本全權を諷する者に似たり。曰く、百里を行く者は九十里を半とせよと。終始一貫守つて渝らざるは眞にそれ難いかな。

斯くて日本全權は、八月二十九日最終協定の日に至るまで、一日復た一日、幾度か會議を延ばして最後の斷を下さず。露國委員は、實に待ち遠さに堪へざりき。此前日、余は往つてウキッテを見、夜に入りて又十一時より約十二時半に亘るの間、相見て共に和戰の局を論ず。當夜の談、余はウキッテの思想豊富にして、又意見嶄新なるものあるに驚かざるを得ざりき。ウキッテ曰く、余は斷じて日本が償金要求を撤回するを信せず。吾人明朝必らずポーツマスを去らざるべからざるに至らんと。翌朝ローゼンと共に鎮守府に赴くの前、余重ねてウキッテを見て、談判破裂の曉、當

に準すべき準備を聞く。ウキッテは當日開會後一時間を出でずして、談判必らず破るゝを自ら期せり。余は前夜其接受せる電報に由つて、或は形勢幾何か見直すことなきかを問へるに、ウキッテは曰く、否、益、余の所信を堅めしむるのみ。談判の破るは今や復た疑ふべからずと。

此日八月二十九日午前九時半、兩國全權は共に行き馴れし會議室に入り、相見て禮すること常の如し。日本全權の人に接する懇懃、全く前日と異ならざるも、唯其色謹肅平日の快活に似ず。正式の會議未だ開けず、ウキッテ先づ小村男爵の傍に至りて相語る。ウキッテの告ぐる所、世間傳ふる所を以てするに、曰く、今日の會蓋し和戰の岐るゝ所なり。彼我の繫争問題は、今既に明白重ねて鳩首時を移すを須ひず。唯新提議あらば則ち可なり、然れども露國は一切の金錢要求を拋棄するを基礎とせざる提議は、今復た斷じて聽く能はず。既に最後の一言を言ひ放ちたれば、改むるに由なし。之に因つて從來數次の會合に於て、我排斥したる一切の提議を一括して、一言諾否を表し、以て無用に時を移すなからんかと。會談幾くならずして終り、正式の會議に入る。

普通の手續は終れり。爾後の形况予の聞くところを以てするに、露國全權ウキッテ其時機上に一片の書付を置きたり。これ正に露國の筆記最終通告とも稱すべき者なりしなり。日本全權に謂つて曰く、日本の償金要求は露國の一考だもなし能はざる所なり。日本は無條件を以て其償金要求を撤回するや否や、希くは明々白々に之に答へよと。一座白けて語なし。日本全權委員等は、意味ありげに互に相顧みるのみ。平日は沈重なりし小村男爵、殊に最も感に打たれし者の如し。暫らくあつて、小村男爵等は少時別室に退き、日本委員一同協議するあらんとを請ひたり。談判の此休止は僅に少時間なりき。既に再び會議を開くに及んで、小村男爵曰く、余は茲に一の提案あり、事はウキッテ氏の最終陳述中に見ざる提案以外に屬す。余は之を以て、一應考案商議して然るべき者となす。余は茲に日本は絶対無條件を以て、その償金要求を抛棄するを聲明す。唯征服權の効力に因つて、樺太全島は附屬島嶼を併せて、共に全く之を日本皇帝の領土に移さんことを提議す。露國全權ウキッテ答へて曰く、余は今閣下の提議を考察すること能はざるを思ふ。余は今や、復た獨り事を決する能はず。唯露國皇帝及び國民の代言者たるのみ。而して皇

帝國民の意思は既に定まりて動かすべからずと。小村男爵曰く、この事我皇帝陛下に如何に奏答すべきや。諸と謂はん乎、否と謂はん乎と。ウキッテは最終の確答を放てり。而して小村男爵の答如何、語を假りて之を言へば、曰く、これ命なり。

媾和成立の經過は、ジョン博士の犀利の筆鋒に磔示せられたり。然れども當時成立の瞬間に生じたる世界の反響は、實に左の如きものあり。我外務省着電に依れば左の如し。

英國諸新聞中タイムスは曰く、

日本は其満足と考量するところの形式に於て、開戦の目的物を收得せり。同國の政治家は世界の史乘に稀有絶無なる自制力を發現せしが、これ同國古來の武士道が、單に金錢の爲めに繼戦するを否認したる結果なり。日本男兒にして、今黄金の爲めに戦はしめられんか、其月桂冠は爲めに光輝を失はん。

スタンダードは曰く、

今回の媾和條約は、之を綜觀するも、又之を其各條に就いて考量するも、日本が商議の發端に於て、必要缺くべからずとせる地位を同國に與へたるものなりと確

信す。

デーリー・テレグラフは曰く。

媾和條約の成績は、勝者に最大の利を與へさると同時に、敗者に最小の不利を致せるものなりと雖、勝者の戰功を没却せるものにあらず。

デーリー・クロニクルは曰く。

日本國皇帝及び其輔弼の臣は、其明確なる判斷力を守持して謬らさず、其償金を得んとするや切なるべしと雖、露國が之を仕拂ふの力なく、従つて之を仕拂はざるべきを知悉せり。

デーリー・ニュースは曰く。

日本は世界の輿論を容れたるが爲め、正者の地位に立つに至れり。此事實は日本に取りて、如何なる巨額の償金にも勝りたる補償と謂ふべし。

イーヴニング・スタンダードは曰く。

日本の發揮せる寛仁大度は、嶄新の行爲なり。

ルッス新聞は双方の全權委員が孰れも成功せるを祝し、就中日本は重要な利益

は盡く之を收得せるを以て、特に成功せるものとなし、次で左の如く論じたり。露國は是迄頻りに災害を受けたり。されば今日の事、之を露國の勝利と云ふべからず。此くの如きもの争でか之を外交上の勝利と稱すべけんや。唯外交上の失敗を避けんとして、其目的を達したるに過ぎず。

スラーヴオ新聞は、今回の條件たる、國を辱しめたる戰敗の後に於ては、又已むを得ざる條件なりとせり。

ナスチャジブズニ新聞は、媾和を喜ぶと同時に、その條件は凡そ露國人たる者の快ことせざる所なりと論じたり。

シノツチエストフ新聞は曰く、不首尾なる戰爭の後には、歡喜すべき外交上の成功を收むる事を得べき理由あるなし。然れども今回の條件は、吾人が豫想し得たる最上の條件なりと云ふべし。

又露都八月三十一日發の電報に據るに、かの聖彼得堡總督兼内務次官トレポフ將軍は、媾和條約に就いて訪問者に語つて曰く。

余は一身としては、媾和條約に満足を表し、全然満足を表す。余の見る所を以てす

るに、露國は此媾和條件に由つて、戦争を進行して收め得べき總ての物を收め得たりと思ふ。今日殊に露國は艦隊を失ひたれば、如何に陸上に大勝を博すとも、到底海上に日本を攻撃し、又は樺太を恢復すると不可能なり。露國が外交の成功を博したるは明白疑ひなし。余は毫も條件に就いて非難すべき點あるを見ず。媾和條件の内地に及ぼす影響に就いては、さしたる事ありとも思はず。外國新聞が露國に革命起り居る者の如く想ふは過れり。尤も波蘭其他の地方には擾亂ありて、又形勢容易ならざる者あるは事實なれども、これは革命にあらず。而して其擾亂とても慢性的のものなり。軍隊が滿洲より還り來たるも、格別心配の事ありとは信せず。其大部分は永遠極東に駐屯せしめ置く必要あるべければ、殘餘の小部分が本國に還るは、數月にして事済むべし。現在の軍隊を派遣するは、一年半を要したれども、其大部分を極東に駐屯せしめ置くことすれば、國內に何程の影響もあるべからず。但し軍隊が今必勝を信せし矢先、此和議を見るに至りたれば、自然彼等の中に不平起らんも、それも本國に還る樂みは、此不平を消散せしむるに足るものあるべし。

又露國政事論者メンシコフは曰く、

第二十世紀劈頭の媾和條約は、偶當局者の無能を表すの外なし。曾て一八七一年、城砦の一石をだも一塊の領土をだも與へずと、斷言したる佛國人の如く、吾人は莫大の天富を有する廣大の土地を與へたり。吾人は東北亞細亞に於ける霸權、東洋に對する關鍵、西伯利亞に對する入口を與へ、吾人は地理上、政略上、露國勢力の天然の限界と見做されたる萬里の長城より、遠く隔離することを承諾したり。露國民の犠牲や、擧げて數ふべからず。東洋の要鎮と鐵道と、殆ど十億の巨額を費したるの艦隊と、數十萬の戦死負傷者は、皆これ一空に歸せり。就中我國の失ひたるものにて更に大なるは、東洋各國に於て露國を以て強大無比と見做したる想像の剝落したることなり。吾人は數百年を費して獲得したる位置を失ひて、再び之を回復すること至難なり。又果して、吾人は鞏固の平和を得たりと思ふか。否これ泥土の平和のみ。之に觸るれば、恐らく龜裂を生せん。

而も我軍の敗勢一變して、幸福の來たること甚だ近きにありたり。一年半前には二十萬の兵あれば、日本人をして揚陸せざらしむるに十分なりと揚言せしに、今

や我軍六十萬の兵を擁して、一指を動かさんとせず、樺太を防ぐには、一軍團にて足りしならん。今日互に勝敗を賭して決戦を試み、兩軍疲困するも、猶名譽の構和を締結するを得たりしならん。

我全權今より二週間早く行李を收め、ホテルの勘定を要求したらんには、日本人大方、樺太を放棄せしならん。之を放棄せしや、斷じて疑ひなし。日本人は樺太の外、其二千年來垂涎せし朝鮮半島全土を得たり。加之、彼等は旅順口を得て、支那海のジブラルタルとなし、露兵の血を漂はし、露國の金を埋めたる滿洲に於ける莫大の利益を占めたり。且つ吾人が、鐵道を敷きて各國民の好餌となせる滿洲の領土も、日本人は事實上之を獲得したる者なり。日本人は吾人の敷設したる鐵道と、我國の金にて美事に仕上げたる青泥窪港と、吾人の擊沈するをすら果さざりし十數隻の戦利軍艦を獲得したり。樺太の外、日本人は今回の一戦争にて、忽ち其領土を殆ど二倍擴張したり。昔の蒙古侵略の外、亞細亞にこれ以上幸福の戦争ありしや。之あらば請ふ余に告げよ、樺太の外に日本の獲得夥くして、此獲得物以外に、賠償金と樺太とを要求したるものは、東京に於ける元老會議の戯れに我を弄び

し者ならん。彼等は三倍の懸直を吹きて、其實恐らくは自ら過大なるに驚きながら、腹中には一朝鮮を以て満足するに意ありしならん。吾人は恰も前二回の露土戦争に於けるが如く、世話好きなる調停者に由りて徒に驚かさされ、盪惑されたり。吾人若し、身を日本人の位置に置きて、その獲得物の如何に大なるかを顧み、之を失ふの甚だ惜しきを一考したらんには、必らずや樺太を我手に收め得たるべく、且つ恐らく一言の争ひもなく讓歩せし、最初の七箇條をも撤回するを得しめたるならん。

我國の炎厄の本原は、國家の骨髓と稱すべきものなきことなり。我國には元老會議なく、國民の精神、國民の意識、國民の勇氣の代表者たるべき機關なし。日本封建時代の武士は、今猶勢力旺盛、四十年前美事に國家を改革し、今又日本國民を第一流の列國の伍班に進めたり。吾人は今宜しく國會の開設を急ぎ、民間に潜伏する人物を抜き出し、以て輿論の中心點を作り、之をして國家の大事を審議せしめざるべからずと。

ノーヴェエウレミヤが、八月三十一日の紙上に載するスウオリン翁の論評に言

へるあり曰く、

余は兎に角、ルーズヴェルトとウキッテの二人は、此終局の戦争に於ける大立者なりと思ふ。ルーズヴェルトは平和を冀望したり。然れども彼は軍費賠償金を當然支拂ふべきものとして、賠償金支出の必要を主張したり。ルーズヴェルトの同情は固より多く日本の方に傾き、其ウキッテの往復文書に徴するに、我全權ウキッテは斷乎として自己の地歩を退かず。毫も對手の威歴に屈伏せられざりき。ルーズヴェルトとウキッテは、同じく平和の目的を遂げんとしながら、其實競争對手にして、強大國の大統領と戰敗國の政治家とは、其智能と精力を以て競争せり。而して世界の目に觸れたるは、先づ露國の伶俐なる敏腕家が、忽ち日本全權の弱點を捉へ、全く自由獨立の人にあらず、公平無私の審判官にあらずして、日米の利益と露國に對する親交を、權衡に懸けたる仲買人(ローズヴェルト)を云ふをして、美事に失敗せしめたることなりき。ウキッテの證明せんと努めたることは、日本が連戰連勝の後に拘らず、決して敵をして唯々諾々媾和條件に調印せしめ、世界に向つて敗者は禍なる哉と、絶叫せしめ得るほどの大國にあらず、日本は今猶勝敗の境に立ちて、未だ

自ら占領者なり、命令者なりと公言する能はず。又世界が露國敗滅の狀を傍觀すると思ふは、誤れりと云ふにあり。ウキッテの此盡力は、遂に米國と歐洲とをして、日本の必勝に疑ひを挿さましめたり。此疑團亦疑ひもなく大統領の頭腦にも響きて、遂に聖彼得堡と東京とに向つて運動を始めたなり。故に余は、歐洲諸新聞がウキッテの外交の勝利を吹聴するに至りたるは、誠に當然なりと思ふ。然れども今回の媾和は、悲しむべき媾和なるに相違なく、露國が之を受けたりとせんには、是、誠に已むを得ざるに出で、且つ平和は唯暫時の事のみ。昨日、米國新聞記者は余に向つて、「日本は到底樺太の南部までをも支持し得るものにあらず、貴國必らず之を回復せん。」と云へり。何は兎もあれ、伶俐有爲の人物は、何よりも我國に必要ななり。平時に於ても必要なり。戰時に於ても必要なり。

我通信員の電報に依るに、日本人は媾和條件の締結せられたるを聞き、之を汚辱極まるものとなし、憂憤慟哭せりと云ふ。或日本の新聞紙の如き、自國全權委員を呼んで叛逆人となし、割腹すべしと忠告するに至れり。又或新聞は賠償金を得ざ

れば、平和は鞏固ならざるを以て、必らず之を破るべしと主張す。余は日本同胞に向つて慰藉の言を呈せんとす。第一、凡そ列國が相和する時は、何れの相手も不満不平を感ずるを免かれず。勝利者の得る所、甚だ少なく、敗者の讓歩甚だ多きに過ぐるは通例なり。日本人若し深思熟考したらんには、彼等が自國の勝利の爲め、獲得したる所甚だ多く、吾人之を追思する毎に、悲憤慷慨に堪へざるほどのものたるを知らん。第二、鞏固なる平和は未だ曾て何人も之を作ること能はざりき。古今東西の歴史を見るに、此に勃興する國家あれば、又敗るゝものありて、講和は只馬に食を與へ、又は汽船の爲めに、水と炭とを積込むの停留場を指定する里標たるのみ。余は今回の講和も亦鞏固なりと信せず。これ只我國の對日本交際史の一停留場たるのみにして、此歴史は今僅に其端を啓きたるのみ。吾人は一旦休憩して、復た必らず前進せん。吾人は十八箇月間、共に櫛風浴雨の星霜を送り、互に相識りたる者として、其心の樂しきと苦しきとは姑らく措き、此に一先づ握手せん。而して後、左様ならんと云はんのみ。

北獨逸アルグマイネツアイツング新聞は、特別の評論を掲げ、大要下の如く論

せり。

和議成立の報は、吾人の甚だ満足して迎ふる所なり。斯くの如く意料外に迅速なる和議を見たるは、露國に取りては、露帝及び露國政府が、平然不動の態度を執りたる結果と見做すべきも、同國が軍事上失敗を重ねたるに拘らず、なほ抵抗の潛勢力を有するの事實も、亦之に與かつて力ありたるも知るべからず。讓歩の決心をなすは、日本政治家にありては容易ならざる事なりしならんと雖、一方に於ては其智慮を證するに餘りあり。燦然たる光輝を放つて、老成文明國の伍班に入りたる亞細亞の新進強國は、戰爭中は勿論、講和條約の締結に際しても、泰西文明諸國の史乘中にある最良の先例に照らして遜色なきを示せり。日本國皇帝陛下、及び同國政府が講和條約の締結に際し、嚴酷なる條約を拋棄して、和協の態度を執りたるは、其自ら抑制したる結果にして、何等外觀の壓迫に困りたるが爲めにあらざるを以て、彌、賞讃せざるを得ざる所なり。吾人は和議の成立に關し、兩國の君主、政府、及び國民に對し、深く欣悦して祝辭を呈すると同時に、近日愈、調印濟の上は、兩國間に善隣の情誼を確立せしむべき情勢の出で來らん事を希望す。

伯林ローカルテンツアイゲル新聞は特に社説を掲げて曰く。

媾和成立のポーツマス來報は、全世界より重大なる壓迫を除却せり。露國にも日本にも、之を不満とする過激の輩あるべきは疑ひなしと雖、一般の感情は、今回の媾和を以て、双方に取り最も満足にして、且つ双方の面目を傷けざるものとなし、且つ日本が償金の要求を撤回したるは、其原因を同國の厄弱なるに歸すべからずして、同國が現在の必要は云ふを俟たず、深く將來の形勢を慮りたるが爲めなりとせり。日本は開戦當時の目的は盡く之を遂成せり。加之、自力を以て取得せる強國たる地位の、動かすべからざるを確信すると共に、露國の感情に顧みて、同國を東亞に於ける將來の好隣保となし、以て世界の政治關係に於ける自國の權利を確立せりと。

ケルニツシエツアイツング新聞は媾和に關し所説を掲げて曰く。

今回ポーツマスにて協定せられたる條約に就いては、露國が之に對して満足を表すべき理由を見ず。然れども其成績は、日本に於ても歓迎せらるべきことは思惟し難し。何となれば同國が敢てしたる讓歩の爲め、幾多の大希望畫餅に歸したる

を以てなり。然れども大局を遠觀する時は、日本は其莫大なる犠牲に對して、相當なる補償を得たりと謂はざるべからず。蓋し遼東を取得し、且つ韓國に對する保護權を得たるが爲め、單に島帝國たるの面目を改め、亞細亞の一強國として、同大陸に牢固たる地歩を占むるに至りたればなり。况んや日本の無形的勢力は、之より滿洲及び清國に普及せんとするに於てをや。戦争の慘劇を繼續すべきや否やの問題は、畢竟するに金錢問題にありたるを以て、若し兩國にして重大なる國利を防衛するが爲めにあらず、單に金錢上の理由に因りて繼戦せん乎。人道の敵なりとの評を免かれざるや知るべきのみ。東亞に於ける露國の侵略政策は、茲に頓挫し、將來長期間之を再試するに由なかるべし。則ち露國にありては、復讐の妄想を絶ち、國內の整理に力を致すを得策とす。戦後日本が一強國たるの地位を占むべきは争ふべからず。日本は今より、(第一)戦後の創痍を醫するの難業に、力を致さるべからず。(第二)今回取得せる地域の整理及び行政に關して、努力せざるべからず。(第三)日本は今回の軍功に乘じ、愈好戰國たらんとする乎、又は其目的國民の平和的進歩を謀るにあるかを、其將來の政策に依つて提示せざるべからず。日本が

追つて歐洲の黃禍たらんとすると否とは、同國今後の行動に徴して之を決すべきなり。

ルタン新聞の評論の要點に曰く。

今回の媾和條約の規定は、一方に於て日本が獲取し得べき利益の極限を示し、他の一方に於ては、露國の其地理上の位地より享くる特別の利益を示すものなり。日本は連戦連勝せりと雖、未だ其敵手の死命を制するに至らず、且つ其遂に爰に至る事能はざるは、自ら知悉する所なり。財政の鞏固ならざるは、双方軒輊する所なきを以て、此點は今回双方全權委員の態度を決定したる要件にはあらず。然らば、如何なる點が、此態度を決定したりやと云ふに、即ち一方に於ては日本の連戦連勝、他の一方に於ては露國は死命を制するの不可能、此二個の事情の權衡是なり。露國は能く日本の要求に抵抗し得たり。而して日本は最後の時機に迫んで、遂に其抱負を抑損するの已むを得ざるに至れり。故に外交の拙を以て、連戦連勝の功を没却せりと云ふが如きは、謂れなき議論なり。日本の穩健なる、露國の牢硬なる、共に賀すべし。之と同時に、双方とも財政上の必要、及び實際上不可能の事情あり。

たるを諒察せざるべからざるを以て、兩國全權委員の眞の勳功は、其穩健と牢硬との、各自國の利益に照らして如何に必要なかを了解せしにありと云はざるを得ず。

尙此外、佛國諸新聞の論調の要旨は、

ジュルナルド・デ・パリ新聞は、日本が今回の媾和條約を締結するに決定せる主たる理由は、第一、英米兩國の勢力、第二、財政上の困難を顧念して、今回の和議を收めたる日本政治家の智慮、第三、露國人傳來の牢硬是なりと論せり。又ルタン新聞と同じく、日本が媾和條約に依りて取得せる利益を尠ならずとし、露國も亦今回の和議に關しては失ふ所大ならず、其理由は元來露國の事情は、償金を支拂ふも戦ひを終止するを利とするにありと論じ、更に曰く、如上の次第なるが故に、今回の和議は、日本に取りても亦露國に取りても幸ひにして、且つ是認すべき條約なりと云ふべし。露國は斯くの如く豫期以外に自國の利益を防衛するの功を收めたるウキッテに對して、必らず敬意を表する所なくんばあるべからずと。

オーストリア新聞は曰く、日本は償金及び樺太割讓の二問題を抛棄し、以て穩和主

義の好模範を世界に示せり。凡そ世界の平和に資する、此くの如き寛容にありて、かの驚々たる詭辯又は大聲放言にあらず。今回の一舉に依り、嘗て野蠻なる慾望を抱くものとして非難されたる亞細亞人種は、今や堂々として文明國の伍班に入り、これより軍事上の名譽に次ぎて、平和の名譽をも受くるの權利ありと云ふべし。

ヅルプラー新聞は、亦熱心に日本最負の論をなせり。之を要するに、各新聞紙は勿論、佛國の輿論は和議の成立に對して滿悅の意を表せり。

澳國新聞は如何ゾラムデンブラッド新聞は曰く。

日本は能く讓歩せりと云ふと雖、これ其收め得たる結果が、尠少なりとの謂ひにあらず。今回は實にその要望せる所は大概之を收め得たり。韓國に於ける覇權、滿洲の開放、南滿洲より露人を驅逐せる事、遼東半島の占有、樺太島の一部の所得及び亞細亞洲に於て卓絶の地位を占むるに至れる事即ち是なり。

ノイエンプライブレッセは曰く。

日本は自ら謙抑し、以て金錢の爲めにする繼戰を避けたり。その穩健を表明する

事蹟は昨春來數回の戰勝よりも、更に燦然たる光輝を放たん。

ヂーツァイトは曰く。

戰爭の効果を概論して、亞細亞に一強國勃興し、歐洲の一強國は其内部の腐敗を暴露して雌伏せり。茲に於てか千古以來の露國不可侵説は、全く滅却せるものと云ふべし。

尙、自餘の新聞を通觀するに。

ターゲブラッドは我 天皇陛下を始め奉り、日本國民が平和を愛するの熱心にして、能く己れに克ち、平和の克復を得たるを悦び、右は全く其明識の然らしむる所なりとて、日本に對する尊敬の程度を益、高むるに至りたりと云へり。

ツァイト及びアルバイテルツァイツングは曰く、日本は償金の爲めに戰爭を開始せしにあらずして、其目的は東洋の勢力關係にあり。今や露國は之を失ひ、日本は總て之を得たり。日本人士は、上 天皇陛下より、下は將軍政治家に至るまで、賢明にして遠大の思慮を有し、此際敢て危險を冒さずして、東洋に於ける霸主の根據を確實にし、以て外國の侵略を未來に防止したるものなりと云へり。

其他の新聞の意向も亦埃都有識者の見る所も前記の言論と大同小異にて要するに日本政府の決断の賢明なるを嘆賞し居れり。

米國新聞の論評は如何。

日本が償金問題を撤回し樺太分割を承諾して媾和條約の基礎を確定するや、米國人は熱心に平和の恢復を喜ぶと同時に、日本の讓歩を意外としたるが、其頭腦の冷靜に歸するに従ひて、一般に日本の無形の勝利を認むるのみならず、實質に於ても亦日本の利益の大なるを認め、特に戦争繼續の結果を豫想するに於て、寧ろ此際英断を以て寛大の處置に出でたるを智慮ありとするに一致せり。重なる新聞紙の論調左の如し。

紐育トリビュン(八月三十日)は曰く。

日本は最大の勝利を得たり。其平和條件は奉天若くは日本海に於ける戦勝よりも一層美事なり。連戦連捷の曉に於て寛仁大度克く其正當の利益を敗虜の敵に與ふるが如きは、大國民にあらずんば能はず。而して日本は事實に之をなせり。蓋し軍艦引渡と海軍力制限とは、本來日本に於て要求の權なく、日本も亦或は談判

駭引上提出したるものならん。之に反し、償金及び割地は、共に日本が正當の權利を有したるものなり。吾人は曾て戦争を繼續せんよりは、寧ろ右の二條件すらも、之を拋棄するの得策なるを主唱せり。故に其拋棄は却つて日本の利益なるも、而も之が爲めに日本の智慮ある寛大の處置に對し、吾人の感嘆は毫も減損すべき理由を見ず。

紐育サンは曰く。

日本は戦争に於てよりも、平和に於て一層其偉大なる事を證明せり。彼が決意を促したる寛宏の度量と雄大なる精神とは、古來史上に見ざる所にして、吾人は露國に向つて祝意を表すべきも、而も日本に對しては吾人の最大なる感嘆と尊敬を表せざるべからず。

紐育ワールドは曰く。

媾和談判は一見露國の勝利なるが如きも、冷靜に之を思考するに随つて、平和條約愈調印せられ、露國の義務及び日本の權利が顯然たる國際條約の明文となるに於ては、また日本の旅順東清鐵道枝線及び樺太の有利なる一半を占有し、露國

が韓国及び滿洲を抛棄する事の歴史上既成の事實となるに於ては、吾人は之と共に極東に於ける露國の勃興政策は全然蹉跌に歸したるを明瞭に認め得べし。日本は露國の東洋に於ける唯一の不凍港を奪取したるのみならず、サガレン灣の所有に依りて、浦鹽の各關門を或程度まで扼守するを得、該軍港の價値は殆ど皆無に歸せり。思ふに太平洋に於ける露國海軍力の制限は、右以上有效なるものなく、加ふるに日英同盟の新に擴張せらるゝあり、此等の事情を綜合する時は、露國は條約の規定を確守せざるを得ざるべく、今回こそは滿洲還附も正直に實行せられ、而して日本に對する清國の恩義は永久のものなるべし。要するに平和條約は、露國に取りては汚辱失敗にして、日本に取りては勝利と見るの外なく、露國の東洋に於ける國威は地に墜ちたるに反し、日本の國威は隆々として昇り、彼が安全は保障せられ、世界強國間に於ける彼の地位は茲に確認せられたり。

ホストントランスクリフトは曰く。

日露間の平和は、日本の大勝利に歸せり。該平和は戦争の平和なり。名譽の平和なり。日本は戦争の目的を寸毫だも譲歩せずして之を贏ち得たり。世人は日本の勝

利の偉大なるを十分了解する迄には、なほ多少の時間を要すべし。何となれば、過般來一般の注意は、單に償金の一點に集りたる爲め、日本は戦争の利益を外交に依りて失ひたりとの感を懐く者多ければなり。然れども、これ大なる誤りなり。蓋し償金は、日本が戦争の効果を收むるに於て必要のものにあらず。日本の武器を執りて起つに至りたるは、其目的滿洲より露國を驅逐し、韓國を其完全なる勢力の下に置き、北京に於ける其勢力を増大し、以て露國をして復び島帝國の存立を危殆ならしむるが如き事なからしむるにあり。今や日本は此目的を達し、國家將來の安全は十分の保障を得たり。如何に外交的文に依りて緩和せらるゝも、事實上韓國は日本の有に歸せり。露國は滿洲より驅逐せられ、旅順、大連は最早日本を脅迫する能はず。而して其防衛に必要な鐵道線路は、日本の手にあり。若し日本に於て戦争を繼續せんか、其得る所奪る失ふ所を償はざるや明かなり。故に斷然之を抛棄して平和を求むるは、日本の爲め頗る得策なりと云はざるを得ず。

華盛頓スターは曰く。

ポーツマス會議の結果は、要するに日本にありては取得せざるものなく、露國に

ありては損失せざるものなくして、僅に軍費の仕拂ひを免かれたりと云ふのみ。談判上講和の成立を擇ぶか、然らざれば古來最も慘憺を極めたる戦争中の一に數ふべき今回の戦争を、無限に繼續するを擇ぶか、二者其一に居らざるを得ざるに至り、露國は連戦連敗せしに拘らず、償金を支拂はんよりは寧ろ猶も敗戦して無數の人命を犠牲に供せんとせり。又戦勝の結果として世界を驚嘆せしめ、且つ史上の先例に依りて償金を收むるの權利を有する所の日本は、人道の爲めに其要求を撤回せり。日本が其偉大なるを表彰せること、未だ曾て此行爲に若くものありたるを知らず。此行爲たる、一思一考愈、其偉大なるを見る。此くの如きは、敢勇且つ寛仁なる國民にあらずんば敢てせざる所なり。

紐育タイムスは曰く。

條約は現實の占有を基礎とし、勝者は其略取せるものを捨てず、敗者は其防禦し得ざりしもの及び已に敵に奪取せられたる者の外、何物をも棄てざるを例とす。日本は常に雅量を發揚せしのみならず、至大の智慮を表彰せり。満足なる克復は、なほ時日を要すべきに因り、今回の時機を以て、談判を不調に歸せしむるが如き

時にあらずとせること即ち是なり。日本の使節は、人力の極限を盡したる後に至りて、勝利的讓歩とも稱すべき讓歩を敢てし、以て和協を見るに至れり。

和議成立の報に、關し、蘭國新聞紙は何れも歡喜を表せり。初め諸新聞は、日本が露國の條件を承諾せし動機を怪しむの情ありしが、今や日本の讓歩は、自抑賢明寛仁の舉なりと嘆頌し居れり。其一般論調は左の如し。

戦争繼續は、從來の如く日本の勝利に歸する者とするも、之に伴ふ人命財貨の損失は、之を今回の讓歩に基づく實際の損失に比すれば固より同日の論にあらず。况んや日本は滿韓地方より露國を退けんとしたる開戦の主たる目的を達したるのみならず、假令、償金は之を受くる事を得ざりしも、捕獲船艇及び陸海軍の得たる至大の經驗に於て、將、また國家の威信に於て得たる利益は、露國の被りたる損害と同様に極めて大なるに於てをや。日本が強國の伍班に列するに至りたるは、今や確實なり。露國は其信用地に墜ちたるが爲め、日本に比すれば苦痛を感ずること多かるべく、且つ革命黨の運動及び戦地より歸來する兵士の一般國民に及ばず勢力のため、多大なる不安の醸生するを見るべし。

諸新聞は又媾和條約締結の事に關する米國大統領及び獨逸皇帝の盡力に對し賞讃の意を表せり。

丁抹國の諸新聞も亦和議成立の報に接して純然たる満足の意を表すると同時に日本の智慮と寛仁とを大に稱揚し、大體に於て蘭國諸新聞と論調を同じうし、媾和條約を評するに左の言を以てせり。

今回の媾和條約は、智慮に出で且つ双方の面目を損せざるものなり。何となれば露國に凌辱を與へざると同時に、日本には其戰勝の果實を收めしめたるを以てなり。日本が今日吾人の知る所の條件にて和議の成立を見るに至りたるは、確かに同國の一大勝利なりと云ふべし。

トリビユナ新聞は曰く。

日本が大統領の忠言に聽きたるは、其無形の利益を認めたるが爲めなり。斯くの如きは、かの黃禍論主張者の無識を證するに足るべき實例なり。日本の之を敢てしたるは、實に其論理に従ひ推斷を誤らざりしを見る。戰爭を繼續せば日本は浦鹽斯德を占領し、黒龍江の一部をも略取するを得じならん。然れども戰爭愈久し

きに互れば、基地を距ること愈遠からざるを得ず。しかも日本は未知の事に對し運命を賭すべきものにあらざるなり。此解決は露國に示すに、彼等が日本は償金の爲めに戰爭を繼續せんと欲するものと思考せるの謬論なるを以てせり。歐洲は、經濟上の競争に従事する最上の方法が、日本の高尚なる模範に則り、利己主義の闘争を熄むるにあるを認知するに至るべし。

ギオルナーレ、デタリー新聞は曰く。

開戦前には露國は太平洋畔に一大帝國を興さんと志望せしも、今や西伯利亞に驅逐せられたり。これ條約の明記する所にあらざるも、實際は則ち此くの如し。而して其價たる償金要求の撤回問題と同日の論にあらず。將來韓國は、正に日本の埃及となるべし。

つぎに同新聞は英佛協商、モロッコ問題、瑞諾分離問題、西藏遠征問題、改訂日英同盟協約等は、みな日露戰爭の間接ある結果なりと説きたる後、左の如く結論せり。

人類は露國の勝利よりも、日本の勝利より利益を享くこと多し。將來日本は、各

國と共同して、文明及び平和事業の爲めに力を致す所あるべし。從來歐洲は、東は露國に押され、西は米國に壓せられ、中間の均衡を要せしに、今日本は即ち其均衡となれりと。

又償金案撤回に關するポーツマス發電、桑港クロニクル所載の一報に曰く。露國すらドンキホーテ的なりと思惟する程の寛仁大度を以て、日本は本日償金の要求を撤回し、且つ戦捷者の権利として既に自己の手中に占領し得たる樺太島の半部を露國に還附せり。斯くてポーツマスの平和は成立するを得たり。償金案は全然撤回せられたり。露國より日本に金圓を給付すべしとの要求は、主義に於ても事實に於ても全く撤回せられ、唯々俘虜給養費のみが、兩國の間に取り遣りせらるゝ唯一の金員に過ぎず。而してこの取り遣りは一の勘定に外ならざるなり。即ち日露兩國は相互に其費用を計算し、貸し越したるものが、其不足の分を相手方より受取るまでの話しにて、此勘定に依り日本は數百萬圓を露國より領收し得べきも、此以外には一厘一毛も日本の手中に入らざるべし。今、事の此くの如く成り行きしは、小村男の發意にあらず。又高平氏の考案にも出

ず。即ち昨二十八日、日本皇帝が御前會議を経て、日本全權委員に斯くすべしとの勅命を傳へられたるに因る。小村、高平兩氏は償金を欲したり。兩氏は一致して之を主張せり。而して彼等は償金案の撤回に因り、日本は其戦捷に伴ふべき正式の報酬を失ひたるを主張し居れり。されど兩氏は讓歩するの外あらざりしなり。訓令は東京より來りたればなり。

日本にして斯くの如き讓歩をなさしめたるに就きては、大統領ルーズヴェルト氏の盡瘁與かつて力ありと雖、なほ此に知られざる他の一事實あり。そは即ちわが米國に滞在して、屢大統領を訪問したる日本の財務委員金子男が、小村男を差し置きて償金案撤回の議を、直接に元老の一人伊藤侯の手を通じて日本皇帝の聖聽に達せしめたること即ち是なり。償金撤回を勸告したる者は、實に小村男にあらずして金子男なり。男は大統領の助力を得て、直接に東京と交渉せり。昨日、日本全權委員は、天皇陛下より、平和を得る爲めには如何なる讓歩をもなさざるべからず、償金及び戦費辨償の要求を撤回することも止むを得ずとの勅命に接したる時、彼等は初め之を信する能はず、漸くにして、此疑念は驚愕に變じ、然

る後亦一變じて、彼等は憤怒の念に驅られ、殆ど狂するが如くなれり。小村男は室内を荒れ廻れり。高平氏亦同様に室内を荒れ廻れり。斯くて其憤怒は、沈澁に變じ、今朝全權委員が談判所に赴かんが爲め室内を出で來りし時、沈澁の色は最も能く彼等の面上に顯はれたり。小村男は、如何なる代償を支拂ふも平和をなすべしと主張するは、之を以て日本に於ける一派の人々の勝利に歸したるものと言明したり。彼は此日の會見に於て、餘り多く發言せざりき。彼は償金半額説の如きものを提議して、幾分なりとも金員を獲得せんと最後の努力をなせり。然れども此努力は餘り熱心ならざりき。彼は到底容れられざるを知りたればなり。斯くて彼は東京より命せられたるが如く、償金案を撤回し、事實に於て露國が思ふ儘の條件に従うて、戦局を終結せしめたり。さりとも、戦場に於ける總ての勝利は、日本に歸したるものを。

日本の官吏は此注意すべき讓歩を以て、人道の爲めなりと説明せり。蓋し、これより外に説明の途なかるべし。それは兎も角、日本の全權委員たる小村、高平兩氏が、金子男の建議及び伊藤侯の勢力に壓倒せられて、遂に斯く讓歩するに至れるは事

實なり。事務的才幹に富めるウキッテ氏は、自國の陸軍が擊破せられ、自國の艦隊が破滅せられ、且つ自國が一旦獲得せる領土より驅逐せられたる敗亡の戦局を、首尾能く満足に收めたるの榮譽を擔ひ、恰も露國は戰敗國にあらずして、戰勝國なるかの如き外觀を示して、悠々歸國の途に上らんとす。

此幸福なる平和會議の終結は、不意にして且つ戲曲的なりき。若しルーズヴェルト氏の熱心なる干涉なかりせば、談判は一週間前に破裂したるならん。日本は平和の爲め戰勝者の度量を以て、最後の瞬間に、なほ談判の問題として存するものを悉く讓歩せり。

又ウキッテに關する米國新聞の論評は、偶以て日本に對する論評の一面を窺ふに足れり。曰く、

媾和成立の報道に對し、日本に於ては不平の聲あること略推知するに難からず。尤も東京より媾和成立に關して一言一句の電報も來らざるが故に、確にそれと斷言するを得ざるも、今日まで何等の報道なきより見れば、日本政府は人心の激昂を恐れて媾和成立せりとの海外電報を差押へたるか、さもなくば人心激昂の

事を書き記せる東京在留外國新聞記者の發電を許可せざるものなるべし。そは倍て置き、今翻つて露國々内に於ける媾和成立の評判如何を見るに、一般の人民は今回成立せる媾和條件を以て、外交上の大勝利となし、大にウキッテ氏の伎倆を謳歌しつつあるに似たり。然るに獨り政府當局者は冷然此外交的勝利を看過し居れる者の如し。

始め露帝ニコラスのウキッテ氏を媾和全權委員正使に任命するや、廟堂の軍人連は孰れも密かに手を拍つて、かれ確かに失敗すべしと豫期したり。これ信すべからざるの報道なるが如くなれども、決して虚報にあらず。確かに公然の秘密たること疑ふべくもあらず。有體に云へば、彼等軍人連は始めより平和を希望せざりしなり。故にウキッテ氏が印綬を帯びて將に聖彼得堡を出發せんとするや、彼等は異口同音に豫言して曰く、ウキッテ氏は成功の見込なき使命を帯びたり。かれ多分媾和に失敗すべし。若し失敗せずんば、彼は極めて露國に不利益なる條約を締結するならん。二者孰れにしても、彼は將來政治上の地位を喪失するに相違なし。然るに彼等の豫期する所は外れたり。ウキッテ氏は、首尾よく媾和條約を締結せり。

而も其條約は露國に取りて榮譽ある條約なりき。又或點に於ては露國に取りて非常に有益なる條約なりき。主戦派の軍人連は驚愕せり。ウキッテ氏は、凱歌を揚げたり。彼を陥拵せんとする軍人連の陰謀は、これより更に手を換へ品を換へて、微妙なる謀略に耽る事なるべし。

此に於て彼等軍人連は、談判進行して日本が讓歩的態度を示すに及び、ウキッテ氏が樺太島の半部を日本に割譲したるを以て、一の失策なりとし、若し彼にして今少しく巧妙に折衝せば、樺太島は日本に譲らすとも可なりしならんと唱ふるに至れり。然れどもウキッテ氏は、露帝の命を奉じて斯くなしたるに過ぎず。故に彼が自己一個の考へなりとして、人に語る所に由れば、彼は償金及び割地を拒絶する最初の宣言通り、飽くまで之を固執して一步も日本に譲るまじき希望を有し居たりと云ふ。

又かの露國全權の隨員にして、露國に有名なる國際法學者マルテンスの所見は、米國新聞に依つて傳へられたり。其記事に曰く、露國全權隨行員の一人マルテンス博士は、國際公法の大家として世に聞えたる

が、初め日本全權が媾和条件の一として戦費辨償の要求を提起するや、彼はポ
ツダムに滞在せる米國新聞の一通信員を引見して左の如く語れり。知らず、我は
何の辭を何て之に答へんや、曰く一國が其版圖の全部又は一部分をも占領せら
れざるに、敵に對して償金を支拂ひし先例は、歴史上未だ曾て聞かざる所なり。露
國は決して敗滅したるにあらず。又膝を屈して平和を哀願したるにあらず。露國
は平和を欲すれども、なほ數年間戦争を繼續するの能力あり。日本は未だ露國の
國境にだも接近せざりしにあらずや。凡そ形式の如何を問はず、若し露國にして
戦費辨償の要求に應せざるべからずとせば、これ頗て露國の政治的死亡を意味
するものなり。即ち歐米列國は此一事よりして、露國が米國大統領ルーズヴェ
ルト氏の平和勸告に承諾を與へたるは、これ全く露國が榮譽ある平和を欲するが爲
めにあらずして、其力既に竭き、到底戦争の能力なきを自覺したるが爲めなりと
言はん。換言すれば償金支拂の一件は、露國が自らポツダムに於て、悄然日本の
前下膝を屈し、平和を哀願し、且つ如何なる條件にても唯々之を容諾する覺悟あ
るを自白するに少くも異ならず。即ち償金支拂の結果悉いてモ、ソウヴェットの

帝國が前述の境涯に沈淪すべきは、何人と雖、之を否定せざる所ならん。つぎに
博士は、歴史上の實例を引用して曰く、
一國は戰場に於て敵軍と對立する能力を失ひ、且つ其版圖の大部分を敵手に委
したる場合を除くの外、未だ曾て償金を敵國に支拂ひたる實例を見ず。一八〇七
年奈破翁大帝が、チルシッドに於て、普魯西の使臣に對し媾和条件を差し付けたる
時、實際普魯西全部は殆ど佛軍に占領せられ、且つ普魯西皇室一族は、歐露國內に
避難したる程なりき。随つて佛國は此際思ふ儘に媾和条件を起草する權利を有
したり。即ち佛國は強ひて普魯西より三億弗の償金を支出せしめ、同時に其保障
として自國軍隊を數箇の普魯西國都市に駐屯せしめ、且つ其費用を普魯西に負
擔せしめたり。又佛國はなほ要求を繼續して曰く、普魯西の陸軍は四萬人を超ゆ
るを許さずと。超えて、一八一五年奈破翁大帝ワテルローの役に大敗して、巴里
第二條約の締結せられたる時、巴里市を占領せる列國同盟軍は、他の條件に附加
して、佛國は五億弗の償金を五箇年間に支拂ふべし。而して其期間同盟軍は佛國
の一部分を占領すべしと申込みたり。尤も償金の額は、この時エーラシヤベルにあ

りしウエリントン將軍の提議に因りて、著しく減少せられ、佛國は三箇年を以て首尾よく支拂ひを完済せり。

一八七〇年普魯西國の宰相ビスマーク公は、未だ曾てなき莫大の償金を佛國に要求せり。即ち其金額は十億弗を算したり。然れども、これ怪しむに足らず。何となれば奈破翁三世は、この當時普魯西軍に捕へられ、内にありしガンベッダは全く無力にて、巴里市は普魯西軍に占領せられたればなり。而して第三共和國(佛國のこと)は此條約に據りて、五年間に支拂ふべき償金を首尾よく二箇年間に完済せり。以上列擧したる場合を除けば、戰敗國は假令其領土の大部分を占領せられたる場合に於ても、償金を奪取せられたる事なく、又償金を要求せられたる事もなし。例へば一八一六年露國はクリミヤ半島を英佛土聯合軍に占領せられたりと雖、償金は是等の戰勝國に因りて要求せられざりき。又埃太利は一八五九年佛土聯合軍に破られて、ロンバルデーを失ひ、又一八六六年重ねて普魯西軍に擊破せられたりと雖、なほ埃國は償金を支出せざりき。一八六四年、丁抹がシユネウイッヒ、ホルスタンを普魯西國に占領せられたる時も、同じく一錢一厘を敵國に拂はざり

然るに近時一個の新先例は、西米戰爭に關聯して北米合衆國に因り提起せられたり。即ち當時米國は西國を破り、償金を要求し得るの地位にありたりと雖、彼は之をなさず、却つて二千萬弗をマドリッド政府に支拂うて、菲律賓を購求し、主義に於ても實際に於ても、之に満足して戰局を終結せしめたり。

露國が其形式の如何を問はず、兎に角償金の支拂ひを拒絶する所以の理由は以上列擧したる先例に倣ふにあらずして、唯々露國は開關以來未だ嘗て外國に一留の償金を支拂ひたる事なく、彼得大帝の時代に於ても、其版圖の大部分は侵入軍の手中に奪はれ、國家は今日よりも困難の地位にありたりと雖、尙且つ露國は償金を支出せざりき。露國にして若し日本に償金を支拂ふ事あらば、これ世界歴史上に新先例を開くものならん。

又同新聞の記事中、大統領の盡力に關する節に曰く。

米國大統領ルーズヴェルト氏が、始めて媾和成立の報道に接したるは、八月二十九日午後一時少しく過ぐる頃なりき。彼は初めより談判の成るべきを期して、曾て

絶望せざりしも、兩國全權の任務困難なるは能く之を諒とし、如何にもして談判を成立せしめんとし、斯くて彼は曩に日露兩國に向つて最後の照會に及びしに、東京よりは未だ回答到らざりしも、聖彼得堡よりは露帝の名を以て償金は一錢も出し難く、領土は一寸も割く能はずとの覆答ありて、形勢甚だ面白からず。豫て談判困難の場合には、之を仲裁々判に附せんとは、大統領の考へにして、而して此議は日本に於ても初めより承諾を表し居ることゝて、乃ち獨逸皇帝の大勢力を假り之をして先づ露帝に説き、仲裁々判のことを應諾せしめんかなど、種々思案しつゝある折柄、机上なる電話器のベルは著しく彼の耳を驚かしたり、傍らにありて熱心に執務し居たる秘書官ロイプ氏は直に電話器を手に取り耳に當てしが、先方より一通りの話を聞き取りたる時、彼はいと熱心なる顔色をもて再び談話の主意を問ひ返せり。先方の話は再び繰り返されたり、之を聞きたる彼は如何にも精神の昂奮したるが如く、且つ容易に先方の話しを信せざるが如き顔色を示せしかば、ロイプ氏は傍らより此様子を見て、不審に堪へず、彼に向ひて何事なりやと尋ねたり。かれ答へて曰く、媾和成立せりとの報道、唯今ポーツマス

より來れるなり。こはアソシエイトプレス通信員が公報なりとて傳ふる所、兩國全權はなほ之より詳細なる條項の整理に入るべしといふと、これを聞きたる大統領はよし結構結構と叫べり。されど貴下は其報道を確實なりと思惟するやと問ふ。ロイプ氏は確かなりと答へたり。彼は始めて安堵の胸を撫で下ろせり。超えて午後二時二十分、ポーツマスより正式の報道は來れり。曰く、日本全權委員は戦費辨濟の要求を撤回し、同時に樺太島の分割に同意せり。重要な諸點は悉く確實に協定せられたり。全權委員は之より詳細なる條項の討議に入るべしと。

幾許もなく談判経過の詳報はポーツマスより來れり。大統領は非常なる注意を以て之を讀み下せり。紐育トリビュンのポーツマス特派員は長文の電報を以て報じて曰く、和議は成れり。ウキツ氏は殆ど歴史に前例なき功績を擧げたり。彼は昨日までは不成功の外交家たりしが、今日は全露西亞の大立物となりたり。彼は今や本國に勢力を扶植し得て、國家に貢獻することを得べく、その勢力や殆ど無限なるべし。

ポーツマスにある露國人は、狂喜措く所を知らざる者の如く、同國人の喜怒外に顯はす性癖として、互に手を取りて相賀し、間々相抱擁して悦ぶ者あり。米國人の祝意を逃ぶるあれば悦んで之を受け、復た深く其條件を問はず。恰も小兒の餘念なく悦び狂ぶ者に似たり。

露人の喜べるに似ず、日本人は皆悲みの色をなせり。彼等は眞實に之を悲めるなり。其兵士は好兵士たる訓練を有し、皇帝の命令を奉じて戰場に赴き、其勇氣は世界の嘆稱を博したるに、其訂結したる和約は、彼等の決して之を以て名譽と思惟する能はざる者なり。彼等は戰場に由つて獲たる名譽は、媾和會見所に由つて失墜せられたりと、思料せり。蓋し大統領ルーズヴェルト氏は、日露兩國に向つて熱誠に互譲を勸告したるに拘らず、その一國は全く之を度外視し去り、而して媾和の成立は、偏に日本が世界の認めて以て穩當とせし條件を拋棄したるに由るものなればなり。されば人々は、此等讓歩の日本に於ける結果を恐れ、小村全權は己れに罪なけれど、亦自家の將來を危ぶめり。

八月二十九日は、後世史上一大記憶を残す日たらん。當日露國全權委員が、會見所

より旅館に歸りたる時の模様は、永く人の記憶に存すべきものなり。各通信員は、媾和條件を知らんことを欲して、旅館の入口を取り巻き、閣下よ償金は如何、樺太の代償は如何と、迫り問へば、ウキッテは手を拍ちつゝ、佛語もて、パーザン、一錢だも、と云ひて二階に駆け登りければ、露西亞萬歳の聲は、佛國通信員の口より一齊に發せられ、斯くて各通信員は先を争うて電報を發し、ウキッテのパーザン、スーの史的語は、瞬間に世界に打電せられたり。

斯くて露國兩全權が、旅館の二階の廊下に入れば、此處には様子如何にと待ち受けたる露國大使館附武官等は、條件の詳細を聞くや、皆大勝利となして一齊に露西亞萬歳と叫びたり。

暫らくあつて、和議成立の事ポーツマス全市に聞ゆるや、各寺院は鐘を打鳴らし、港内碇泊の汽船及び海軍造船所にては、汽笛を鳴らして孰れも和議成立を祝せり。斯く一般喜悅の状ある中に、日本人は孰れも悲哀の色を顯はし、緘黙して語なく、又旅館内にては熱心、和議の成るを噂し合ひて、露人は緘黙せる日本人よりも評判好く、避暑の令嬢連は手を拍ちて、此世界歴史の大事件に來合せたるを悦び、

又男子は互に手を握りて米國大統領が平和克復の勞空しがらず世界人類の爲めに一大成功を成就したるを祝し合へり。

日本兩全權委員は午後六時迄其旅館なるウエントウカースホテルに歸らず。自働車の門前に着きたる時は喝采を以て迎へられ萬歳の聲起りしが兩委員は各帽を脱して之に答へたる外何等言ふ所なく群衆は兩全權を以て語らひめんと欲して一層歡呼の聲を高めしも小村高平兩全權は唯微笑するのみ。其儘エレベーターに乗りて階上に去れり。随員佐藤辦理公使は兩委員よりも稍愛嬌好く群衆に接し微笑を浮べつゝ知己の人々に會釋し新聞通信員より條件を迫り問はれて何れ後刻陳示すべしとて旅館内に入りたる後暫らくして各新聞通信員に向つて大要左の趣旨の文を朗讀したり。

樺太及び軍費補填の二問題は最初より兩國間に意見の大衝突ありて屢談判の破裂を來さんとせしが日本皇帝陛下は人道文明の爲めに調和の精神を用ひ平和を克復するに軫念あらせられ因つて兩全權に命じて軍費補填問題を拋棄し樺太を折半するを允可し給ひ以て談判は成立を告ぐるを得たり。

旅館にては日本人の失望に反して露國人は得意の色あり。ローゼン男は語りて曰くウキツテ氏并に余は小村男高平公使に最も嘆服するものなり。非常なる困難ある時に當りて兩氏の恫歎は談判の進行を以て容易ならしめ兩國委員の干渉を滑かならしめたり。我等は兩氏の二なき實意に對して敬服し感謝する者なりと。食堂に於てナエルモフ將軍を始め露國隨員等數名の方に食事終りたる時日本隨員數名之を過ぎれり。露人は一齊に直立して昨日迄の敵に會釋したれば日本人は之に答禮したり。

各新聞通信員はウキツテ氏の招きに由つて夜十時半旅館の一室に會じローゼン男之に面して諸君明朝當市を去るを聞き首席全權は親しく諸君に告別せんとせしも英語は不得手なるを以て茲に文章に認め余をして代つて朗讀せしむと斷りて人々を悦ばしむる語をなしたり。

又アッシュェーテッドレンス通信員は同日附(八月二十九日)を以て左の通信をなせり。

兩國全權は會見所を去るに臨み各オイスターベールの大統領ルーズヴェルト氏を

電報を以て祝辭を交換せり。小村男は和議成立の條件を大統領に告げたるに止まれるも、ウキッテ氏は、小村男よりも一層長文の語を連ねて、偏に大統領の功績を稱揚して曰く、歴史はポーツマス講和を成立せしめたる光榮を、必ず閣下に歸せん。

斯くてウキッテ氏、ローゼン男は、午餐の爲めに旅館に歸りしが、日本兩全權は留まりて、ピイヤス氏と會談したり。和議成立の事は早くも聞えて、旅館前には群衆露國全權の歸りを待ち受けて、大雜鬧を極めしが、此時ウキッテ氏は意外にも急速談判の纏れるは我ながら驚ける處なるに、斯く大群衆に擁せられて全く茫然自失せる者の如く、僅に人々と握手して謝意を表するのみ。群衆は萬口一聲に條件を問ひ掛ければ、ウキッテ氏は唯簡單に我輩は一錢をも拂はず、樺太の半部を獲得したりと答へたり。

斯くて其室に入りて、稍落着くや、ウキッテ氏は語つて曰く、余は斯くの如き大勝利を得んとは、夢にだも想はざりきと。蓋しウキッテ氏は自らこれを以て外交上絶大の大勝利となし、自家心中の悦びを匿す能はざりしなり。世間の評判も、亦概ね其言

の如くなりき。露國人は皆曰く、我等には陸に遼陽ありたり、奉天ありたり、海に日本海ありたり、然れども日本人にはポーツマスあり。ウキッテ氏元と外交家にあらずと雖、能く日本全權の裏を掻き、其要求を逐一聽納して、償金と主要問題とは後廻しとなさしめ、即ち此問題を捕へて日本之を拋棄する乎、それとも償金を得る爲め戦争を繼續する乎、此兩者中如何に——と迫れり。これウキッテ氏の策圖に中れるものなり。之を外交上より言ふに、日本全權が條件の逐條審議に同意したるが第一の失策なりと。

九月二日倫敦タイムスは其社説に於て論じて曰く。

日露兩國皇帝は、共に豫備條約の條項を嘉納せらるる旨を正式に通告せりと云ふ。露國皇帝の此通告が、露國臣民の希望に副ひたることは、露國重要の都市が悉く平和を歓迎せる實際に照して明白なりとす。されど日本皇帝は、大に其趣を異にせざるを得ざるものあり。東京より來たる總ての報道は、何れも日本國民現下の感想が、深刻なる憤慨と不満を示さざるはなし。吾人はこの感想の深淺によりて、日本皇帝の平和に對する犠牲の度を測り得べし。國民の休戚を以て心とし

給ふ日本皇帝が此犠牲を敢てせらるるに至りしは實に忍び難き者ありとを疑はず。日本の事情に精通せるレデスデール卿が日本皇帝は寛仁なる陛下として長く史上に英名を垂れさせ玉ふべしと謂ひたりしは徒爾にあらざるなり。而も日本皇帝と其輔弼者は何れも平和條件に反対する日本國民の感想の深奥を知らざる能はず。然れども國民の精神は能く之を熟知す。其必らずや平和に對し重大なる任務あることなほ戦時に於ける如くなるを知るの智識と達觀とを以て其人民を信認するや疑ひなし。

佛國通信員に語れるウキテ氏の談話は、確に真正の政治家たるを示せり。氏は戦争より何等の教訓をも取るを肯んせざる露國一流の人物にあらず。氏は戦争の明示せし國民的弊害を承認せり。氏はこれにつきては、戦前既に熟知せしもの多からん。随つて彼をして時に當りて處置する所あらしめば、或は戦争は起らざりしならん。彼は今や遠隔の地に於て大企畫をなすの危険を避くべしとなし、露國將來の外交を振作すべき目的物を評價し、之を選定するを得たるは、實に氏の觀察の價值ある所なり。露國の採るべき正當の道途と、此道途の方向は、實に彼の謂

ふ如く穩健なる對歐洲政策に外ならず。彼が以て將來の平和の保障とする處は、二國同盟を鞏固にするにあり。これ疑ひもなく識見ある政治家の觀察にして、佛國が熱心に之を聴取すべきは疑ひを容れず。氏は又日露兩國若くは英佛日三國間の妥協を以て、根本的に出來難きものにあらざるをなす。これ亦佛國の見解と一致せるものなるは、方に締結せられたる日英同盟と英佛協商の佛國に與ふる價値とにつき、タン及びデパーの満足を表せる評論を一讀せば明白なりとす。

軍事的行動により表示せられたる日本の過去は、實に名譽赫々たるものなり。日本の大政治家大隈伯は、日本人の眼光を過去の名譽より限りなき將來の希望に移さんとせり。光榮ある戦争に集中せし勢力の潮流が、平和克復後、平和的企業と、平和的發展の海峡に注入せらるべきは、これ自然の勢ひなり。才敏にして業を勵む日本國民が、如上の事を現實にすべきは、吾人の疑ひを容れざる所以にして、また戦ひて得たるものは、實に大陸に於ける經濟的發展をなすべき地點にあることを、日本人に回想記憶せしむるものなり。伯が事業の共同者として、英人及び米人を迎へよと云へるより、門戸の開放を主張し、土地占領に反対することは、今

日に於て依然黄色人種の攻撃を恐怖する西洋人に與ふべき結論的答案となすを得べし。戦時に於て飽くまでも其同胞を激動せし大隈伯は、今や平和克復に際して日本人の新紀元の門戸に立ち、其勝利は總て平和的勝利ならざるべからざるを語りつゝあるなり。

ノーヴェグレンミヤは、媾和は休戦のみと評し、言をなして曰く。

日露の媾和條約を樂觀する者恐らく一人も之あらざるべし。世間の之に關する評論も概ね之を以て將來軍事的葛藤の種子を胚胎する者なりとし、絶大なる實際的悲劇の終結となさず、唯々多大の時日ある悲劇の幕間に過ぎずとなすなり。試に從來の平和條約を見よ。一として交戦國一方の兵力の滅盡に基づかざるなし。而も今回の場合は此事なく、露國は一年有半の戦争に於て、連戦連敗したるに拘らず、媾和の當時滿洲に於ける兵力は、開戦以來未曾有の優勢を致し、而して露國を永久に太平洋沿岸より驅逐せんとしたる日本の大主眼、亦實行せらるゝに至らず、或は若し此條約にして日露兩國をして、東亞大陸に於て利害相侵さず、以て平和の裡に兩々開展するを得しめば、この條約亦可なりと雖、此條約は果して

斯かる情勢を作り得る乎。

凡そ大國は自由に大海に出づるの口なかるべからず。露國は此點に於て甚だ不利の情態にあり。バルチック海は、古來人皆認めて以て出口となすに足らずとなし、黒海はボスホラス及びダーゲネルスの其口を扼するあり。印度洋に出づる口は、吾人之を有せず。吾人の最初波斯灣に出でんと試みたる態度は、専ら通商を目的としたるに拘らず、英國及び印度より最も強硬の反抗を受けたり。されば今や先づ抵抗力最も少なく、又我尨大なる亞細亞領土の天然の出口たる者は、唯太平洋ありしのみ。西伯利亞全土の我國に用あるは、唯其大海に出づるの道を啓くにあるのみ。これ恐らく何人も否定せざる所ならん。是に於て吾人は、此出口を得んが爲め、西伯利亞鐵道敷設に巨萬の金を投じたるが、今や戦争の後、吾人は再び大海より遠ざけられ、數世紀間我國の經濟力を縮小したる犠牲は、一朝にして悉く皆水泡に歸するに至りたり。浦鹽港に達する西伯利亞滿洲鐵道線は、平和條約によりて依然露國の所有たるを失せざれども、浦鹽港が到底我國の大海に出づるの希望を満足せしむる能はざるを如何せん。樺太の南部日本人の手に移ると共に

浦鹽港は日本湖上の一口岸となり、且つ一年中六箇月間氷結す。されば同港の價値は政治上、經濟上共に一半以上に價値なき出口に甘んずる能はず。必らずや其大海の良港を得んとする自然の需要は、全然之を獲るに至らずんば、到底止むと能はざるべし。旅順口及び青泥窪を占領したるを以て、無謀冒險の舉なりとするは笑ふべきの至りなり。若し關東占領を以て冒險となさば、西伯利亞鐵道敷設事業を以て、均しく無謀冒險の舉となさざるべからず。我國の對韓進取運動を以て、無謀冒險となすも、亦是笑ふべきの至りなり。蓋し此運動たる旅順口及び青泥窪の東翼を安固にせんとする必要に出でたるに外ならざればなり。朝鮮及び滿洲南部の經營に任せし人、或は無謀冒險の徒之あらん。唯、事業其者は、國家的大事業なり。之を排斥する者は、恐らく露國を化して瑞西となさんとする管見者流のみならん。然れども世間現に此くの如き人ありて、公々新聞紙上に、我國の極東取柄を喜ぶの說を掲げ、而して此取柄は以て能く内事の經營に露國民の勢力を集注するに至らしむべしと云ふ者あるに至つては、亦驚くべき怪事ならずや。凡そ此等露國人の說は、英國新聞に轉載せられ、而して英國人は之を轉載して賞

讃す。何となれば露國の専ら内事の經營に其全力を傾注することは、英國に取りて利益なるが故なり。吾人には、ポーツマスの靖和は、我露國に取りて其半分の價値なきものなりとなすを憚らず。

然らば其日本人に於ける亦如何。これ亦其半價値あるに過ぎざるのみ。吾人哈爾濱を以て、堅牢有力なる雄鎮となさば、日本豈之を見て冷々淡々たるを得んや。かれ亦必らず大陸の防備を堅固にせん。而して其防備を施すの地點は果して何處ぞ。他なし彼が唯一の場所とするは、京城より義州を經由して、鳳凰城に至る鐵道線と、昌圖府より遼陽を經由して旅順に至るの線路なること疑ひなし。これ第一の憂ひなり。

第二の憂ひは、大陸及び樺太に於ける日露兩國の境界線區劃が全く人爲的にして、一も地勢的人種的にあらざること是なり。此區劃の人爲的なるより、此二勢威圏内にあるの人民も亦常に不滿不快の感情を懷き、其不快不滿の極、葛藤を生ずべきは、賭易きの道理なり。

今や日露兩國は大陸に於て互に近距離に相接したり。露國が、大海より逐斥せら

れたるを思念して忘れざるべきは自然の勢ひにして、而して日本亦露國の西伯利亞に勢力を張り、捲土重來、進んで大海の不凍港を得るの舉に出でんことを憂懼して止む時なかるべし。

これポーツマス條約の眞結果なり。此條約や英人の喜び且つ利益とする所に於て、若干の猶太人の機關新聞、亦誠に之を慶賀す。然れども日露兩國は、此等の慶賀の爲めに果して此媾和條約を締結せざるべからざりしや、此問題に答ふるものは唯歴史のみ。

帝國評論所載、グレイシー氏の媾和條約評論に曰く。

有體に白狀すれば、予は去月此帝國評論に於て、平和問題を論じたる時、自ら謂へらく、日本は既に連戦連勝の好果を得て、十分に國威を輝かしたる後の事なれば、其露國に對し、最小限の要求として、國民及び全世界の前に發表したる平和條件を撤回する事は、如何にしても萬々あらざるべしと。想ふに日本皇帝、及び其閣臣は、既に自ら信じて此戦ひを開く。自國の利害より打算して、又既に戦争の爲め喪失したる犠牲の點より打算して、十分其目的を貫徹するに至るまでは、斷じて此

戦争を停止すべき者にあらず。この議論を紙上に論證するは、必らずしも困難なる事にあらず。然れども、予は二個の論點よりして、此議論が無益なるを知る。第一、平和既に成立せる今日、斯かる議論をなすは果して何の實益かある、世界の論客如何に筆端を振ふも、此既成事實を動かす能はざればなり。第二、日本が戦争を停止するに至れるは、それ相當の理由あるべく、世界の人々が論擧する所は、單に揣摩臆測より出づる議論に過ぎずして、戦争停止の眞の理由は遂に新聞社會に不明なればなり。

たゞ予をして、此問題に就き思惟する所を露骨に表白せしむれば、日本が寛仁大量の心より不利益の平和條約を承諾するに至れりと云ふは、到底戦争停止の眞理由となすに足らざるが如し。素より日本は、他の總て戦争に従事したる者と、同じく、戦争の慘憺たるを感じ居たるに相違なく、又戦争に勝ちたるを以て、其敵に對して必らずしも、さほど激しき惡意を有し居らざるは事實ならん。されど戦争中に於ける日本の行動を見るに、其目的を貫徹するに、抜くべからざるの決心を有し、敵の弱點に乗じて十分に之を利用するの果斷に富み、又忌憚なく云へば、敵

兵たるも味方たるを問はず、其生命を犠牲とするに無頓着なる、殆ど無感覺と云ふべきの有様なりしは、事實と云はざるべからず。且つ宣戦の布告に據るも、日本は露國の横暴を懲らし、永久平和の基礎を築かんが爲めに、終局まで戦はんことを欲するの決心ありたるが如し。然るに今や露國は、戦争繼續の決心を堅め、容易に日本の提案を容れざるに、勝てる日本の皇帝及び其政府は、忽ち露國に讓歩をなせり。而して世間の人々は、此日本の行動を説明して、これ戦争繼續より生ずる人命毀損の悲惨を避けんが爲め、又米國大統領の勸告を空しくせざらんが爲め、また米國新聞紙の好意に背くことなからんが爲め、又ウキッテ氏の外交的計略に陥りしが爲め、終に其目前に横はりし大目的を握る能はずして、國家生存の保障ともなるべき此獲物を放棄したりとなすものゝ如し。斯く思ふこと素より妨げずと雖、これ果して眞の理由なるや否や。

數日前或新聞(スペクテートル)なりしと記憶すの論じたる所に據れば、總て常識を備へたる人間は、此戦争の停止を見て喜ぶべしと云へり。予は他の人間と比較して、必らずしも仁愛の心に缺くる所ありとは自ら思はざるも、なほ沒常識と非

難せらるゝ危険を冒して敢て余は言明せんと欲す。此戦争を、斯くも突然中止するに至れる眞實の理由を知らざる間は、必らずしも該論者の説に同意するを得ず。元來予は平和を愛する者にして、凡そ戦争は國家の存在、又は其眞正の名譽に關係ある場合を除くの外、義戦と云ふべきもの斷じて有ることなしと信ずるものなり。

而も若し、日本が今次戦争を開始するに至れる理由、眞に國家の生存に關係ありとせば、日本が此戦ひの終局の目的を達せずして、平和克復に同意したるは、予の理解に苦しむ所なり。蓋し尙未だ其目的を貫徹せざるに、或人道的理由より戦争を停止するは、即ち其義務責任に背きしものと云はざるを得ざればなり。予は素より、日本は斯くの如く其義務責任に背けりとは斷言せざるも、唯今回日本が戦争を停止したる一事は、人道の上より大に尊敬すべき事なりと唱ふる俗論に對して、容易に雷同する能はずと云ふに過ぎず。

之と同時に、予は自ら信ず。戦局の進行中に於て、斯くも斷乎たる決心、斯くも勇悍なる冒險、斯くも冷靜なる思慮分別を顯はしたる日本の政治家は、今回の平和に

際して、一見判断力を失へりごまで思はるゝ行動を執り、且つ露國の侵略を沮止するに、又ご得難き此好機會を空しく逸し去れりと断定するは、必らずしも不當ならざるべし。局外者は何人も看取し居るが如く、日本にして若し戦争の繼續を断行せば日本は浦鹽斯德を攻略し、露兵を滿洲より驅逐し、樺太島を全部回復し、且つ露國をして近き將來に戦費填補に十分なる償金を支出せしむべき十分の機會を捉へ得たるならん。而して日本が將來斯かる收獲あるに拘らず、これを犠牲として戦争を停止したるは、全く主として寛仁大量の心、又は戦争の悲惨に對する感情的恐怖に基因すと論ずる者あるも、これ予の斷じて採用する能はざる所なり。

以上述ぶる所は、單に余一個人の意見にあらずして、日本國の内外を通じて、一般公衆の普く認識する所なり。有體に事實の眞想を表白すれば、日本は平和締結に際し、始め正々堂々の態度を以て進みじも、其後この強固なる態度を改めし爲め、國家の威信は増進せずして、寧ろ其毀損せられたるを見る。露國、佛國、獨逸、其他豫て日本に同情を寄せざる諸外國の人士は、今回ポーツマスに於て、斯くの如き平

和の締結せられたるを見て、皆謂へらく戦争は日本の資源を枯渴せしめたり。其結果、日本が曩に講和條約として提出せる所、日本將來の安全を計る爲め、是非とも露國に承諾を強ゆる必要ありと自ら宣言したるに拘らず、悉く之を撤回したり。而して此撤回は全く寛仁大度の心より出でたるにあらずして、必要上斯くならざるを得ざりしなり。若しそれ露人に至りては、傲慢不遜にも日本が結局敗北すべきは唯時間の問題にして、日本人自身すらも斯くなるべしとは、豫め自認せる所なりと主張するに至れり。露帝はポーツマスに於て、平和條約の締結せられたる翌日、大膽にも國內の臣下に對し宣言して曰く、日本は朕の提出せる條件に同意したるを以て平和を締結せりと。露國の新聞紙、及び公衆の如きは、一方に於て和を講ずるは露國現下の國狀に照らして策の得たるものと唱ふるに拘らず、一方に於ては明地に告白して謂ふ、今回の戦争停止は永遠の平和を齎すものにあらずして、單に一時的休戦をなせるに過ぎず。露國は近き將來に於て、再び戦争を開始すべし。但しその際に於て、露國は今回より遙に好良の状態にあるべく、且つ信する所を忌憚なく白狀すれば、其際に於て露國は今回の日露戦争の結果

と異なる他の結果を獲得する事を得べしと。
 予の見解を以てすれば、今回の平和條約は、悉く皆予の了解に苦しむ所なるが、其中にありて特に最も解すべからざるは、樺太島を分割せる一事とす。按ずるに、此島は元と長く日本の版圖に屬したる者にして、其後一度は露國に奪はれたれども、其後實力を以て之を回復せる今日、再び其一部を露國に割讓するが如くんば、予は寧ろ其全部を拋棄するの優るに如かずと主張する者なり。何となれば、寛仁大度は日本皇帝及びポーツマス平和會議に於ける日本全權委員が常に行動の標準として遵守したる根本の主義なるが如く想像せらるればなり。外部より觀察すれば、日本政府が樺太の分割に同意したるは、恰も露國に對して、彼が日本を攻撃せんと欲せば、何時にても其欲する時機に戰爭を開始し得べき適當の口實を附與する者と、少しも異なる所なし。而して其之を分領せる日露兩國は、假令共に善良なる意志を有すとするも、一島を二個の部分に分割し、單に地理學上の想像線を以てのみ其境界を定め、北半部と南半部と其護衛軍隊を異にし、其行政官廳を異にせば、兩國の間不和確執を生ぜざらんと欲するも得べからざるは、最も

賭易き道理なり。素より予は日本を小羊の如く柔順なりと認むる者にあらず、又露國を獅子の如く狂暴なりと認むる者にあらず。然れども予は敢て斷言せんとす。獅子と小羊と相並んで立つ間は、兩者が平和親睦、互に手を携へて仲よく樺太を領有するが如きは、殆ど望むべからざる事なりと。而して衝突も確執もなき黃金世界は、容易に到來すべくも見えざるなり。
 以上記述する所は、現下歐洲に於て最も普通に行はるゝ見解にして、英國米國の如き、豫て日本と親善の關係ある國々に於てすら、國內普く一般人士はなほ斯く主張しつつある。次第にして、たゞその度合が獨佛國人に比して稍薄しと云ふに過ぎず。勿論此兩國は、確に日本の寛仁大度を尊敬し、日本は露國をして極東の事件に再び干渉するの實力なからしむるまで、其連戰連勝の態度を繼續するよりも、寧ろ途中に於て戰爭を停止したるを稱讚するは確實なり。然れども全部の眞理を語れば、予等はなほ前述の言に附言して云はざるべからず。即ち吾人は今回の平和に因り、日本を尊敬するの度合は増したれども、日本を畏怖するの度合は減じたりと。而して現今の如き險惡なる世の中に於て、若し一國民が其生存を全

くし同時に進んで自國の發達を計らんと欲せば、其國は他國民に尊敬せらるゝよりも寧ろ畏怖せらるゝを以て策の得たるものとなすべし。日本皇帝の臣民は、若し露國にして媾和條件を承諾せざる以上、政府は何處何處までも戦争を繼續する用意十分に整へりと信じ、且つ日本必らず成功すべきを確信して、熱心に戦争の續行を主張し、若し之が爲め戦費負擔の必要もあらば、彼等は過去に於て柔順に政府の命に服したるが如く、將來に於ても唯々諾々として其命を奉ずる覺悟なりしなり。然るに突然平和成立の報は、ポーツマスにより成立したるものにあらずして、日本が其最も重要な諸種の要求を拋棄したるに因りて成立したるものなりき。

屈讓的平和條約の締結せられたりと聞くと、日本は國內全體を通じて民衆の憤慨沸くが如く、終に暴徒の示威運動となり、街上の争鬭となり、警官民衆の衝突となり、結局之が爲め多大の死傷者を出すに至れり。英米の新聞紙、此運動暴行を見て、日本人に教訓を與へて曰く、暴行は善き事にあらず、且つ英米人は日本の公安が斯くの如く害せられたるを見て、日本民衆の政治的資質に疑念を挾むの惡結

果を生ずべしと。予の見解を以てすれば、此批評は全く誤れり。按ずるに愛國心燃ゆるが如き一國の國民にして、戦敗に因らず、自國政府の自由行動に因りて、今回日本國民が蒙れる如き大打撃を受けなば、誰か柔順能く忍び得べしとせんや。詮ずる所、對外硬は愛國心の民俗的發展に外ならず、予は寧ろ、日本人は今回の事に因りて、政治的、生活の智識に富める事を表示し得たりと信す。而して若し日本人にして、斯くも輕卒に斯くも無分別に締結せられたる平和條約に對し、不満足の情を懷きながら、一の鞏固なる行動に出づる事能はずんば、予は彼等の政治的資質を信用せざりしならん。

偕て此不利なる平和にして成立せば、日本人は之を非難し、同時に小村男及び同僚の一身に對し、個人的憎惡、個人的危害にあらずとも、を加ふるに至るべきは、平和締結者の前より豫見し得たる事なるべしと信す。想ふに日本の全權委員等は孰れも政治的智見に富み、燃ゆるが如き愛國心を有する人々にして、何人も其伎倆を疑ふ者あらず。さればその國民一般に非常の不満足を與ふべきを知りつゝ、彼が如きの屈辱的平和條約を成立せしむるに至りしには、必らずや國家の利害

上如何なる代價を拂ふも平和を成立せしめざるべからずとの重大なる理由ありしものと推測せざるべからず。但し其理由なるものゝ當否は別問題なり。又全權委員等は平和の必要條件として露國に提示したる要求を撤回すれば、これ取りも直さず露國をして戦敗前の名聲を再び回復せしむるものなる事を観取する能はざりしとは想像する能はず。こは之まで露國に關し憎まれ口を利くを以て自己の義務なりと感じ、又之より後も引續いて難言を吐くを予の義務なりと感ずべし。然れども常識を以て公平に判断すれば、ポーツマス平和會議に於ける露國の伎倆は、偉大壯嚴なる文字を以て批評せざるを得ざるなり。會議の最初より露帝及び其閣臣は、常に揚言して曰く、露國は決して償金を支出せざるべし、又決して領土を割讓せざるべしと。而して彼等は、若し日本の要求を拒絶せば、戦争は直に繼續せられ、之が爲め露國は又々戦敗の艱苦を重ね、従前よりも更に大なる損害を蒙るに至るべきと殆ど絶対に確實なる時に於てすら、なほ此決心を固執して、日本に膝を屈せんとは企てざりき。何は兎もあれ、媾和會議に於て良き儲役を勤めたる者は、日本にあらずして露國なりき。予は實に以上の如く述ぶる

を以て遺憾なりと思ふ。然れども事實の真相を語れば、勢ひ斯く云はざるを得ざるなり。

茲に人あり、予に向ひ質問を發して、日本の行動を寛行大度と評せずんば、如何なる辭を以て日本の行動を説明せんとするかと云は、予は正直に告白せざるべからず。日本の行動に對しては、予は適當なる説明の辭を發見する能はずと。而して人は日本の行動を評して、寛仁大度と云ふも、予は寛仁大度なるものは、戰爭中に於ては不必要なる感情なりと信ず。實際に於て予は日露兩交戰國の秘密上の成策に關しては、少しも普通の人以上、特別に聞き込みたる事なく、又聞き込みたりと自ら稱したる事なし。且つ予は總て政府なるものは、御用記者に對し、特に秘密を開示する習慣あるものとも信せず。予一個人の見解を以てすれば、新聞記者が自己の手を以て拾ひ上げたる記事の種子は、非常に價值あるものなれども、彼等が、かの所謂「事情通」と稱せらるゝ大使及び公使より得たる種子は、陳腐ならんば故意に人を誤らんとする虚構なり。此故に予が質問者に對して答へ得る所は、以下述べんとする一種の見解にして、此見解は能く日本の行動を説明し得べ

しと信ずれども、なほ揣摩臆測に類する所あると免れず。日本が今回の戦争に於て、不思議なるほど大成功を博したる所以のもの、蓋し其
 一は確に軍制及び内政に關する一切の事項を能く祕密に附し得たるに因らず
 んばあらず。即ち戦局の進行中に於て、海外人は簡單なる公報中に顯はれし報道
 に據るの外、毫もそれ以上、軍制内政に關して特別の智識を得ること能はざりき。
 軍事上より觀察すれば、此遣り口は内外の新聞記者に取り、最も迷惑なりしかど、
 實際に於て海陸軍の成功を助けたる事は偉大にして、之が爲め世界各國が將來
 戦争を開始する場合には、悉く右同様の制を採用する事なきやと思はるゝ迄、其
 の効力は大きき。否思はるゝと云ふは不適當なり。寧ろ採用せらるゝかも知れ
 ず。然れども内政上より觀察すれば、此遣り口に對し、一大異論なきを得ず。蓋し海
 外の外國人は云ふ迄もなく、内國人と雖、其大部分は日本が據つて以て海陸の大
 勝利を博したる所以の軍隊、武器、軍需品、及び軍資金の眞資源が、當時果して如何
 なる状態にありしやも知るを得ざりければなり。兎に角戦局の進行中に於て、日
 本の軍制及び内政の組織に如何なる重大の缺點ありしや、局外の人々の全然

知得する能はざりし所なり。然れども是等の事情を知らざる人々も、茲に必らず
 認識せざるを得ざる事實あり。何ぞや戦争の進行するに従ひ、兵力の増援は漸く
 困難となる事、戦時税の負擔は次第に苛酷となる事、政府の處分權内にある國民
 の資産は、近き將來に於て枯渴の徴を顯はすべき事、日本國民の戦争に對する熱
 心は、開戦當時の如く旺盛ならざる事、即ち以上述ぶる所の諸件は、實際に於てあ
 り得べき事實にして、其之あるべきは何人と雖、否定する能はざる所なるべし。
 俊秀なる政治家が、開戦の當初に於て、自國の兵力及び財力を誇大に吹聴するを
 以て、自己の義務なりと思惟する事あるは、これ寧ろ當然の事にして、毫も怪しむ
 を須ひず。而して之と同時に、彼等は戦局の一通り進行せる後に於て、困憊せる兵
 力及び枯渴に瀕せる財力を以て、再び戦争を繼續し、これが爲め多大の損害を蒙
 る危険を冒さんよりは、寧ろ既に獲得せるものを以て満足し、爰に和を講ずるを
 得策なりと断定する事あるは、これ亦必らずしも驚くべき事ならず。尤も此所謂
 俊秀なる政治家中に、東洋島帝國の公僕政治家を算入せるは、勿論にして、彼等の
 席次は、西洋島帝國(英國)の政治家の次席に位すべし。

日本が豫定の媾和目論見を撤退せる原因を説明して以上の如く述ぶるは、これ果して事實の真相を穿ちたるものなるや否や。目下の所なほ不明なり。不明なりと雖、それ等の説明が外國人の意見及び外國政府の政策を多少たりとも動かさず得る力ある事は明白なり。されど予は媾和屈讓と相關聯して、日本が蒙れる不名誉、即ち日本の兵力及び資力の堂々たるを表示したる風説と、相背馳せる此名譽の失落なる事實に因りて、日本が其内地の事業の發達を沮害さるべしと豫言するは理由なき事なりと信ず。有體に云へば、世界は正しく平和に向つて感謝し居れり。随つて世界は、日本が將來の平和を計る爲めに、是非獲得せざるべからずと自らも思惟し、又一般外界の人々よりも正當にして理由ありと認められたる媾和條件の要求を撤退する事なくして談判若し調はずんば、寧ろ進んで戦争繼續の方針を執りたりとせば、自國の利益上より打算して、遂に賢明なる遣り方なりしなるべし。

借て今回の媾和會議に於ける協定事項に關し、兎もすれば横鎗を入るゝの野心ある如く疑はるゝ者、世界列強中に五個の邦國あり。露國、佛國、英國、米國、及び獨逸

の五國即ち是なり。

先づ露國に就きて之を見るに、極東に於ける露國の窮極の目的、及び其野心は如何なる事にもせよ、露國は内國に於て既に多くの心配の種子を有するを以て、日本に對し復讐戰を夢みるが如きは、殆ど不可能のことなり。見よ、高加索の叛亂、波蘭、芬蘭に於ける險惡なる暗流、海軍の暴動、陸軍の暴動的精神、飢渴を憂ふる賤民の不平、不幸耕作地に於ける絶えざる紛擾、立憲的內政改革の大運動、現任官僚排斥の要求等、數へ來れば皆これ一大革命の前兆ならざるはなし。殊に內政改革運動の如き、其要求する眞の目的が不明なるだけ、それだけ危険の度は一層大なりと謂はざるべからず。此故に若し露國が近き將來に於て、戦争を開始することありとせば、其戰場は太平洋沿岸にあらずして、寧ろ西洋に近き領土に於て開かるべし。

次に佛國に就いて見るに、同國は露佛同盟規約に基づき、日露戦争に加擔を強ひらるゝ事なきやと恐れたるに、幸ひに此事なくして僅に安堵したる矢先、加ふるに同國はモロッコ問題に關しても、露國の援助を當てにしたるに拘らず、此頼みの

網は切れて失望したることなれば、今更に干戈を執る如き野心は毛頭もなし。第三に米國は假令開戦の志ありとするも、態太平洋を横切りて遠征するだけの實力はなかるべし。第四に英國は日英攻守同盟の規約に基づきて平和を保障すべき責任あり。是を以て、若し今回の日露兩國間の協定事項に關し、或重要なる横鎗を入るゝ實力を有する者、若くは入るゝ事を希望する者ありとせば、そは即ち一の獨逸帝國なり。

獨逸皇帝及び米國大統領は、此程互に祝詞の交換をなしたるが、此一事よりして過去及び將來に於ける獨逸の態度は頗る明白となれり。平和成立の公表せらるるや否や、獨帝は平和創造者としての成功を祝するが爲め、米國大統領に向ひ、一の祝電を發し給へり。右に對し、ルーズヴェルト氏は、直に返電を發したるが、今其内容を評價せんが爲め、原文を引用せんに、八月三十一日の倫敦タイムズは其電文なりとて左の如く記載せり。

予は陛下の祝詞に對して、衷心より之を感謝せずんばあらず、予は此機會を利用して、陛下が東洋の平和克復に關する予の努力に對し、終始一臂の力を添へ

られたるを悦び、今爰に陛下に對し、予の深厚なる尊敬の意を表せん。實に予は此目的を貫徹せんが爲め、陛下と協力する事を得たるは、頗る欣喜措く能はざる所なり。

ルーズヴェルト氏の政治的伎倆に關しては、假令如何なる批評あるにもせよ、彼が公の行動に於ても私行上に於ても、兎に角、崇高誠實なる人格を有し、且つ其言論の正々堂々たるは世の定評にして、何人も否定すべからざる所なり。而して獨逸が、今回の平和會議開催の事に就き、又會議中に於ける討議の件に就き、果して如何なる盡力をなしたるかを知るは、かれ最も都合よき地位にありたるが如し。然るにルーズヴェルト氏は、獨逸皇帝よりの一の私信的祝電に對して、單に鄭重なる返電を發するを以て満足せず、獨帝が東洋の平和を克復せんが爲め終始彼と共に協力したる事を證言せり。

數週以前、獨逸皇帝は艦隊を率ゐて露國を訪問し、芬蘭の沿海に碇泊して、夜半竊に露國旗艦に到りて、其甲板上に露帝と面談せり。而して之が爲め英國の新聞紙は、大に激して獨逸攻撃の議論をなしたる事あり。回顧すれば、此時に當り、我英國

の主要なる新聞紙は、倫敦タイムスを筆頭に置き、或二三の特別例外を除くの外、悉く筆を揃へて宣言して曰く、此訪問こそ正しく獨帝の卑怯未練なる事を證明する者にして、斯く評するは何人も異論なき所なるべしと。又此時に於て、吾人は信ずらく、獨帝が不意に露帝と會見するに至れるは、畢竟これ彼が日露兩國に平和を締結せしめんとする米國大統領の盡力を沮碍し、因つて以て英國に對する彼の惡意に幾分の満足を與へんが爲めなりと。而して獨逸に對する前述の罪狀認定に因りて生じたる英國の惡感情は、其後前段に引用せるルーズヴェルト氏の電文によりて、其嫌疑少しく露れたるに拘らず、尙全く消滅せざりしなり。

米國大統領より獨帝に對する返電の正文は、八月三十一日他の餘り重要ならざる電報と共に、倫敦タイムスの紙上に掲載せられしが、この日に於て右電文はさほど特別の注意を喚起せず、タイムスも此事に就きては、別に論説を掲げざりき。而して英國の新聞紙は、孰れも申合せたる如く、此電報を見て一同沈黙の態度を執り、露獨兩帝の會見に關する前日の非難に就き、何等再論する所なかりき。スクテートルの如きも、予が此文を草する迄には、獨帝の平和盡力に對するルー

ズヴェルト氏の證言に就き、毫も論及する所なく、又電文の公表少しく遅かりし爲め、九月發行の英國各雜誌は、此種の評論を掲ぐる遑なかりしが如し。然れども今や吾人は、獨帝が講和談判の進行中に於て、極めて眞摯なる態度を執りし事に就き、約四週間も研究すべき時日ありたる事なれば、十月の各雜誌には必らず此事に就き、何等かの評論を掲ぐべく、殊に重要な數雜誌、例へば國民評論の如きは、十月號にて前日に掲げたる邪推の事實を取消す事ならんと信ず。又英國の新聞紙の論調は、今回の事件に因り今後稍慎重となるべく、同時に個人的偏見により、英獨兩國の交情に影響を及ぼす如き議論は、其掲載を見合はするに至るべし。而して若し如上の願望にして、能く成就し得べしとせば、我英國の言論界に於ける一般の調子は、實際上に於て兩國の國交上に至大の便利を與ふるに至るべし。空想に據らず、明確なる事實を根據として、見解を立つる人々には、獨逸の態度を了知すること、必らずしも困難にあらず。即ち獨逸の態度は、大略以下の如く述べらるを得べし。

獨逸は極東に於て、戦争の長く繼續するを悦ぶ理由少しもなし。一方に於て獨逸

は、日本の擊破せらるゝを悦ばざると共に、又他の一方に於て露國が獨立國民としての名譽を失落するを好まざりき。他の諸列強國と等しく、獨逸の政策は時々刻々起り來れる問題に従ひて其方針を定めたるに相違なきも、當時獨逸は何事に關しても葛藤を生じ居らず。又葛藤を生ずる原因をも有せざりき。尤も佛國は、モロッコに於て開放せる門戸を閉鎖せんと企て、これが爲め獨逸は英佛協商の或條項に反對したる事あり。但し獨逸は毫も英佛協商其ものに反對したるにあらずして、外交上の關係に於ては、英獨の間は過去現在共に極めて親善の状態にありき。然れども通商上に於ては、獨逸は世界各商業國の競争者たるが如く、亦英國の競争者たるを免れず。然るに日英同盟の新協約は、門戸開放を日本通商上の根本主義となしたるを以て、獨逸は非常に此協約に満足の意を表せり。蓋し同國は、極東に於て全然政治上の野心を有せざればなり。

予の見解を以てすれば、獨逸は山東省に於ける自己の根據地を土臺として、十分に獲得せる現在の政治的利權に満足して、これ以上其利權を急激に擴張せんとする野心を有せざるものゝ如し。獨逸が膠州灣を根據地として施設せんとする

所は、清國に於ける獨逸の商業的根據地を確立し、之に因つて對清貿易に幾分の利益を得んとするにあり。而して、かれ既に之を得たり。其結果彼は天上國(清國)に於ける現在の地位を以て十分に満足せり。獨逸は實に歐洲に於けるが如く、極東に於ても門戸開放の主義を宣言せり。之に反し、露國は疑ひもなく北清に於ける門戸を閉鎖して、自國以外他の列國に決して利權を均霑せしむる事なからんことを企てたり。獨逸は露國が斯く閉鎖主義を執るべきを見越し、膠州灣を占領し、露國の向ふを張りて、北清に於ける商業上の門戸閉鎖を阻止せり。斯くて獨逸はモロッコに於ても前述の手段を用ひたるが、英國外務省の對佛交渉は、これが爲め沮害せらるゝ事なくして、寧ろ幾分の助けとなれり。

扱て公平なる識者は、何人と雖、英國が獨逸と政治上なほ親善の關係を持続するの必要なるを認むべし。然るに此關係を持続するに最も大なる障害を與ふるものは、兩國の間に蟠まれる國民の惡意にして、この惡意たる從來兩國の新聞紙が互に相手國を嘲罵し、其非を鳴らしたるより生じたるものなり。尤も日露戦争の終結後に於て、獨逸新聞紙の英國非難は大に下火となれり。されば我英國新聞紙

もこれに對し其無益の罵詈を中止するの必要なること常識上より云ふも公正の觀念より云ふも爾かあるべき事なり而して英國の前途は今後なほ幾多困難の時機に遭遇する事多かるべきを以て若し大なる損害を蒙むる事なく此等の困難を切り抜けんことを欲せば獨逸と親密の關係を維持するを大なる利益とすべし。尤も獨逸國民及び獨逸皇帝帝は外交上に於ては兎に角獨逸國民の權化とも稱すべき人なりが之が爲め立腹するなどは殆どあり得べくも思はれざれどさればとて新聞紙が罵詈攻撃を事とする間は英獨兩國間に前述の如き善親の關係を設定するは望むべからざる事なり。

又かの有名なるケナン氏はアウトロクに論じて曰く。

平和の天使は日本に橄欖の枝を持ち來さずして殺人劔を齎せり。九月五日ボーツマスに於て日露平和條約が締結せられたる此日に於て争闘は東京市街の巷々に起れり。即ち此日に於て國家の權力を代表せる警官と自ら人民の憤怒激昂の情を發表すと稱する暴徒との格闘は開始せられたるなり。翌朝に至りて衝突なほ息まず味爽數千の暴徒は街衢を占領し二新聞社は破壊せられ數百の人民

は格闘によりて或は慘死し或は負傷し内務大臣を暗殺し其官邸を燒棄せんとする計畫は再び演せられ終に外國公使館及び閣員の住宅を護衛せんが爲め近衛兵の派遣を見るに至れり。而して東京は隅より隅に至るまで市街一面の空は市街電車交番所及び私人家屋の燃焼する猛火の光に照らされて其色は赤く染めなされたり。以上はこれ平和成れりとの私報に接したる九月五日六日に於ける東京市の状態なりき。

想ふに今吾人が民情のこの異常なる爆發の眞意義を正しく評價しこの窮極の結果に關して豫め論斷を敢てするは恐らく其時機なほ早かるべし。然れども今溯及してその原因を探ぐるは必らずしも不可能にあらず。而して日本人民の不滿の巨浪は一應日本全國を隈なく洗ひ廻はりし後最後に帝都の街々に於て怒濤奔瀾と變じ激して紛亂無秩序の波と碎けたるが此不滿の巨浪に就き二三の推論を加ふる亦必らずしも不可能にあらず。按ずるに東京市に於ける今回の擾亂の原因たる第一には人民が平和條約に對して非常に不滿なりし事を擧げざるべからず。而して第二には東京市民が正當にして且つ秩序ある方法に

より、不満足の情を發表せんとしたるに際し、政府の官憲が之を沮得せんとて、不都合なる處置を敢てしたる事を擧げざるべからず。

日露兩全權が、ポーツマスに於て協定せる日露平和條約が、八月末日私信を以て日本人民に知れ渡りし時、彼等が此條約に非常なる不満を抱きたるは、これ理の最も賭易き所なり。東京に於て各戸の家は國旗を有し軒にイルミネーションの仕掛を有したるも、此講和條約の知れ渡りし日に於て、一の國旗も軒頭に翻らず、イルミネーションの燈光は、一も其點せられたるを見ざりき。人民は道路に相遇ふも平和の祝辭を述ぶるものあらず、號外揭示板の前面に立ち群れる人々は、幽鬱なる顔色を以て黙したるまゝ、ポーツマスの電報を讀み、讀み了るや陰氣にして不満足なる態度を示しながら、澁々歩を運んで揭示板の前を立ち去るなり。されどその際に當りて、人民には毫も憤怒せる姿は見えず、又激昂せる様も見えず。然れども能く、其真相を洞察すれば、東京全市の人民は、恰も滿洲の戰場に於て元帥大山の大軍が露軍に破られたりとの報道に接したるかの如く、失望し氣抜けして、悄然たる姿に見受けられたり。誰か日本が連戰連勝の後、歐洲に於

ける最大強國の一と干戈を交へたる此大戦争の終局を飾るに、光榮ある成功を以てしたりと一瞬間たりとも想到するものあらんや。寧ろ人は、日本人民の舉止態度より觀察して、此國民は敗亡、屈辱、及び不名譽を蒙むりたりとの想像を敢てしたるなるべし。

日本一般の國民が、平和條約に對して斯く落膽不満足の情を懷きたる所以の者蓋し其原因少なきとせず。今吾人は十分に彼等國民の暴行を評價せんが爲め、暫らく平和當時の事狀に就き觀察する所あらしめよ。

第一、日本國民は自ら信ずらく、日本は多くの辛苦艱難及び損失を蒙むり、悲惨なる二血戰を経て大勝利を博したり。今こそ吾人は、東亞に於ける露國の勢力を挫き、將來永く日本國民をして、安全の情を懷かしむる如き有利の平和條約を締結すべき、十分の權利を得たるなりと。而して日本國民は自ら斯く信じたるのみならず、又恐らく斯く信せざるを得ざりしなり。されば彼等は、苛酷の租税を賦課せらるゝも、何等不平の語を發することなくして能く之に従ひ、政府より發せられたる召集令には、悉く愉快を以て且つ熱心を以て之に服従し、自己の良人、愛子

及び兄弟を快く戦場に送り出して、或は奉天の前面に、或は旅順口塞壁の下に、自己の愛すべき人が、戦友數萬と共に戦死するも、敢て之を遺憾なりとせず。若し又なほ數年間戦争を繼續する必要あらば、彼等は悦んで産を投じ、艱難を忍び、辛苦に甘んずる覺悟ありしなり。然れども彼等は其究極に於ては、必らず光榮ある結果を結ぶべきを豫期し、又恐らく斯く豫期するの權利を有したるなり。彼等は今後再び露國と干戈を交ふる事を欲せざりしのみならず、日本は決して再び斯かる好良なる状態の下に、露國と戦争を開始する事能はざるべきを覺知し得たるなり。而して東亞に於ける露國の蠶食的態度に對して、若し一の永久的防禦壁を建設すべき時期ありとせば、今や正しく之を建設すべき最良の時期なるを感じ、若し露國にして斯かる防禦壁の建設に故障を挾まば、日本人民は實力を以て之を建設すること必らずしも不可能にあらざるを感得したり、又日本人民は、多くの有力なる艦隊の根據地として使用するを得たる、一の要塞港を露國の手中に委するを欲せず。又露國に西伯利亞鐵道を複線となす餘裕を與へ、露國をして内地に於ける自由的改革運動を壓服するの力を得せしめ、又露國をして捲土重來、

再び滿洲に侵入するを得しむるは斷じて彼等の好まざりし所なり。日本人は少なくとも太平洋に於ける露國の海軍根據地を奪ひ、斯くして彼を到底日本の沿海を窺ふの實力なからしめ、以て島帝國と亞細亞大陸との交通を永劫安全にす事希望し居たるなり。

第二、日本國民は信ずらく、日本は露國に對して償金を要求し、強取するの權利を有すと。而して斯くの如きは彼等の自ら信じたる所なると同時に、又英國及び米國の新聞紙の議論を読んで、斯く信せざるを得ざりしなり。戦争は彼等の有利に歸し、彼等は愈、戦局を確實なる勝利の圏内に運び入れたるなり。茲に於てか、彼等自ら思へらく、日本は今や訴訟に勝ちたる裁判被告人の地位にあり。訴訟費用を相手方に要求するは當然の權利なりと。

第三、日本人の名譽心及び愛國心は、樺太の半部割譲によりて深く刺激せられたり。按ずるに樺太は、元と彼等の版圖に屬したるが、往時其國力なほ未だ微弱なる時に於て、無慘にも島は彼等の手中より奪ひ去られたるなり。而して、今此時彼等は腕の力を以て再び之を手中に回復せり。然るに彼等は何故に今其回復せる

樺太の半部を露國に割讓せざるべからざるか。又何故に勝利を得たる彼等は、自ら好んで自己を敗北者の地位に置き、今後一層不利を蒙らざらんが爲め、自己の資産の一部を抛棄せざるを得ざりしか。露國の名譽及び其國民的威嚴を尊重するは、日本の名譽及び其國民的威嚴を尊重する事よりも、果して必要なるか。又斯くの如きは、果して價值ある事なりや。思へ、日本は今や強盜の手より自己の所有物を回復しながら、今其強盜が其財物を取戻されては、我名譽と威嚴とが滅茶滅茶に損傷せらるゝを奈何せんと宣言したるの故を以て、其財物の半部を割讓するに異ならず。且つ日本人は自ら信すらく、樺太の分割は、將來紛紜の種子を播くものなり。何となれば樺太の半部を露國に與へたるは、これ他日、露國が再び戰國準備を整へ得たるの時、更に戰爭を開始するの口實を作る餘地を相手方に與ふるものなればなり。

最後に日本國民は、ポーツマス平和會議の前後、及び其間に於ける露國政府の態度に就き、大に憤激の情を懷きたり。露國外務大臣が自ら卑下して若し日本にして異議なくんば、我露國皇帝は主義に於て毫も平和問題に反對するものにあら

すと宣言したる當時より、近くウキツテ氏が露帝に打電して、日本は陛下の要求に屈從せり、露國は極東に於ても依然として強國たるべしと奏上したる日に至るまで、露國は常に馬鹿らしき放言を以て、日本を激せしめ、單に表面上日本をして露國の膝の前に歎願者たるの態度を取らしめんとせり。これ子供らしき虚飾なり。誰か此虚飾に欺かれんや。然れども日本人の感じ易き威嚴の膚には、此放言に接して鋭ぎき毒麻の棘が身を刺す如く感じたり。

以上述ぶる所は、簡單ながらも平和締結の私報に接したる當時に於ける日本人の大多數の思想、及び感情を略説せるものなり。されど、若しも新聞紙即ち政府を辯護し、輿論の指揮者たる人々にして、媾和條約に満足の意を表せば、國民は内心甚だしく落膽しながらも、なほ表面には平和に満足して條件に甘んずる事を得たりしならん。然れども實際の事實は然らざりき。一般に現内閣の機關紙として注目せられたる國民新聞は、日本全權委員の處置を辯護し、戰爭の目的は十分能く貫徹する事を得たりと確言したるも、東京に於ける他の新聞紙即ち朝日、東京日々、讀賣、日本、萬報知、二六及び都は、一齊に筆を揃へて論じて曰く、媾和條件は

屈辱的なり。日本の譲歩は、日本をして終に卑怯者とならしめ、同時に不名譽極まる降伏者たらしめたり。政府は露國の指令に屈從せり。國民が斯く大なる奮闘をなしながら、斯くも不満足なる結果を見るに至れるは、歴史上未だ曾て他の國民の經驗せざりし所なりと。帝都に於ける新聞記者は、集會所たる同志記者俱樂部に於て宣告して曰く、戦争の目的は忘却せられたり、帝國の名譽は地を拂へり、此重大なる過失に對しては、現内閣は正に冠を掛けて退隱すべき責任ありと。次に社會、政治界、及び商業界に於ける輿論の指導者が發表する意見は、新聞紙の言論に比して更に稍、慎重なるものあり。然れども彼等は、なほ新聞紙同様、媾和條約に不満足の意を表せり。第一銀行頭取にして東京商業會議所議員たる澁澤男爵は、今回の平和によりて日本國民は益、將來有望となるべきを認められたれども、而も樺太の分割は、特に悲しむべき事なりとなし、又戦争の目的は達したれども、政府の外交は成功したりと稱すべからずと述べたり。元と樞密院議長にして目下政友會の總裁たる西園寺侯爵は、今回の平和に對する日本全權委員の處置を辯護し、露國に對して宣戰を布告せる第一の目的、即ち朝鮮及び滿洲問題の解決に關

する目的は、能く之を達するを得たりと主張したるも、而も猶彼は日本が償金の要求を撤回し、樺太島半部の割讓を以て満足せざるを得ざりしは、實に遺憾極まる次第にして、民衆が此點に關して政府の外交手腕を激烈に批難するは、理由なき事にあらずと論じたり。又進歩黨は、九月二日黨員の集會を開き決議して曰く、我黨は今回の媾和條約を以て、戦争の目的を無視せるものと認む。實に同條約は國民の希望に反し、帝國に未曾有の汚辱を與へたるものなりと。又曾て總理大臣及び外務大臣の印綬を帯びたる大隈伯は、媾和條約の尙公表せられざる間に於ては、確然責任ある意見を發表せざりしも、而も彼は尙國民が政府の失策の爲めに豫期せる收穫を奪ひ去られたりとして、不平を鳴らすは無理からぬ次第なりと述べ、且つ露國は滿洲より撤退すべき義務を負ひたれども、此點は日本とても同様なり。露國は東清鐵道を拋棄したれども、なほ其大部分を留保せり。韓國に於ける日本の優越權は承認せられたりと雖、斯くの如きは畢竟日本將來の外交政策に對して、韓國主權に一指を染むべからずとの制限を附するに異ならず。簡單に云へば、媾和條約は今回の戦争を惹起するに至れる露國の詭計に對し、今後なほ

繰返して演すべき餘地を殘せるものなり。其十年を經過せる後に於て再び戦争の開始せらるべきを恐るゝは、大に根據ある憂ひにあらずやと論じたり。東京市長尾崎行雄氏も、日本國民は永遠の平和を獲得せず、將來再び戦争を開始するに至るべきは、理の最も容易き所なりと述べ、進歩黨政務委員鳩山和夫氏の如きは、斯かる平和條約を締結せる内閣に對して、絶對的に反對の態度を取る政策には、予は全然之を援助すべしと宣言し、非戰主義の谷子爵すら、今回の平和條約を非難し、帝國大學及び早稻田大學の教授連、又媾和反對の團體を結び、東京の新聞紙の各欄は内閣を攻撃し、ポーツマス平和條約の批准拒絶を勸告する投書を以て満たされたり。地方に於ける激昂憤怒の情は、矢張り東京に於けるが如く大なりき。平和成立の報を得て、劈頭第一に媾和反對の大集會を開きたるものは地方なり。例へば、帝國第二の大都會たる大阪市に於て、人民の各階級を代表する五千人の有志は、其落膽不滿の情を發表せんが爲めに、日曜日(九月二日)を期して公會堂に大集會を開催せり。大阪市會議長三谷氏其集會の議長となり、大阪市役所の高級吏員日野氏は、其決議案を朗讀せり。決議案の要領に曰く、第一閣員及び元老は

媾和の失態に對して責任を有す。宜しく當然自ら處決して罪を闕下に奏し、且つ國民に謝罪すべし。第二、平和條約を破棄して、戦争を繼續せざるべからずと。次に彼等は米國なる小村男爵に打電して曰く、閣下の今方に調印せんとする平和條約は、國民一般の承認せざる所なり。閣下須らく直に條約を撤回すべしと。同時に彼等は滿洲なる大山元帥に打電して曰く、帝國の人民は内にありて屈辱的平和條約の破棄に努力すべし。閣下願くは、閣外にありて戦争を繼續し、續いて敵を粉碎せられん事を望むと。

新聞紙、上流社會の有力者、及び地方の國民大會既に斯くの如き大激論を吐く。帝都に激憤の暴風雨起るべきは當然の事にして、豫め之を觀取する必らずしも難からざりし所なり。此時に於ける日本人民は、恰も自國の全權委員に裏切りせられたる如く感じ、且つ彼等は今回の戦争によりて業に已に多くの損害、辛苦悲哀を蒙り居れるに、政府の薄弱なりし結果、又々戦争を近き將來に於て開始せざるべからざるを想うて、切齒扼腕、悲憤の涙に暮れたるなり。

然れども若し政府にして、此批評的時期の間に、新聞紙、及び人民をして、内々秘密

の相談に與からしめたらんには、若し又政府にして國民に媾和條件の概要を報告し、以て讓歩の理由を説明したらんには、若し又政府にして新日英同盟の締結を公表し、以て新同盟は露國の侵略を沮止し、將來の平和を確實にする效力ありと説明したらんには、民衆憤激の情も或は幾分か宥められたるべく、且つあらゆる騷擾は、或は幸ひに事なきを得たるやも知るべからず。然るに不幸にも、現内閣は斯かる手段を取るだけの伎倆を有せざりき。彼等が民衆の「不満足なる高潮を堰き返さん」として取りたる處置は、會以て氾濫せる洪水の暴力及び破壊力を増大せしむるに過ぎざりき。即ち政府は賢き説明の方法を以て、民衆の憤怒を宥めんとは企てず、却つて腕力を以て民情を壓迫し、絶滅せしめんと決心したり。九月三日より四日に亘りて、聯合同志會は檄を飛ばして、火曜日(五日)國民大會を日比谷公園に開き、以て屈辱的平和の反對運動を開始すべき旨を傳へたり。五日早朝、安立警視總監は内務大臣よりの訓令を受け、聯合同志會の首領株を招いて宣告して曰く、警視廳は日比谷公園の集會を禁示すと。而して後刻に至り、總監は多數の警官を日比谷公園に派遣して其入口を扼し、公衆の園内に入りて集合す

るを防止したり。然れども此壓迫手段は孰れの點より見るも不都合なり。先づ第一に日比谷公園は人民の遊園地にして市廳に屬し、内務大臣又は警視總監に屬するものにあらず。故に彼等が擅に之を閉鎖するが如き、單に人民との衝突を醸すの原因たるのみならず、又市役所との確執を惹き起す恐れありき。第二に國民大會の計畫は、少しも不正當なる企てにあらず、且つ不平ある者に對しては、其口を箝するよりも、寧ろその不満を訴ふるの機會を得しむるこそ善良にして、且つ安全なる方策なれ。若し集會にして無秩序に流れ、若し又聯合同志會の演說者にして暴行を懲應せば、其時始めて警官の干渉を必要とすべし。然るに警官は正當なる方法を以て行動する平和の市民に對して腕力を用ひたり。竟に賢明なる處置と云ふべからず。公園の入口閉鎖せられたりと聞くや、東京市長尾崎行雄氏は内務大臣を訪問して抗議を申込み、若し出來得べくは速に此不正備なる命令を撤回すべき事を求めたり。斯かる間に二萬五千乃至三萬の群集は、公園の周圍に群がり來れり。然れども最

初彼等は静穩にして、且つ秩序整然たるものありき。尤も此際に於ても、彼等の精神は昂奮し居れり。されば若し他より些少にても刺戟を受けなば、直に爆發すべき状態にありし事、これ看取するに難からざる所なりき。果然他よりの刺戟は來れり。警官は構和を弔ふと書せる二三旋の旗幟を民衆の手より奪へり。茲に於てか、衝突は起らざるを得ず。衝突は間もなく格闘に變じたり。未だ五分間を出でず、激昂せる民衆は帝國ホテル側より園門に押し寄せ、木柵及び鐵柵を引き倒し、大に叫喚怒號しつつ公園の内部に練り込みたり。而も警官全く之を制止する能はず。大會委員の面々は此機を外さず、公園の中央に近き新造グラウンドを選んで集會を開催し、構和反對戦争繼續の決議案を可決せり。此時警官は著しく増援せられたるを以て、直に民衆を公園外に驅逐せんとしたるが、此處置は再び民衆と警官との間に格闘を開かじめ、嗚り狂へる暴徒は、二時以前に於て既に到底制止すべからざる程優勢となり、今や彼等はインスピレーションの刺戟によりて行動し、其精神は最悪最下の分子の指導する所となりて、各所を暴れ廻るに至れり。

斯くて激昂せる群集は、人波打つて公園を流れ出で、公園と銀座街との間は、悉く人を以て埋められしが、彼等は直に群をなして、政府の機關紙たる國民新聞社を破壊せんが爲め其方向に進み行けり。同社の編輯記者は此襲撃に對し、防禦甚だ努めたるが、最後に力負けて社外に驅逐せられ、暴徒は進んで窓壁を打碎じ、活字盤を顛覆し、輪轉機を破壊せんと企てたり。又一面、内務大臣官舎の前面に群り居りたる暴徒は、官舎の敷地内に闖入し、建築物の一部に火を放てり。此間に拔身の劍を掲げたる決死の志士四五名、大臣を殺さんとて家屋の内部に入り込み、企てたるも、却つて切り下げられて警官に捕へられ、火災また鎮定して官舎は間もなく静穩に歸したり。然れども、暴徒はなほ市内の巷々に於て、警官及び憲兵と格闘を繼續し、黄昏の頃再び内務大臣官舎を襲撃し、官舎の外側を繞らす墻壁に沿うて建てられたる小屋及び二三の建物に火を放ちたり。

今や政府は、民衆の憤怒が主として文官及び警官を對象とするものなるを觀取し、茲に此等を鎮壓せんが爲め近衛兵の力を借る事に決定せり。而して内相芳川子爵の官宅が尙然焼しつつある間に、武装せる軍隊は外國公使館及び各大臣の

家屋を保護せんが爲めに派遣せられたり。然るに軍隊の顯はるよを見るや、暴徒は恰も一の規則を遵奉するかの如くに其附近を立ち去り、或場合に於ては、寧ろ歡聲を發して兵士に挨拶をなしたる者すらあり。然れども警官に對しては、依然として舊の如く激昂の態度を改めず、頓て彼等は五百人乃至一千人の小團體に分れ、東京市の各方面を襲撃して交番を破壊し、警察署に放火せり。されば此夜十二時、若し帝國ホテルの屋上に上りて眺むれば、優に十三個所より立ち昇る火の手を數ふる事を得たるなり。秩序なき争鬭は夜を徹して點々各所に繼續せられ、翌朝太陽の昇るや、百餘の交番及び警察署は、跡形寂しく灰燼に歸し居たるを發見せり。然れども彼等は、敢て外國人の家屋資産を破壊する事なく、唯矮少なる基督教會數棟に放火したるのみなりき。尤も人力車夫は此騒動を利用して、電車十數臺を燒燬して、電車軌道に損害を加へんとしたるも、これ單に商賣敵の一念よりして企てたる暴行に過ぎずして、敢て他意あるにあらず。斯くて兩日の争鬭により、不慮の災難を蒙むれる者、約一千名の多きに上り、右の内十一名は死亡し、五百四十七名は負傷し、判事檢事にして傷を受けたる者あり。又市民の内四百五十

五名は重傷を蒙れり。然るに警官は、一人も傷を受けたる者なし。冷靜に此不幸なる出來事を觀察するに、吾人は先づ第一に、今回の騷擾は閣員及び警官に對する暴行にして、決して外國人に對する者にあらずる事を記憶せざるべからず。米國にては東京より基督教會燒燬せられ、ハリマン氏一行襲撃せられたりとの電報を得て、私かに思へらく、日本には拳匪蜂起せりと。又思へらく、大統領ルーズヴェルト氏日露兩國を媒介して、日本に不利なる媾和條約を締結せしめたるを以て、日本人に米國を憎み、遂に暴行を起すに至れりと。然れども米人の斯く思考するは全然誤解なり。成る程、基督教會堂は燒燬せられたるに相違なきも、能く吟味すれば、此等教會堂の日本人牧師、少なくとも二三回政府を謳歌し、平和を讃じて彼等の不興を買へる事實あるを發見すべし。即ち彼等は一般の基督教會を憎める者にあらずりき。又ハリマン氏一行中のライル博士が、途上暴徒より投石を蒙りたるは事實なるも、よく真相を探究すれば、斯くの如きは獨りライル博士が米人なるの故を以て蒙りたる災禍にあらずして、此際苟くも暴徒の通路を人力車にて横切らんと企てたる者は、何人と雖、此災禍を蒙りたること疑ひなし。何

となれば若し暴徒にして、排斥思想を抱懐したる者とせば、彼等は公使館の前面に至りて示威運動をなしたるべく、又帝國ホテルを襲撃したるならん。蓋し帝國ホテルには當時多くの英米人宿泊し、其位置は紛擾起りし日比谷公園を去る僅に一百碼の距離にありたればなり。騒擾の後、予は人力車を驅りて市内各所を巡視したるが、遂に何等の迫害を被らず、又何等の侮辱をも受けざりき。否、寧ろ却つて庶民より不必要なる程鄭重の待遇を受けたること屢なりき。

第二、今回の騒擾は日本文明の程度、及び實質に何等の關係を有するものにあらず。按ずるに、如何なる國に於ても暴徒の亂行なるものは、必らず野蠻的行動に出づるを常とし、此點は英米とても同様なり。然るに若し日本に今回の騒擾起りたりとて、日本の文明を皮相なりと云はゞ、英國米國も亦其文明は皮相なりと云ふ事を得べし。回顧すれば、一八六九年、倫敦市民は選舉權擴張を維持せんが爲め、政府に對し平和的示威運動をなさんとて、ハイド公園に集合せんとせしが、時の政府は之を沮止せんと企てたり。然るに市民之に抵抗し、恰も東京市民が日比谷公園に於てなしたるが如く、彼等は終に外柵を引き倒し、ごや／＼と公園内に練

り込みたり。又彼等は東京の暴徒の如く、警官と争闘せり。騒擾次第に猖獗となりて、制し難きに至るや、終に軍隊の派遣を見るに至れり。更に予の生國たる米國を見るに、若し此種の騒擾起りたるの故を以て、國家文明の程度を測定し得べきものとせば、吾人は恐る、米國文明の度合は日本文明以下の階級に位せん事を。何となれば米國各市に於ては、屢、暴徒蜂起して惡魔の如き蠻行を演じたること屢なればなり。普く海外の事情を知り、且つ米國の新聞紙を讀みたる者は、世界中未だ曾て米國の如く暴徒に都合好き土地はあらざるべきを感得すべし。然れども吾人米國人は確に文明國民たるに相違なく、吾人米國の文明は決して皮相のものにあらざること、これ毫も疑ひの存せざる所なり。果して然らば、吾人は何故に白人種の出來事は同じ標準を以て評價しながら、獨り日本人に對しては、他の標準を以て之を評價せんとはする。これ斷じて、不都合なる觀察にあらずや。

第三、日本に於て今回騒擾を惹き起したる程の原因あらば、世界中如何なる文明國に於ても、必らず紛亂は起りたるならん。予は日本に於ける今回の暴行を以て、是なりと認むる者にあらず。又日本人の觀察は正當なりと信する者にあらず。

唯子は媾和條約に對して日本人が如何に激烈なる不滿憤怒の情を有するかを説明せんと企つるに過ぎず。事の善惡は兎に角日本人はポーツマスの平和によりて自國の犠牲として喪失したる所の者に對し、正當の代價を得ざりしを想ひ、又戰爭は勝ちたれども露國侵略の危険は依然として存するを想ひ、且つ露帝及び其官僚が今後なほ二三十年間も其絶對無限の專制權を持続せば、露國は西伯利亞鐵道を複線となじ、陸軍を改革し、浦鹽斯德に新艦隊を派遣し、日本は之が爲め餘儀なく莫大の經費を投じて、戰闘準備をなさざるべからざるに至るべきを信じたり、而して騷擾當時此感情が日本全國人民の各階級を通じて善く行き渡り居りしは、確に疑問の存せざる所なり。長崎、大阪、京都、神戸、横濱、札幌、新潟、其他各地の都邑より來たる通信は孰れも人民が三千、五千、六千若くは三萬餘名集合して、媾和反對の大會を開催せるを報じ、帝國各部に於ける個人團體集會より東京各新聞の編輯局に集中し來れる報道は、孰れも各種の請願、若くは決議に關する通信を齎せり。予は屢、日本の社會、政治、實業、及び軍人社會に於ける上流の人々と會談したる事あるも、未だ

會て平和條約に満足の意を表したる者、一人も其間に發見する能はざりき。彼等は總て事態既に斯くなりし以上は、條約も批准をなさざるべからず、又日本は今の状態の儘に於て、出來得るだけの手段を盡くさざるべからずと唱へたれども、而も猶彼等は信すらく、政府はポーツマスに於て、餘り多くを讓步せり、又政府が人民不滿の情を發表するに際し、之を沮止せんと企てたるは、重大なる過失なりと。東京に騷擾の起りし翌日、政府は市内に戒嚴令を布き、朝日、日本等四五の新聞紙に發行停止を命じたり。想ふに政府は其等の新聞記者を以て、破壊的、若くは煽動的の危険分子と思惟したるが爲めならん。起えて數日、横濱にも小規模の騷擾起り、竟に軍隊の派遣を見るに至れり。然るに十二日以後は騷擾全く國內に其跡を絶てり。されば媾和條約にして若し批准せらるゝの曉は、民衆憤怒の情は漸次消滅することならん。尤も人民中には、今なほ多數の人が舉つて激烈なる抗議の聲を揚げなば、批准は拒否せらるゝに至るべし。この觀念を懐ける者あり。然れども彼等にして、若し此運動の效果なきを認めなば、彼等は全く沈黙して詮方なしと諦むる事ならん。されど、民衆は決して屈辱的媾和に對する現内閣の責任を忘

却する者にあらず。若し政府が次期の帝國議會に於て、彼等が十分満足する程の説明を與へずんば、内閣の更迭を惹起するに至るべきこと、殆ど疑ひを容れず。既に西子及び島津子を棟梁に戴ける貴族院の或團體は、實際内閣に辭職を勸告したる程なり。桂伯及び其同僚は、尙上御一人の信任を有する以上、其運命は安全なるが如くなれども、事茲に至らば、彼等人民は、閣下に現内閣を彈劾すべく、随つて彼等閣員の地位は、其根柢薄弱にして、活動力を滅殺せらるるに至るべし。予の見解を以てすれば、若し大統領ルーズヴェルト氏にして、目下差し迫れる次期の戦役の終了するまで、其平和會議の提案を延期したりせば、そは日露兩國双方の爲め最も好都合なりしならんと思はる。何となれば、大山元帥は、恐らく其時リネウイチ將軍の軍を撃破し、また露國の自由黨は、此期に乗じて眞の勢力を獲得したるべく、兩々相俟つて眞に永遠の平和を見る事を得たるべければなり。然るに事實は之に反し、露帝及び其官僚政治は、艱難及び戦争の災禍より身を脱し、彼等が以前國內の自由黨に許容したる影の如き、空漠たる自由の讓歩すら、今や之を撤回し得るに至り、之に反して日本人は不利なる平和締結の結果、當然來たる

べき次期の戦争を憂慮して、心中は不満足の情に滿されつゝある有様なりと。媾和條約反對不滿の爲めに起れる騷擾に關しては、世界列強の評論少なからざるなり。

華盛頓スターは曰く。

今回東京に於ける騷擾事件が、特に米國人に對し、不安不快の感を與へたるは、蔽ふべからざるの事實なり。蓋し過激派が以て不名譽と看做す平和の成立に對し、米國が力を盡したる所ありとて、米國人民に痛激なる攻撃を加へ、米國に對し暴言惡聲を放ちたる者あるを以てなり。此際日本の眞友なる者は、須らく此等暴戾なる愛國者の惑ひを解くを以て其任となすべきなり。

紐育タイムスは曰く。

日本國民は、和議の成立に關する大統領ルーズヴェルト氏の盡力を誤解せるもの如し。現に暴徒の所業を見るに、歴然として米國に反對の氣風あるを見るべし。彼等は米國教會堂を焼燬し、ハリマン氏等を威嚇せり。思ふに此暴舉は米國の公平無私なる事實を認識せざる惡結果の發端たるべく、今後數年間當國と日本と

の關係に困難續發すべきを豫想する者多し。東京政府の要部は、大統領の斡旋が日本を益せる事頗る大なるを知悉せり。此際日本政府は、大統領が其居中斡旋の勢を執りたるに當り、交戦國の孰れをも特別の友とせず、双方及び人道を友として行動せるの事實を全國に周知せしむる事を要す。

獨逸フオッシュエツアイツングは曰く。

戰爭中、日本國民は克く舉國一致の實を現はし、且つ熱誠を以て財政上の負擔に耐へ、因つて以て世界の稱讃を博せしに、今や事相は全く一變せり。外交不十分なりとの妄説は、不體裁にも外國人に對する憎惡の情を勃發せしめ、群民をして甚だじき暴行を取てせしむるに至り、兵力を以てせざれば秩序を保ち難きの狀を呈じ、内閣は將に危機に接せんとするの觀あり。此くの如きは日本帝國の名譽を増進する所以なりと云ふべからず。媾和談判の結果にして、咎むべきものあらん乎、日本は立憲國なるが故に、暴動暴行以外別に方法手段の執るべきものあり。戰爭中克く自重して今日に至れる國民は、媾和に際しても亦冷靜以て事の是非を判斷するの明あるを表彰するを當然とす。抑も日本の媾和全權委員が、更に良好

なる條件を以て和議を締結し得たりや否や疑ふべし。蓋し露國は償金を仕拂はんよりは、寧ろ續戦せんと決意せしならん。今日迄の處、日本は自國の權利及び列國間に於ける其將來の地位の爲めに戦へり。而して政治上、其目的とせるものは、之を獲取し得たり、然るに金錢の爲めに續戦せんか、更に數萬の健兒を犠牲とせざるべからず。况んや今後の戦役も、亦必らず日本の勝利に歸すべしとは、何人も豫言し得ざる所にして、萬一同國にして敗戦せば、其位置極めて不利となり、既得の利益をも失ふの虞れあるに於てをや。露國皇帝が媾和條約の締結に同意せられたるの事實は、之のみにても日本に取りて重大なる形而上の勝利なりと云ふべし。且つそれ日本の公衆は、媾和條約の結果たる利益を重視せざるが如し。固より提出條件を擧げて露國に承諾せしめたりしならんには、これ日本に取りて勝利たりし事疑ひを容れずと雖、露國の恥辱たる此くの如き條約は、更に戦端を啓くの危険を胚胎する者と云ふべし。吾人はポーツマス條約に關し、僻見を交へざる議論の漸次日本國內に行はるゝに至らん事を希望せざるを得ず。今回の條約に對する不平の鎮靜に歸する事愈速かなれば、世界が日本の謙徳を認むる事愈

深かるべし。刻下日本國民は、武の得たる所、文之を失へり。とて憤懣に堪へざるの情あるべし。雖今回の條約が續戰に依つて收得すべきものより、更に多大の効果を生ずるの日や、期して俟つべきなり。

伯林ターゲブラット新聞、伯林取引所新聞、及び其他の新聞もまたフオンジエツアイツングと略、同一の論調を以て、東京其他各所に暴動起り、人命及び財産の損害を見るに至りたる事實を非難し、此くの如き事あるに於ては、從來世人の賞讃を博したる日本の文明は事實疑ふべく、露人に適用せらるゝ批評として、世人の熟知する警語は、之を以て日本人にも適用し、日本人は皮膚を去れば野蠻人なりと言ふ事を得べしと述べ、且つ大要左の如く論じたり。

日本人は、日本が今列國の間に收め得たる無形の大成功を全く忘却せる觀あり。群民及び革命的示威運動、果して勝を制し、ポーツマス條約破棄せられんか、日本の威信は爰に零没すべし。然れども此くの如きは杞憂に屬す。何となれば日本政府は強硬の態度を以て、一切の反對運動を鎮靜せんとするの意あるや、人の信じて疑はざる所なるを以てなり。吾人は日本國民が、其新に獲取せる地域に於て平

和事業を經營せる結果、今回の媾和が武の得たる所、文之を失ひたるものにあらざる所以を諒得するに至らん事を希望せざるべからず。

桑港クロニクルは、其社説に於て騒擾を論評して曰く。

日本國民の大部分が、今回の平和條約に不満足なるは動かすべからざる事實なり。其結果、東京及び其近縣諸市に現内閣反對の民聲起り、終に騒擾爆發して人命殺傷せられ、家屋破壊せられたり。加ふるに樞密院議長伊藤侯は、途上に暴徒の擁撃を蒙り、首相桂及び媾和全權小村男の住宅、また襲撃せらるべしと脅迫せられ、現に内務大臣官邸は放火せられたり。而して警官は之を鎮壓する能はず、終に陸軍豫備兵を召集するの已むを得ざるに至り、公然媾和條約を非難したる新聞紙は、發行停止を命ぜられ、東京は全市を擧げて戒嚴令の下に置かるゝ事となれり。又東京訪問の米國人は、公道に於て暴徒より石を投せられ、終に軍隊の保護を受けざるを得ざるに至れり。

右に就き、小村男は此騒擾を以て單に内政其宜しきを得ざりし所以に歸すれども、日本人全體が露國より償金を取る能はざりし爲め落膽し居れるは争ふべか

らざる事實なり。尤も小村男は、媾和條約の成立したる時、償金要求の撤回に關して、日本國民の不滿を買ふ事あるべしとは、豫め期したる所なり。オックスフォード大學卒業生にして、有名なる言語學者たるデトロクト市の坂上博士は、今回の騷擾を以て、日本人が一般に日本は媾和談判に關し、露國媾和全權に翻弄せられたりと思惟したるに、基因すと説明し居たるが、若しこの事の眞ならんには、日本人は全く今回の條約が眞に日本帝國の地位を安固にする所以を了解せざるものと云はざるべからず。何となれば、日本は事實に於て戦争開始の際獲得せんと豫期したるものより以上を、今回の條約に據りて收め得たればなり。而して若し日本が、今回の平和を破裂せしめ、頑固なる露國をして、尙二三年戦争を繼續せしむる事あらば、是果して日本に取りて、今日よりも有利なりや否やは、一個公然の疑問にあらずとせず。今回の媾和條約に因りて、廣漠たる平野は開放せられて、日本の來り商業的開發に従事せんことを待てり。而して日本は此有利事業を獨占せんとて、既に内々謀略を凝らしたるが、曾てモルガンの米國シンジケートが、清國をして強ひて粵漢鐵道敷設權を拋棄せしめ、之を自己の手中に掌握

したるが如く、日本は其謀略に據りて、首尾よく一の好結果を收むることを得たり。加ふるに日本は、此條約に據りて遼東半島に於ける露國租借權の全部を獲得し、合せて旅順口及び青泥窪に於ける露國政府の領有物は悉く之を收得せり。又日本は露國をして樺太の最も價值多き部分を割讓せしめ、且つ西伯利亞の沿岸カムサツカ半島沿岸及び白令海に於ける豊富なる漁業權を獲得し、なほ其外に露國軍艦の大部分を捕獲し、併せて露國俘虜の給養費を得る事となれり。而して其給養費は略、七千五百萬弗（一億五千萬圓）と註せらる。然るに日本國民は、戦争の繼續に據りて獲得し得らるべき勝利以上の勝利を、媾和の技術及び事實上の細工によりて、之を收得せんと欲したるが如し。されど彼等にして、終に媾和條約の眞價を了解するの日あらば、彼等は孰れも、予が以上列擧せる事實を悉く嘉納すると共に、満足の意を表するに至らん。

第二節 平和克復以後に於ける彼等の觀察

スオロウ通信員は、露國將來の政策に就き論じて曰く。
 強大なる邦國は海洋に出づるに自由にして、阻得なき土地を占有するに至るまでは、境界の確定せるものと云ふを得ず。これ一の原理なり。獨逸は北海に其港灣を有し、英國は大西洋に、佛國は大西洋と地中海に、何れも皆然らざるはなし。北米合衆國は兩大洋を兩翼に抱けるを以て、歐洲列強より好適の地位にありと云ふべく、而も此理由により、近き將來に於て、世界の政界に大立物たるの活動をなすに至るべし。

露國は其不幸なる戰敗と、之に伴ひし媾和條件の爲めに、絶東に於ける優勝の地位を喪ひたり。されど歐洲に於て此惡果を來したる冒險的行動を再びするは、決して策の得たるものにあらず。露國は唯將に軍事上に失ひたるものを商業上に回復すべきを以て満足すべきのみ。浦鹽斯德は一箇年數箇月氷結し、且つ其周圍に日本の監視あるを以て、固より以て日本の野心を抑制するに足るべき政治的價值なし。故に日露兩國の間に率直なる理解をなし、互に相親善するは露國の利とする所なり。支那領土の保全は、固より此理解の條項中に入るべきものにして、

因つて以て極東に平和を確立するは、露國が専心歐洲方面に活動を試みて、其舞臺に重きをなすに至るべき第一の行程なり。バルチック海の關門が何人に支配せらるゝも、こは露國の關する處にあらず。何となれば此内海は、露國の爲めには氷を以て蓋はれたる海洋たるの外、何等の價值あらざるを以てなり。故に早晩露國が、何處か南方に向つて港灣を求めざるを得ざるは、自然の數なり。此目的を達するに二途あり。一は波斯灣にして、他はボスフォラスなり。就中波斯灣を以て目的を達するに容易なりとす。蓋し波斯は國內統一を缺き、印度の陸軍は印度の防備を他にして、波斯に派遣せられ得べからざればなり。獨逸は露國がボスフォラスに手を着けざる限りは、波斯に於ける露國の行動を幫助すべく、之に反して露國にしてボスフォラスを得んとすれば、獨逸を當面の敵とし、且つ波斯よりは強力なる土耳其と開戦せざるを得ざるなり。英國は多分自動的の位地に立つべし。されど露國の爲めに計れば、ボスフォラスの占有を以て最優策とす。何となれば波斯灣に出でんとすれば、數千哩の外に出兵すること、恰も旅順口に於けるが如く、且つ英獨二國の競争の渦中に投ずるを免かれざるべければなり。

露國はボスフォラスに出づるの計畫を以て、英國に波斯の南部に於ける或利益を提供すれば、寧ろ平和的に成功すべし。此くの如くなれば、露國は日々に増大しつゝある獨逸の勢力に對して、スラヴ同族の運命を保護するの地位に立ち、歐洲に於ける獨逸の霸權を制するに足るべし。

露國が獨逸に信頼するよりも、英國を信頼すべき時期にある事は、十分の理由ありて存す。獨逸は今日の勢力なり、英國をして昨日の勢力たらしめ、且つ露國が大スラヴ民族の團體として、明日の勢力たらしめ、進運を妨害せんと試みつゝあり。的確に昨日の勢力たる佛國は、此獨逸の主義を了解し、依然露國の盟邦たる時に於て、早く已に英國と結べり。

アレキサンダー三世は、嘗て佛國と結びて獨逸を制するの策を實行せり。然れども爾來露國に於ては、明確なる外交方針を缺けるのみならず、スラヴ同族に對する義務を忘れたるが爲め、同族の諸邦國は盲目的無謀の舉に出で、以て一大失敗を招けり。今日露國にして獨逸の政策に乗せられ、強ひて波斯灣に出づることを敢てせんか、これ明かに英國と爭端を開き、佛國を冷遇し、埃太利、土耳其の、スラヴ

同族を、獨逸の野心の犠牲となすものなり。換言すれば、更に英國と日本との聯合軍と戰端を開くものなり。然も獨逸は、自家の利益を考へて中立するが關の山なるべし。

之に反して、兩個の二國同盟が更に聯盟して四國同盟となり、以て亞細亞、阿弗利加、濠洲の各領土の保護を目的とするに至らんか、露國は容易にボスフォラスに對する目的を達するを得べく、埃太利皇位繼承の問題起る事あらば、亦直に伊太利と埃國其他に於けるスラヴの同族を助くるを得べし。眞に此くの如くなれば、獨逸の帝國主義の爲めに破壊せられんとする歐洲の均勢は、再び其平衡を得て太平洋上の米國と相拮抗するを得べきなり。

然れども、此自然にして可能なる政策を行はんとすれば、先づ露國外務當局より、獨逸崇拜の風習と人物を排斥せざるべからず。然る後ウキッテ氏の如き眞正の政治家を得て、以て外交の衝に當らしめざるべからず。蓋しこれ日本との媾和談判より一層重大困難なるものなればなり。

タイムス伯林通信に曰く。

曩に獨逸内務省に勤務し、現時は統計局の官吏たるルードルフ・マルチン氏は、今回露國及び日本の將來と題せる一書を公にせしが、其所論は大に注目すべき價ひあり。日本に對する著者の態度は、時に黃禍の語により人を欺くものなきにあらざるも、大體は其政策を公正に世界に紹介するに止まれり。

此書の最も價值ある點は、露國の社會的、經濟的並に政治的發展に對する著者の創見にあり。其論に曰く、露國が極東政策に於て憐れむべき不均衡の狀態に陥りしは、主として獨逸の反目に基づく。此反目ありしが爲めに、露國は日本と開戦するに際し、十分の用意を整ふること能はざりしなり。今や亞細亞を主宰せんとし、若くはコンスタンチノープルの主公たらんとする露國の舊夢は、全然日本海の海底に沈み果てたるのみならず、内部の災害一層恐るべきものあり。蓋し露國の財政及び商業の將來は、全然農業の狀況如何によれり。然るに其一エーカーの土地は、獨逸のそれに比して三分一を生産するに過ぎず。然も本年の如きは、全然不作に歸したるにあらずや。露國が農業の改善を計り、其發達を求めんとするも、一千億馬克(五十億磅)の資本と一世紀、若くはそれ以上の歲月を費さずんば能はず。

若し現在のまゝにて進まんか、國民の八割五分を占め居れる農民は、不良の狀態より極惡の狀態に陥るべく、恰も十八世紀に於ける佛國と同じく、遂に革命の避くべからざるに至らん。償金を出して戦争を止むるも、依然戦争を繼續するも、何れにするも露國の破産は早晚宣告せらるゝに至るべし。

露國の歳計は來たるべき十箇年間に於て、六億馬克(三千萬磅)の缺陷を生ずべく、此缺陷は全然露國の金貨準備を蕩盡すべし。現在に於て、既に百七十億馬克(八億五千萬磅)を算する露國の公債は、五年にして二百五十億馬克となり、十年にして三百億馬克となり、三十年後には五百億馬克に増加すべし。事ここに至る。露國は公債の利子を支拂ふが爲めに、新債を起さざるを得ず。されど露國が十年乃至十五年の期間に於て、一ペンニーをも外國より借入るゝ能はざるは明白なりとす。

此場合に於て、露國の採るべき唯一の良策は、債務支拂の停止にあり。果して然らば露國は債權者の損失によりて自ら強くするを得べきなり。

農業の停滯と國債の増加は、歩一步革命の機運を進めつゝあり。此狀態をルイ十六世治下の佛國に比すれば、極めて多くの相似點あり。露國は到底革命と破産を

免るゝ能はざるなり。此際に當り、獨逸の最急策は、其露國に放資せる三十億馬克(一億五千萬磅)をば迅速に回收するにあるべし、而して此事を實行するには今日を以て好機となす。何となれば、米國が現時露國の財政に力を添へんとせる場合なればなり。先見ある用心深き人々は、必らず獨逸が露國の破産より生ずる紛亂の中に混入せざるべきを希ひ、且つ佛國はこれが爲め等しく財政上の破滅を來し、因つて以て二國同盟の永久に痲痺するに至るべきを望むべし。露國の營養器たるを免るゝは、又獨逸の英國に對する位置を強くするものにして、佛國が歐洲に於て孤立し、其植民政策を抛棄せざるべからざるに至るは、亦獨逸を利すること尠からざるなり。殊に露國に放下せる幾億の資金の回收せらるゝ事は、獨逸國民の信用を高むるものにして、かの海軍擴張の如き、容易に之を實行するを得べし。誠に斯くの如くなれば、獨逸は戦争の危険を犯すことなくして、其好むまゝに世界の各所に活動を試むることを得ん。されど亦平和と、平和に對する政策の此夢想を實現せしむるに、必要缺くべからざるものたるを忘るべからず。

露國の破産は、一時歐洲大引力の中心を巴里より聖彼得堡に移すべし。されど獨逸にして此紛亂の中より脱出し居らんか、最後の權衡は伯林の利益の方面に傾かん。獨逸の助力と、獨逸の贊同を得ざれば、露國は敢て印度侵略を企てざるべく、一方に於ては獨逸の伸張せる勢力は、歐洲の中原より、近東半島に及び、英國及び日本に對する重鎮となり、島帝國をして敢て歐洲を指揮するを得ざらしめん。若しそれ獨逸の政治上、商業上の關係を刷新し、改訂せられたる兩國の通商條約を實行するに於て多大の便益を見るが如きは、殆ど疑ひを容れざる處なり云々。以上の所論が、政府の官僚の手に成り、而も公然其名を署して發行せられたるのみならず、進んで獨逸經濟上の關係につき調査委員を選擧すべきことを當局に請求するに至りては、一層重要にして注意すべき事と云はざるを得ず。著者が詳細なる材料により、何等の感情を挾まずして之を述べたるものたるは疑ひなかるべし。吾人は日露兩國の再度の戦争、露國に對する獨逸の援助、若くは佛國財政上の責任につきて、敢て論者の言を是非せず、只我英國の位置政策と亞米利加の膨脹が、獨逸一點張の考慮によるも、猶不問に附する能はざる因子たるを認めし

と喜ぶ。

又スタチストは、戦敗の露國を侮るは危険なるを説いて曰く。

日露戦争の後を承けて、歐洲の諸國は今や將に長き平和の期に入らんとすとば、これ吾人の所論なるが、世人或は之に反し、露國の今日を目して日本のために全然其能力を破却し去られたりとなし、今後尠くとも數年間苟くも他國の侵略を蒙るにあらざる限り、漫に争鬪を敢てすることなかるべく、之がために大陸の國力均衡は、依然擾亂の状態にありて、早晚紛亂の基を開くべしとなす者あり。然りと雖、吾人を以て之を見るに、斯くの如きは、畢竟對手國の勢力を輕視するものにして、危険千萬の妄想なりと云はざるを得ず。露國の有する實際の戦鬪力を精細に吟味するは、商業上、政治上の見地よりして、共に極めて緊要の事なりとす。露國に反對する者、動もすれば財政の危険を説き、露國は過去數年間、年々巨額の外資を募り、而も其所得は外債利子の支拂に供せられたるが故に、其狀恰もかの浪費者の如く、僅に金貨の好意に依頼して餘喘を保つに過ぎずして、事實上支拂能力を有する者にあらずと速断せんとす。勿論、露國の負債は重大にして、年來佛

蘭西及び獨逸に募集したる公債は、大部分を舉げて利子支拂其他財政上の契約の爲めに巴里、倫敦及び伯林に留置しあるは事實なりと雖、之が爲めに露國は既に破産せり。或は今や將に全く破産すとなすは、過れるの甚だしきものと云ふべし。

露國は廣漠たる大國にして、天然の利源に富むも、開拓未だ遍ねからず、住民亦無智貧困なるが故に、其天資の地歩に縁り、世界に於ける其地位を保たんと欲せば、必らずや先づ其利源を開拓するを要す。露國政府も亦茲に見る所ありて、種々の失敗を顧みず、常に此方面に向つて進み、其借金政略の如きも、一は全く國富の開発を目的としたるにあらざるなし。且つ露國は、多年經濟變勢の大業に従事し、著しく社會主義的の國家となりしのみならず、尙廣大なる公共事業を興し、新産業の樹立を誘掖補助せり。露國の社會主義的經濟政策は誤謬にして、其鐵道敷設も多く軍略的の方策に出でたるが故に、此點に於ては露國の經濟政策に反對せざるべからざるも、此事は今暫らく之を措き、露國果して負債を償却するの力なきや否やを論せんに、精査の結果、吾人は斷じて露國に負債償還の力ありと云ふを

憚らず。勿論露帝にして、躊躇逡巡、其一度與へたる讓歩を撤回せんと企て、尙其破れ初めたる官僚政治の基礎の上に立たんとし、強ひて人民をして革命の已むを得ざるに至らしめば、吾人亦前言を固執するものにあらずと雖若し露帝にして其一度採らんとせる方針を持續し、爲政の良材を擧げて其耳目とするに於ては、露國の繁榮強大を否定すべき理由の存在を認め得ざるなり。翻つて顧みるに、殆ど凡ての後進國は、借金政略によりて其公共事業を建設せざるなく、合衆國の鐵道も借金によりて建設せられたるもの甚だ多く、英國植民地及び印度に於ける殆ど凡ての鐵道も亦均しく同様の方法に據り、埃及亞爾然丁の鐵道亦然るあり。然りと雖、これ固より後進國の事にして、英國の如き國情にありて、政府若し鐵道を建設せんがために借金を起すが如き事あらば、吾人決して其是なるを見る能はず。殊に露國政府の場合に於ては、斷じて其不當を鳴らさざるを得ず。勿論眞に必要な公共事業を建設せんがために公債を募集するは、財政の根本原則に反するものにあらず、又露國の場合に於て、露國政府が其起せる外債を外國に留め、以て債權國に對する財政上の支出に於て、本國に於ける公共事業建設の資に使

用するも、固より財政の強固を期する恰當の手段たるを失はず。故に強ひて外債の所得を露國に送金せしめ、然る後更に又外債の利子を支拂ひ、購買材料の對價に充てんが爲めに、巴里倫敦及び伯林に向つて、資金を輸出するが如き手段を採らば、是、全く無用の浪費と言はざるべからず。是に由て之を見れば、露國が其外債の利子を支拂はんが爲め、借り得たる外債を使用したりとの故を以て、露は事實上償還能力を喪失せる者となすが如きは、決して完全の議論と謂ふ能はざるべし。然りと雖、又之と同時に、露國政府が從來其財政上政治上重大なる失敗を繰り返したることも、亦覆ふべからざる事實にして、西伯利亞鐵道に投資せる支出の大部は、今や全く浪費たるの觀を呈し、滿洲に於ける施設は、全然皆無に歸し、巨額の資金を投じて建造せられたる其艦船は、空しく海底に沈みたるのみならず、尙其他各種の浪費損失頗る巨大なるものあるを疑ふべからず。然りと雖、之を以て直に露は其負債を償還するの能力を失へりと速断すべからず。苟くも露國にして、官僚政治の不可を承認し、其缺くべからざる改革を斷行するに於ては、露國尙債務の償還に苦しむ者にあらずるは明かなり。

露國財政の事既に然り、若しそれ軍事の状態は、吾人も亦同國の海軍を目して殆ど海軍の資格なき者とし、陸軍も亦滿洲の連敗に破碎し盡され、將帥は統御の才に乏しく、將校は個人的勇氣なきにあらざるも、全く軍事的技能を缺き、下士卒は無教育にして適宜の教練を受けず、唯一の特質と見るべきは、唯防禦の頑冥不靈なる勇氣のみ、斯く滿洲に於ける露軍は、全く日本軍の敵にあらずして、また若し露軍をして獨逸の軍隊に敵せしめば、均しく其劣敗を證すべきを認むるに吝ならず。然りと雖、吾人は又日本の大勝、露國の連敗を來せる眞因を見るの明なくんば、あらざるなり。露國は其本部を距る五六千哩の野に戦ひ、其戦闘を開始するや實に東郷提督の旅順艦隊に於ける一撃、遂に彼をして太平洋の主たらしめし日に始まりしが故に、戦争の初めよりして、露國は其海軍の援助により糧食彈藥を其軍隊に供給すること能はず、軍需品は悉く一條の鐵軌に由りて之を輸送せざるべからざりしなり。戦闘の間、露國は其死傷捕虜を合せて三十五萬人を失ひたりと雖、其終りに於て露國が滿洲に有せし軍隊は、約七十五萬に上りしとは、かの當局自ら稱する所にして、露國に與みせざる觀察者と雖、尙リネウイチ將軍の下

にある軍隊は、五十萬を下らざりしと測定す。若し此計算にして誤りなく、且つ戦争の初めに於ける滿洲軍は、之を過算するも其數二十萬を越えざりしことを確かむるに於ては、十八箇月間に露國が一條の鐵軌に由り輸送し得たる所は、實に六十五萬人に上りしを知るべし。これ實に開戦前露國の外、何人も信じ能はざりし偉大の功業にして、豈露國がヒルコフ公に於て、好個の大遞信大臣を得たるを證する者にあらずや。若し旅順の喪失及び奉天の會戰役に於て、數次の戰敗を経て、且つ本國を距る六千哩の外に五十萬の兵を送り、以て大山元帥に對抗せしむるを得たりとせば、一朝歐露若くは其境界附近に於て、露國の利益を保護するの必要あるに際せば、彼のなす所果して如何。露國は一億三千萬の人口を有するが故に、兵の供給に於ては殆ど無限と言ふを得べし。故に人民若し不満の念を懷くなく、戦争を忌避せずして、新に争闘の萬已むを得ざるの地位に立たしめらるゝを待たずして、先づ進んで詭計を用ひ、露國をして他國の敵たらしむるの煽動的行爲を敢てするなきを保せず。勿論露國の負債は重大にして、現下露國の爲めに熱望する所は尠なくとも、一代の強固なる平和を得て、其國富を開發し、其國民狀

態を改良するに努むるにありと雖、又若し大陸に露國民をして其實利の危険に瀕するを感せしむるが如き事件の發生するに於ては、露國は優に其隣疆の大國を威嚇するに足るの大軍を戰場に送り得るを忘るべからざるなり。勿論此場合に於ても、露軍必らずしも勝利を豫期し得るにあらず。恐らくは戰敗相次ぐとあらんと雖、其將卒は戰敗よりして漸次學び得る所あるべきは、尙其隣國佛蘭西が大奈破翁の戰爭中敗北によりて學び得たる所尠なからざりしが如き者あるべく、且つ一億三千萬の民衆、豈良將の風露を待つ者なしとせんや。人或は假令露國に戰意ありとするも、其戰費を他國に借る能はざること、尙戰役中、露國內部の騷擾漸く甚だしきに至りては、外債募集に應ずる者なかりしが如くならんこの言を以て、吾人に反對を試むるものあるべし。疑ひもなく露國にして佛蘭西及び獨逸の好まざる戰爭に従事するとせば、それ或は應に然るべしと雖、假りに露國が最も佛蘭西の民心に投ずるが如き戰爭に従事するとありとせば、佛國たるもの何ぞ其軍費を供するを拒まんや。况んや若し露國にして、歐洲國力の平均を維持せんがために、戰爭に従事し其間決して自利を計らざるの誓言を留保するに於

ては、露國たるもの、昔に佛國のみならず、英に米に其軍費を仰ぎ得ざるの理なし。果して然らば露國今敗れたりと雖、其勢力は尙未だ必らずしも輕侮すべからざるなり。

ノーヴェエウレミヤの在倫敦常設特派員として、在倫敦各國新聞聯合會々長として有名なるウエセリツスキ氏は、近頃露國地學協會に於て露國の前途に關する演説をなし、結局露國は進取政略膨脹政策を一擲して、内政整理に全力を傾注せざるべからずと論斷せしに、露國政論家メンシコフ氏は、ノーヴェエウレミヤ紙上に之を駁して、露國の國是に背戻するものなりと痛罵せり。其論に曰く、

露國が對外進取の企畫過多なるに苦しむとは、果して眞なるか。露國は今日汚辱極まる戰爭を行へる後に於て、果して對外交策を一擲し、永く内政に齷齪せざるべからずとするか。これ英國外交政略の瞞着に依りて作られ、而して米國にまで傳はりたる陳套の語にして、此套語に據るに曰く、露國は膨脹底止する所を知らず。世界の危険を醸生じ、且つ其行ふ所、非文明的にして、其征服したる土地には、唯

蠻風を傳播するのみ。一八五五年の英佛同盟及び一九〇五年の日英協商の目的は、露國を其領域内に追ひ籠め、其必要なる内政の整理に、全力を傾注せしめんとするを目的とす。セバストポール及び極東に於ける敗戦は、露國の取つて以て鑒みるべき所なり。斯かる退歩せる國體を以て、斯かる脆弱なる艦隊と連戦連敗の陸軍とを以てして、争でか大膽なる冒險の舉を企つべけんやと。然り、此實例は争ふべからざるものなり。かの最爾たる日本に對してすら、我國の無力なること一たび證明せられたる以上は、この上は争でか進取政略など敢行するを得べけんや。何人も獨逸を膠州灣より逐ひ、佛國を印度支那より、英國を印度より逐攘せんと企つる者あらざりしに、吾人をば最も無禮なる振舞を以て、滿洲より逐ひ出し、且つ此戰役の爲め、巨額の費用を支拂はしめたり。吾人に對し、斯くも赫々たる成功行はるゝ以上は、進取政略の如き、豈亦喋々するを得んや。進取政略を放棄すべきこと自然の數にして、吾人は今方に自ら他人の貪慾の犠牲とならざらんことを慮るべき時なり。若し吾人は最良の情態に際して、滿洲を防ぐこと能はざりしとせんには、黒龍沿道地方の防備は豈完全なりと謂ふを得んや。

ウエセリツスキー氏は、我極端の悲觀論者と共に、單に事實を擧示するに止まらば、敢て非難すべきなき。露國は實に投げ出され、撃破せられ、侮辱せられたり。然れども論者にして、露國の侮辱は避くべからざるの勢ひにして、其失敗は露國の對外進取計圖の結果なりと云ふに至りては、全くその當を得ず。吾人は如何に見悪くクリミヤ役及び滿洲戰爭に敗戦したりとするも、決して此二大戰役は露國の無謀の輕舉に出でたりと云ふべからず。若し其目的に至りては、地中海及び太平洋に突出するの口を求むるは、北極の氷と茫漠たる曠野の間に閉籠められたる一億萬の人々を有する大國に取りて、決して無謀無益の舉にあらざるなり。若し露國が一世紀間に二たびコンスタンチノールに近づきたりとせんには、同城の占領は露國の到底力に及ばざる事なりと云ふべからず。又クリミヤに於ける十萬の同盟軍若くは滿洲に於ける同數の日本軍(開戦當初)は、到底露國の勝ち得べからざるものなりとも斷言すべからず。前記の不幸なる二大戰役に於て我軍若し二三回の勝利を博したらんには、戰役の結果全く其趣を異にせしならん。若し機を見て同盟を締結するを知らざる愚鈍の政治家なく、我陸海軍の驚く

べき缺陷なく、怯懦管見の司令官が軍隊統率の任に當るなかりせば、嘗て露國の繰出したる兵數若くは之より少數の兵力にても、優に我目的を達するを得たりしならん。吾人の敗衄の不名譽を荷ひたるもの全く之に外ならず。若し然らずと言はゞ、請ふ先づ露國が永遠永久に愚鈍の外交家を有し、怯懦の司令官のみを有すべき天命を帯びたるものなることを證明せよ。之を證明したる後に於て、其對外政策に宣告を下すべし。少數當局者の管見怯懦なるよりして、一大國民の天然の能力を排せんとするは毫も其謂はれなきなり。

英國人は我露國人に自國の領土以外の問題を放擲すべしと要求す。而も英國人果して自ら對外問題を放棄するか。英國人は露國を以て過度に膨脹するものゝ如くに評するも、英國自身は如何。露國の大海に出でんとする希望を以て不徳義の所爲なりとするも、已に四面の大洋と地球の四分の一を占領したる英國の所爲は如何。凡そ列強國民に取りて、通例普通となれる政策は、何故獨り我露國民に取りてのみ恕すべからずとするか。阿弗利加、並に之と共に全世界の分割は、我等の目前に行はれたるにあらずや。論者曰く、西歐人民の他國の領土を占領するは、

之を高尙の文明に浴せしめんが爲めなりと。然れども英獨佛の阿弗利加、及び亞細亞に於ける殘酷の所業に徴すれば、此文明の果して如何なるかを知るに足らん。露國の征服は、決して此くの如き殘酷の所爲に出でず。露國の對亞經營の文明的なることは、實見者の公認する所なり。論者曰く、露國には内事の經營すべきもの甚だ多しと。眞に然り、然れども英國にも獨り印度のみならず、自國の島嶼内にも經營すべきもの少からざるに拘らず、占領を中止せず、孰れの國を問はず、最初の植民政略經營の時代には、今日我露國に於けるよりも、内事の經營すべき問題決して少からず。而して其植民政略にして、好都合に運ばざりしならんには、此問題も恐らく今日に至るまで解決せられざりしならん。歐洲各國は、遠隔の植民地に富めばこそ、自國の農工業をも發達し得たるなれ。英國にして若し其我等をして守らしめんとする退嬰主義を實行したらんには、憐れなる第三流の王國となりしにあらずんば、隣邦の附屬國となりしならん。英國をして今日の強盛を致さしめたるものは、占領政略のみ。世界ありて以來、大國民を起すものは實に此政略なり。

論者は我國に退嬰主義を固守して、對外政策を放棄し、亞細亞の退嬰的人民と伍すべしと勸告す。實に支那も緬甸も安南も印度も波斯も土耳其も、既に進取政策を行はず、彼等之に因りて果して他國の侵略を防ぎて安全なるを得たるか。内事經營の餘裕を得たるか、毫も之なし。此等の東洋各國は、嘗て強盛恐るべき國なりしが、其文物の燦然たりしは、實に亞刺比亞人や蒙古人が進取政略を執りし時代なりき。英國の擧げて敷ふべからざる對外計圖は、果して其内事を紛亂せしめたるか、かの西班牙は對外政略を放擲して果して内政に得たる所ありしや。

露國を害したるものは、決して進取政略にあらすして、事實は寧ろ之に反せり。露國にして眞に占領を事とする國ならんには、是我國に精力の充實して内事をも經營するの餘裕あるを示すものなり。吾人にして、英國の印度を征服したるが如き熱情を以て、進取政略を執りたらんには、彼と同時に防備なき支那を征服し、以て世界の一大雄鎮となるを得たりしならん。吾人は見す／＼此千載一遇の好機を逸して、世界に覇たるの權を失ひ、而して今や天下の覇權は吾人の目前に於て、アングロサクソン人種の掌裡に歸せんとす。吾人をして今日の汚辱を被らし

めたるものは、滿々たる霸氣にあらすして、霸氣の缺乏なり。西班牙が我國にカリホルニアを取らんことを勸めたる時、我國は之を固辭したるにあらすや。我國は其新に占領したるアラスカとクロンダイクを棄てたるにあらすや。我國はシビベルゲン島、千島、布哇諸島、并にロベリングスガウゼン及びクノゼンシテルン諸島の發見したる諸島を放棄したるにあらすや。近きは朝鮮國王が我國の保護を求むるに當り、我國は之を斥けたるにあらすや。我國はクルジャを譲り、西藏より退きたるにあらすや。實を云へば、我國の占領果して何處にかある。一年前艦隊を太平洋に派遣するに當りて、大洋中に一の貯炭所すらなかりしにあらすや。知るべし、我露國が機に乗すれば、一錢をも費さずして得べかりしもの、今日となりては巨費を抛つにあらすんば得ること能はざるに至れり。其こゝに思ひ到らざりしは、實に千載の恨事なり。若し露國の政略にして、非難すべきものありとせば、決して其精力の充實にあらざるなり。我露國人が、其版圖外にありて柔弱にして、非愛國的なること、猶國內に於けるが如し。露國人は内外共に、天の與ふる好機會を逸するの妙技に長じたるものなり。世人は吾人に勸告するに、世界政略を放棄

し、將來の角逐場裡より退去せんとを以てするも、吾人は此勸告を待たずして既に自ら退去せんとす。吾人にして此慢性病を醫すること能はずんば、我子孫も亦之より脱する能はざるなり。

又トーマス・ミラー氏は、日本財政の前途に關して説をなして曰く、日本若し窮局の勝利を收めんか、平和條件は日本をして若干の西洋諸強列國と利害意見の衝突を惹起せしむることあるべし。これ極東に於ける刻下の形勢を研究したるものと等しく認むる所にして、又最も熱狂する日本最負の外國人と雖、なほ且つ之を首肯する所なり。然れども此度は、日本も法螺に吹倒さるゝとなかるべし。一八九五年の如く、戦勝の効果を掠奪するが如きは、假令何れの國にして之を試みんとするも、日本は斷じて之を許さざるべし。日本は列國を恐れず、若し列國にして干渉せば、日本は直に之を排除すべしとは、道般の問題の提起せらるゝに當りて、日本最負の外國人の云ふ所なり。

此意見は、外國人の相集まりて戦争の結果を談するに當り、日々、否、時々、刻々耳にする所なり。若し之と意見を異にする人ありとせば、そは公けの席に於て慎みて

口を開かざるものゝみ。是、實に一般日本人の意志を代表せるものなり。蓋し日本人は、日本人が世界孰れの國をも虜懲するに足るべき能力を有することを疑はざればなり。勿論識者中、此見解を持つるもの多からずと雖、而もなほ民衆をして然か信せしむるに努力せり。平和條件に關せる問題に對して、政府の採るべき態度は、其極開戦を見るに至るが如き性質を有するものたりとも、輿論は恐らく政府を助くるならん。民衆の信念既に斯くの如し。随つて寡頭政府は、國務を處理する上に於て、實際フリーハンドを有するのみならず、又侵略政策に對し強大なる後援を受け居れるものと云ふべし。故に戦争の終局に當り、各國と日本との間に軋轢起らん時、日本政府の採るべき態度が、孰れの點まで眞面目にして、孰れの點より恫喝なるやを看破せんが爲めには、這般の問題と相關通せる若干の事情を研究すること最も緊要なり。先づ第一着に攻究すべきは、日本の聊か特別なる地位にあることなり。即ち同國は島國なるが爲め、國民的膨張野心は地理的に制限せられ、人口は益増殖し來たる。然も同國民の移住は、他の東洋諸國民と等しく、既に世界の大部分に排斥せられ、將來亦排斥せられんとす。爲めに亞細亞大陸は、距

離の關係と相待つて最も適當なる日本移民地となれり。此等の事實を認めたる列國は、日本が清國の將來に關して、列國と對等の勢力を得んとする希望に對して大に同情を表せり。然れども、清國、朝鮮若くは其他の東洋各地への日本の移民に對しては、目下何等の大障害あるにあらず。既に幾千の日本人は移住したり。然れども日本は之を以て満足せざるなり。日本は常に過超の人口を大陸に移住せしめんことを欲するのみならず、更に進んで其主權を移住地に確定するを以て其目的となせるものなり。同國は開戦に際し、其目的なるものを宣言したれども、其眞目的なるものは實に茲にあり。同國は土地の奪取を望まずと聲明したれども、移民の行くべき土地を得ずして、如何にして移住地に主權を確立するを得べきか。若し日本にして土地不割讓を以て満足せんか、同國は其眞箇の目的を達せざりしものといふべし。誰か、いふ、日本は目的なしに此大戦争を起したりと。

日本の野心に關する問題は、今暫らく之を擱き、吾人をして同國の膨脹政策を遂行せんとする其能力に直接の關係ある國內の形勢、事情、及び此政策の結果を検せしめよ。思ふに斯くの如き膨脹政策は、必然の結果として戰時的軍備を繼續せ

ざるべからず。占領地を守備するが爲めには、多數の軍隊を要し、且つ何時兵力に訴へて、其撤退を促さるゝことあるやも知るべからざるを以て、政府は目下の兵員を大に減少すること能はざるべし。蓋し此兵員なるものは、國民の精粹を包含せるを以て、彼等に抛擲せられたる産業は、其影響を被むること必然なり。又侵略的大陸政策には、海權の取得絕對に必要なを以て、海軍は常に目下の状態を維持せざるべからざるのみならず、更に進んで大に之を擴張せざるべからず。戦後日本の海軍は、大に其武装を改めざるべからざるのみならず、軍艦中の或ものゝ如きは、全然改造するにあらざれば用をなさず。目下建造中なる軍艦、戰艦二隻は英國に於て建造中にして、大巡洋艦二隻、小巡洋艦若干隻は日本に於て建造中なり。竣工せば、乗組員増加せざるべからず。且つ其費用亦之に準じて増加すべし。なほ戦争終局までに被むるべき損害の如きも補充せられざるべからず。陸軍も亦近世的有能のものたらしめんには、殆ど全體に於て改革するの必要あり。砲は新式改良のものを要し、目下使用せる大砲小銃の如きは、戦後殆ど用をなさざるべし。故に日本は戦後にも財政的負擔は輕減することなく、却つて益々重きを加ふ

ることなるべし。日本國民果して斯くの如き壓迫に堪ふるを得るか、此疑問に答へんとせば、宜しく日本の富力及び負債を審査せざるべからず。何となれば今日の戦争なるものは、兵如何に勇敢なるも、金なくしては之を行ふを得ざればなり。日本は英國及び米國に於て得たる金を以て、現戦争を行ひつゝあり。向後三十年間に、日本が再び戦争を行ひ得るや否やは、同國が海外に於て公債を募集するを得るや否やに依りて決す。而して同國の海外に於ける借金は、信用及び同國政策に對する海外放資者の意嚮にあり。若し同國にして元利に對し相當の保證を提供するも、其應募如何は日本の政策が放資者の見解と一致するに否とに依りて大に影響を受くべし。例へば日本の政策にして米國の利害と衝突し、開戦の恐れある時は、米人の日本に放資せんとするの意嚮は決して盛んならざるべく、又斯くの如き大國と衝突を見んとするが如きことあらば、既に戦争の爲めに大打撃を被むれる日本の信用が、爲めに更に影響を被むるべきは云ふまでもなし。然れども日本は、近き將來に於て更に戦争を行ふが如きこと之なかるべしとして、借て然らば同國の海外に於ける信用は何を基礎とすべきか。云ふまでもなく、同國

の債償力はなり。是に於て乎、吾人は同國の富力を検査せざるべからず。

概言するに、一國の富力とは二點にありといふて可ならん。即ち土地の天然的資源及びこれを開發するが爲め人工の應用せらるべき状態是なり。日本の天然的資源中、其第一は農産物なり。且下海外に行はるる感象に依れば、日本人は著しく伶俐なる農業家にして、凡そ國內の耕し得べき土地は、悉く之に鋤犁を施して極度の農作力を開發したりと。かの日本が海外に領土を獲得せんとする希望に對して、西洋人が表せる同情なるものは、日本は此上人口の増殖に堪ふ能はずと稱する所の世説に多大の基礎を有するものなり。然も日本の耕耘に適せる土地にして、既に開拓せられたるものは、其實僅々其半ばに過ぎざるなり。開戦前日本政府は委員を組織し、國內に於ける農業の實狀を調査せしめ、委員會は相當の期間を経たる後、其報告書を提出したり。之に對し有力なる一新聞は、實に次の如く論評したり。曰く、農商務省地質調査局の編纂に係る最近の統計に依れば、日本に於ける耕作地は、日本の廣袤の一割三分六六なり。之を海外國の實例に就きて見るに、歐羅巴諸國に於ける耕作地は、其國の廣袤の三分の一、若くは二分の一あり。即

ち日本は耕作地となし得べき土地にして、未だ開拓せられざるもの尙四割八分あり。換言すれば日本は目下既に耕作地となり居れる五百萬町の外に、今後開拓せらるべき土地四百五十萬町あり。若し此土地にして開拓せられんか、人口の増加は殆ど恐るゝに足らず。農作地となすを得べき土地中、其半ばは未だ何等の産物を出さざるのみならず、既に開拓せられたる半部と雖、其産出するを得べきだけの産物は未だ産出せられざるなり。外國人にして日本に漫遊したるものは、日本の田畑を一見して直に日本人は上乘農業家なりと斷するがごとくなれども、世に斯ばかり間違ひたる觀察は之あらざるべし。蓋し日本の農業は、要するに舊式にして、効果を收むること極めて少なく、年々收穫する農作物の價格を人口に割當つれば、一人二十圓を出でざるなり。

次に研究すべきを鑛物となす。日本に幾多の炭礦あり、其中若干の如きは、目下探掘せられて利益を收め居れり。又金屬も發見せられざるにあらず。然れども、是極めて少額なり。故に石炭を以て地中よりの産物中第一となすべし。金、銀、鉛、鐵及び其他の金屬は、産出額少にして殆ど云ふに足らず。亦將來とても大に産出の見込

あるにあらず。又石油坑の開発試みられたれども、今日までの處、收支相償ふに至らず。之を要するに、鑛物の産出高は一年五千萬圓以下にして、之に使役せらるる人員は、十二萬人に過ぎず。日本の法律は、外資輸入を沮得じ、延いて鑛業も亦障害を受く。漁業は一の重要な富力にして、年々八千萬圓の金を出す。要するに以上は、天然的資源と稱せらるる者とす。又近頃西洋新聞紙は日本の商工業につき盛に記述する所あり。日本の公債募集は、爲めに多大の援助を得たり。曰く大阪には煙突林立し、日本商船は増加せりと。然れども、是、汽車の窓より瞥見したる皮相の見のみ。日本商船の總噸數は六十萬噸にて、其大部分は日本郵船會社、大阪商船會社、及び東洋汽船會社の占むる所に係り、其又大部分は日本沿岸若くは東洋諸港に航海を行ふ小形船より成る。其存立するを得るは、一に政府が年々千萬圓乃至八百萬圓の保護金を下附するに依る。若し政府にして保護を與ふることなかりせば、此航業到底開始せられざりしはいふ迄もなく、現時と雖、一たび保護金を引上げられんには、直に失墜せん。製造業も亦政府は清國よりの償金を割きて保護を與へ獎勵に力むれども、熱觀察するに未ださしたる進歩をなせるにあらず。近

頃日本銀行の調査したる所に依れば、製造品の価格は一年三億圓にして、人口に割當つれば一人平均約六圓に過ぎず。日本工業の依つて以て立つべき基礎は、勞銀の低廉及び原料の潤澤におれども、原料は外國より輸入せざるべからざるを以て、此點に於て日本は既に其利益の一半を失へるものにして、又勞銀の低廉の如きも決して恃むに足らず。蓋し勞銀の廉否は、勞銀それ自身をいふにあらずして、製作に對する失費をいふものなり。日本勞働者の價值は、米國勞働者に比し、其四分一に過ぎずといふ。故に日本勞働者の賃銀は世界中最も不廉なりと云はざるべからず。

然り然らば國富の基礎として残れるものは、僅に外國貿易あるのみ。然れども日本は外國貿易は輸入超過を繼續すること茲に二十年未だ容易に其潮流の變化あるべしとも見えす。久しく日本に在留して最も熱く事情に通せるものと云ふ所に依れば、目下の工業經濟的方式にして變革せられずんば、此貿易の逆運は到底轉回するに由なし。然も工業經濟的方式の變革は、到底行はるべきにあらず。一九〇三年の輸入超過は、二千八百萬圓にして、全輸出高の一割に上れり。輸入の主

なる者は、食料品製造原料等なりき。然れども此輸入は、各種工業に大影響を與ふるとなくして減少せらるべきものにあらず。右の輸入品には、高率の税を課し居れるが、關稅收入は外國債利子の抵當となり居れるを以て、稅率の改正は直に列國の故障を招かん。開戰以來貿易の逆勢は、益甚だしくなり來れり。一九〇三年に於ける日本銀行の調査に依れば、日本の富力は六億九千萬圓にして、一人の收入高は平均一箇月約二圓なりとあり。以上は平年に於ける日本の資源に就き詳論したるものなるが、戰爭の影響はあらゆる方面に現はれ來れり。多くの特別税は、既に殆ど極度まで重税を課せられ居る人民の頭上に落下し來れり。内國債は商業より多額の金を奪ひ去られたり。外國に於て募集せられたる公債は、外國に於て購入せられたる軍需品の支拂に使用せらるることせば、此外債の利子は輸出せられざるべからずして、貿易の逆勢を益助成すべし。商船は軍用に雇上げられたり。實業の被むれる影響大なりといふべし。製造品に課せられたる一割五分の消費税は、製造業を萎靡せしむべし。要するに日本の繁榮は漸次降下しつつあり。人口は衰々として増加し、食料品の輸入は、盛に増進しつつあり。工業の傾向は漸

次衰退しつつあり。工業及び銀行の株券は、最近十年間に漸次低落し來れり。尙此外國内の形勢を動かせるもの少なからず。戦争の爲め不時の支出をなさざるべからざる政府は、學校、鐵道、道路、橋梁の如き豫定の改良計畫を抛棄せざるべからざるに至れり。若し戦争にして尙繼續せば、今後多年間、日本の精神上並に實業上に被むるべき結果は、蓋し多大なるべし。次に外國に於て募集せられたる公債に就き記す所あり。試みに日本最負の外人に對し、日本若し戦争に勝ち且つ有利なる平和條件を締結するも、なほ且つ財政的に破壊せらるべしと云はゞ、彼は直に平和條件に依りて日本の獲得すべきものを云々せん。乞ふ吾人をして少しく此點に就き研究せしめよ。今假りに、露國が財政的に日本を疲憊せしめんが爲め、媾和を拒絕し、且つ無限に戦争を繼續し、同時に其軍備を整齊完成すると思像せよ。戦争は長年に亘り、容易に繼續せらるべし。露國若し斯くの如き策に出でんか、日本は他國を頼みて終結せしむるに道なかるべく、他國亦人道文明を論據として、此任に當らん。然れども他國は條件を課する能はざるべし。此點より見れば、他國の周旋も日本自身の談判同様なりと云ふべし。然らば、日本は、勝利よりして何物

を得べきか。債金か否、こは途方もなき間違にして、日本政治家は之を豫期せざるべし。樺太島は或は得るを得ん。然れども、同島は露國に取り囚徒の拘禁地として必要なる以外、何れの國に取りても價值あるなし。日本は捕虜給養費を得んことを期す。然れども若し露國にして、頑として之を拒絕せば如何。又日本は多大の生靈金錢を費して浦鹽を取ることあらん。然れども露國にして其返還を願はざる時は、日本は如何にしてその大費用を償はんとする。滿洲鐵道は或は日本の有とならん。然れども此鐵道は全然修覆せざるべからず。其費用と比較しては、此鐵道の價值も左したるものならず。列國假りに日本をして旅順、大連を保有せしむるとせば、日本は茲に占據することならん。兩地は根據地として價值あるものなれば、同地より收入を得べからず。却つて支出を要す。之を要するに、予は日本の前途に就き何等の光明を認むる能はず。日本は實に狂人的賭博を行ひたるものにして、若し結局の成功を見ることありとすれば、そは當初の成算圖に當りたるにあらずして、實に僥倖の賜物なりと云ふべきなり。

此くの如き惡評誣妄は素より論するに足らずと雖亦聊か以て自ら顧みる所

なかるべからず。

エコー・ド・パリ所載日本の事情に精通せりと稱せる某が試みたる戦時及び戦後の日本の財政観に曰く。

日本は全然農業國なり。其農業産物の價格は、毎年十億圓なるに、地方産業の生産額は僅に三億圓、海産物八千萬圓、礦産物五千萬圓に過ぎず。大隈伯の計算に據れば、日本國民の總収入は十五億圓にして、一人一箇月二圓五十錢にて生活せるなり。一八九六年より日露開戦に至るまで、日本にて公債募集の出来難かりしは怪しむに足らず。何となれば、國民の資金は増加せる租税と各種の企業との爲めに、涸渴し居りたればなり。近來數年間に四億圓の食物原料を輸入する必要ありき。新に企畫せられたる各種の産業は、この不足を補はんが爲めなりしも十分なる成果を奏する能はずして、現今は萎靡不振の状態にあり。日本は戦争に要するすべての物資を外國より輸入せざるを得ざるが故に、戦争は明かに日本を破滅しつゝあるなり。

開戦當時に於て、日本銀行の金貨準備は一億一千五百萬圓にして、外に非常準備

金五千萬圓と、二千萬圓の他の資金あり。即ち合計一億八千五百萬圓なり。又滿洲に流通せし凡そ四千萬圓の軍票と、外國債二億二千萬圓とを加へ、一九〇四年明治三十七年に於て政府の所有せし總金高は、四億一千七百萬圓なりき。此外、四千萬圓乃至五千萬圓の外國への注文品に對する未拂金あり。一九〇三年末に於て、日本は多大の食品原料等の準備ありしに關らず、一九〇四年に於て、戦費三億五千萬圓を消費したるなり。一九〇五年に於ては、果して如何あるべき。日本は既に外國より六億圓を借り入れたり、日本の二千の銀行に於ける預金は、七億圓に過ぎざるに、英國のロイドとナショナル・プロヴィンシアルとの二銀行に於ては、既に十億五千萬圓に達せるを見ずや。一年間の戦費、日本人の總収入の半額を要す。故に戦争を繼續せば、日本人は單に其生活の爲めにも、外債を募集し得たるは債權者が露國の償金を支拂ふべきを確信せしが爲めなり、されば畢竟日本を信用せるものにあらずして、却つて露國を信用したるに因るなり。故に日本は、償金要求をなさざるを得ざる境遇にあり。其外債は既に八億二千萬圓に達し、之に在來の舊債を加へ、一年に支拂ふべき利子は、實に五千五百萬圓に達せんとす。一九九四

年以來、日本にては輸入は常に輸出に超過し、今日に至りては形勢猶依然たり。加之、軍備は更に擴張せざるべからず。軍人の年金は支給せざるべからず、新占領地の經營にも亦巨額の費用を投せざるべからず。故に日本にして償金を得ざれば、これ日本の破滅なり。日本は外債の利子をも支拂ふ能はざるべし。日本は經濟上將に瀕死せん。人民は猶戰爭繼續につき政府を助くべし。然れども最早當初の熱心はなきなり。軍隊の品位は次第に劣等のものとなれり。日本の危急は、將校の増加しつつある缺點にあり。

斯くの如き場合に當り、露國が償金の支拂を承諾するが如きは、至大の不得策と謂はざるを得ず。償金なくんば、日本は破滅すべし。日本の商工業は、自ら維持する能はず。補助金を受けて成立せる海運は、其業を喪ふに至るべく、此くの如くしてあらゆる紛亂を生ずべければ、露國は多大の困難なくして日本を征服し、以て今日の敗損を回復するを得べし。斯かる事情のあるを以て、日本はあらゆる手段を盡して償金を得んと試むべし。然れども露國は之を支拂ふべき何等の理由あるなし。償金の支拂は、日本をして恐るべき程、強力のものたらしむべく、償金なくん

ば日本は破滅せん、これ予の確信して疑はざる所なり。

以上の所論は根柢に於て既に日本の實情を誤解せるものあり。固より取るべき價值なしと雖、亦外人間一種の誤想行はるゝを知るに足らん。

エゴノミスト所載、日本及び東方組合の真相と云へる説に曰く

平和の恢復と共に、日本は巨額の外資を要すべきは明かにして、將來英國資本の此需要に應じて日本商工業の發達を補助せんことは誠に望まじき事なれば、此種の計畫の先鋒たるものゝ組織、並に其資力を精査するは、英國資本家にとりても、亦日本自身にとりても、極めて緊要の事なりとす。これ吾人が日本及び東方組合の發起書を軽く觀過せざる所以なり。同組合は目下一磅債券、一株につき五志の打歩を付して、五分利付百萬磅の利益配當附無期限社債を募集し、其勸誘策として、其株券はノーウィックユニオン生命保險會社により、其額面及び打歩の償還を保險せらるべきことを廣告しつつあり。これ一見投資の安全を期するが如くなるも、會社は此目的に向つて豫め株券の平價以上に、一磅につき五志の出資を株主に求むるに決せるが故に、保險金を供するものは此組合にあらずして、其實

應募者自身なれば、此協定は少しも投資の價値を加ふるものにあらず。投資者自ら其投資の償還を保險に附するに何の選む所なければ、此組合の前途は全く保險計畫と別物なりと思考せざるべからず。尙進んで其發起書を調査するに、該發起書は現に發行せられ居る株券に、社債券の語を用ふるの寧ろ誤解を生じ易きを示せり。元來社債券と云へば其株券が或有形財産によりて保證せらるべきなれば、此組合は少しも斯くの如き財産を有することなく、其株券の全部は、唯該會社の成立に對してなされたる勤勞の報償として發せられたるに過ぎず。其發起書は、唯日本及び支那が廣大なる商業的活動の分野たるべきを示し、日本商業の進歩は其貿易統計の示すが如く、最も顯著なるものなりと云へるのみにして又他に細説する所なく、直に此組合が絶東に於ける金融上のトラスト業を設立せんがために組織せられたることを暗示せり。故に此會社の前途は全く雲を掴むが如きものにして、其事業が巧みに經營せらるべき保證として投資者に提出せらるる所は、唯其重役の多數が多年東方に關係を有し、同地方が尙有利の事業を營むべき餘地に富むを信すとの口供に過ぎず。且つ此組合の成立に關し、彼等の

なせる協定を仔細に吟味するに、所謂重役なる者の技能も亦卓越せりと信ずる能はざるものあり。其エス・チー・シンデケートと結べる契約に據るに、同シンデケートは此組合創立に要する創業費の全部、即ち一萬磅を支拂ふことを約し、其報償として日本及び東方組合は、其總株金五萬磅の中より、現金一萬株、磅株券三萬磅を此シンデケートに交附せんとす。然るに此處に注意すべきは、此エス・チー・シンデケートにして、サマアセットハウスの最近報告に據るに、同シンデケートは公稱資本百磅を以て昨年十一月登記を了せしが、其總拂込資本は五磅に過ぎず。僅に五磅の會社を相手に一萬磅の支出を伴ふ商談の信託せらるべからざるは問はずして明かなれば、此處に同シンデケートを扶助する必要を生じ、マチュアル・エ・コノミック・インシュエー社は、日本及び東方組合の社債五十萬磅の内、六分半の手續料を以て、一萬九千九百九十三株を引受くることを約し、其手数料中五分をエス・チー・シンデケートに支拂ふことを約せり。

マチュアル・エ・コノミック・インシュエー社は、五千磅の資本を有する會社にして、金融界に重きをなすものにあらざるも、なほ五磅のエス・チー・シンデケートに比すれ

ば甚だ偉大なりとも云ふべきか。此くの如き一小會社にすら及ばざる遠きシンデケートを以てして、日本及び東方組合より一萬磅の現金と、三萬五千磅の株券に加へて二萬五千磅の手數料を受くべしと云ふ。これ疑ひもなく此シンデケートにとりて稀有の好事業たるべし。然れども一般の上よりすれば、上述の如き制度は到底是認すべからざる不正のものなりと言はざるべからず。若し絶東に於て、此組合の事業が、其成立に當りて取られたるが如き方法によりて營まるゝに於ては、其企業に資金を投せんとする投資家の前途は暗澹たりと云はざるを得ず。終りに臨んで、吾人の希望に堪へざる處は、今後日本の發達に寄與せんが爲め我英國に組織せらるべき會社は、くれぐれも強固なる基礎の上に立つべきにして、若し然らざれば悲惨の結果を來すべきこと期して待つべきのみならん。

戦後の歐洲に關する論評も、茲に掲記するの必要あり。エコノミストは曰く、平和條約は調印せられ、日英同盟は更新擴張せられたれば、二國の力は以て絶東の平和を維持するに足るべしと雖、露國亦復讎の非望を放棄する者にあらず。近者公報の傳ふる所に據れば、露國は全速力を以て河川に浮ぶべき吃水淺き砲艦

の多數を建造せんとする。元來露の河川中、外敵侵略の虞れあるは、獨りアムール河あるのみなれば、此等の砲艦は疑ひもなく、絶東の使用に充てんがため企てたる者と推測するを得べく、露國又其滿洲軍を亞細亞に留置せんと企てんか、是亦騷擾を再びするの因たるなきを保し難し。加之、露國尙滿期の兵卒を西伯利亞に植民せしめ、其家族を共に移住せしむるに努め、其間多少強制的方法を取ることあらん。之も勿論、西伯利亞開發の一手段と見るを得ざるにあらずと雖、亦露國が日本と支那に於ける權勢實力を争ふに便せんがため、一大軍事的植民を行はんとするの口實と思考し得べし。縱令此等の事なしとするも、其民を愚にし國民をして戦争の真相及び内政改革の急を知るの機會を得せしめざらんがために、時に或は戦争に従事せる軍隊を其儘亞細亞に留置せんとすることなきとも云ふべからず。此等の事情は、乃ち將來禍根の存する所なりと雖、目下の情勢に於ては、露國は到底絶東に對し活動する能はざるものあり。露國にして若し其全力を内治問題に吸収することなくんば、尙餘勇を揮うて依然世界政治上に於ける一大要素たらんことを示し、以て戦敗の跡を掩はんと試むるやも知るべからず。即ち

或は亞富汗に事を企て、北波斯に露國の威勢を強めんと努め、又巴爾幹人中に露國の勢力を恢復せんとして、近東に活動することなしと言ひ難かるべし。然りと雖、巴爾幹の住民は露國を知ると三十年前に勝り、且つ獨逸は今やコンスタンチノールブルに強大なる勢力を有し、又露國は兎にも角にも、巴爾幹問題に關しては、埃旬國と其行動を共にせざるべからずして、獨逸の怒りを犯すを敢てする能はざるものあるが故に、露國は今急に巴爾幹半島に行動を起す能はず、暫らく稍晦して密に將來の基礎を据ゆるに止らんのみ。

翻つて露國財政及び内部の状態を見るに、其對外政策を痲痺せしむるに於て、更に甚だしきものあり。這般新設せられたる立法議會の行動は、未だ之を見る能はざるも、一般改革的の機運は著しく其歩を進め、縱令獨裁政治にして、其將に失墜せんとする權勢を多少恢復する事ありとするも、目下の處は自ら歐洲に活動する能はざる状態にありと云ふべし。且つ戰時中、かのモロッコ問題の起るや、露國は從來佛國の保護者として、有力なる均勢を維持せし地位を去れり。今に至りて、露國は縱令佛國との舊縁を結ばん事を欲し、佛國急進黨及び社會黨の態度に抗し、又

露國の甘心を得んとする獨逸の努力を排去する事ありとするも、苟くも内國に於ける難關を排除し去るにあらずんば、世界政治上に於ける其地位を積極的に進むること難しと云ふべし。

然らば乃ち、獨逸は獨り歐大陸に重きをなすべきか、現帝が獨逸の權利を固守し、再び保險的慣用政策を遂行せんとするは、敢て非難すべきにあらずと雖、露國果して誠心其政策に呼應すべきやは疑ひなき能はざるなり。且つ獨逸近來の行動は、獨逸の強きを證するよりは、寧ろ其弱きを證するものなりと云ふを得べし。其モロッコに於ける干涉の如きも、一部の理由は、政府が新條約により損害を蒙らん事を虞るゝ階級に對し、獨逸は自國に開放せられたる有望の市場を維持し得る事を示さんとするにあるものにして、其露國と結ばんと努むるが如きも、亦同じ動機に出づるに外ならず。

又獨逸は大獨逸主義及び大海軍國たらんとする計畫のために、甚だしき財政上の困難に悩まされ、昨年如きは公債によりて僅に其歳出に應せり。又今後の五年間も歳入の不足を免れざることは、官邊の公けにする處にして、而も之を補充

すべき方法としての死亡税制定は、普魯西に於ける地主の抵抗により通過し難きものあり。是に依つて之を見れば、獨逸も亦露の如く、其社會上及び經濟上の困難は、其對外政策を痲痺せしむべく、假令然らすとするも、獨逸は其同盟國に依頼する能はざるなり。

奧太利帝國は大獨逸主義に依つて疎外せられ、三國同盟の價值を疑はんとし、獨逸人を其君主に戴かんよりは、寧ろスラヴ人に依つて支配せられんことを欲するの傾あり。伊太利も亦永き以前より獨逸を去つて再び自然的に親密の關係を有せる佛國に接近せんとし、佛國は又近時獨逸より露國との同盟を輕視すべからざる實際的の警告を受けたれば、大英國との默契に適當の信頼を置き、又は二十年以前の孤立に立戻るが如き事はあり得べからずと云ふべし。

斯く獨逸の歐洲に霸權を握り、優秀の地位に立たんとする計畫は、外國に於ても亦國內に於ても、有力なる障礙の阻む所となるが故に、戦後に於ける歐洲の形勢は全く戦前の状態に復歸すべく、唯其異なる所は露國の權力の著しく減少を來

せると、奧國が其東隣より受くる恐怖の消滅せるにより、却つて分離の傾向を來し易きの危險に曝露するに至りたるのみ。故に苟くも、奧國の分離が急速に其歩を進めざる以上は、恐らく歐洲の平和を擾亂する者なきを望み得べく、若し幸ひにして英佛の默契が英露の誤解を一掃し、大獨逸政策を鎮靖せしめ得ば、歐洲平和の望みは益々強固なりと云ふべし。

ノーリゲエ・ヴレミヤは、其社説に於て英露の關係を論じて曰く、數日前、彼得堡發の一通信者は、西歐洲の各新聞に左の如き電報を傳へたり。曰く、近頃社會に公けにせらるる政界の新協商若くは新同盟、或は協約等に關する幾多の通信は、輕々に信すべきにあらず。是等の通信は多くは偏見にして、且つ誇張的なり云々と。然るに倫敦よりの電報は、此曖昧模糊たる政略的説明に反して、最も明瞭に且つ簡短に左の如き事實を傳へたり。曰く、英國商務大臣は演説して、いへり、若し露國にして亞細亞に關して協商せん事を欲せば、英國政府は相當の提議を調査するの準備をなすを辭せざるべしと。

吾人は幾度か英露の關係問題を論議して、遂に左の如く斷定せり。曰く、英獨の反

目は、日に増し甚だしきを致すは疑ふべからざる事實なるを以て、此際露國に取りての最も便利なる態度は全く局外に立つにあり。即ち第三者の位置に立ちて全く行動の自由を保ち、何時にても露國の爲めに便益の最も大なる者ありと認むる時に、英獨何れなりとも其係争國の一方に加擔するにあり。斯くの如き態度が、我露國に取りて最も相當せる所以の者は、戰敗國たる者は、事實上より最も便宜なる特設的政略を取るべきは當然なるを以てなり。されど特設的の態度は、固より受動的の態度と同視すべからず。却つて十分に我外交家の自動的働きと明識とを以て、何時其乗すべき好機會の來たるとも、その機會を確知し全力を擧げて、我露國をして其機に乗せしむるにあり。日露交戰中に、我外交當局の識見と行動とは、何等の見るべき者なかりし事は、明白なる事實なり。八月初旬に、ウキッテ氏が日英新約の内容如何に關して、正確なる事を問合せたる際に、我政府は只斯くの如き同盟商議の風説あり、想ふに活動の範圍擴張せらるべしと返答したるに過ぎざりき。

然るにわが全權大使にして、當時ポーツマス條約調印前に、同盟條約の箇條を確

知し得たりしならんには、ポーツマス條約は、或は別異のものを成立せしめたるやも知るべからず。我外交當局者の手腕如何に關しては、僅々一二の問題即ち巡洋艦若くは禁制品、その他船舶沈撃等の問題に就きては、我外交當局者は少しも露國の見地を知らず、重要な事件に關しては、皆屈辱の讓歩をなせり。之を要するに、我外交當局者の手腕如何に關し、既に歴史は之を明示して、この國家有事の際に、我外交當局者は、一人として其使命を完うして其目的を遂げたる者なきを證せり。其結果に徴すれば、敢て其目的を遂げざりしにはあらざるも、吾人に之を傳へし者は、かの日本の如くに其外務省にあらすして、外交當局者の門外者ウキッテにして、彼は外交官吏の畏怖する所のものを成功せり。

交戰中の我外交當局者の此耻辱なる外交と通信上に何等の準備なかりし事を回顧し來れば、前記彼得堡發電の通信の如きも、寧ろ我外交の不明を曝露する甚だ危険なる者にあらすやと想はしむるなり。同電報には全く受動的意味ほの見えて、政治は自然に生ずる者なれば、何事もなさず又期待せずとの意の如し。戰爭前には我外交は多少の成功なきにあらざりしも、敗戰の結果、我露國の外交

政略を劣弱ならしむる影響を與へたり。されば若し我受動的態度にして、平和成立後も依然として従前の如き者あらんには、我外務省たるもの何の面目あらんやと。

モーニング・ポスト軍事通信員の新東洋と題する一論文に曰く。

吾人は世上の出来事を以て、これ歴史を作りつゝあるものなりと巧慧なる言辭を弄すれども、然も熱過去を研究すれば、歴史の製造は其最も活動せる時に際して重視せらるること殆ど稀にして、随つて之が爲め幾多の重大なる政治上の誤謬の惹起せられたるを知るに足る。今日は過去に比し、通信の來着速かなりと雖、之が爲め利害の互に衝突せる幾多の事件は忽ち報じ越され、其結果未來の影響を及ぼすべき大事件を幾多の出来事中より抽出するは頗る困難なり。然れどもこれ却つて吾人をして益、出来事を遠觀するの必要を生せしむるものと云はざるべからず。

歐羅巴の進歩的發展が、一亞細亞國と觸接せるは、殆ど既に六百年來のことなるが、西洋は此六百年の大部分を通じて、白哲人種使命説を信じ、世界は西洋の爲め

にあるものとして認められ、劣等人種となすものには、所謂彼等の文明なるものを押付くべきものとなせり。然も此文明なるものは、西洋自身に取り幸か不幸か未だ容易に判すべからざるなり。然るに日本は今や大勝利を得たり。西洋の不滿を唱ふる素より其處なり。然れども吾人たるもの、目を刮つて日本勝利の影響を洞察すること一日早ければ一日の利得あり。

理解の第一條件は、日本の立ち居たる眞個の危地を同情的に重視し、及び日本が世界に稀れなる大決心を以て、其危地より自國を救出したることを認むるにあり。吾人は、日本を以て露國の侵略的、非望の爲めに脅かされたるものなりと思惟し、亦然か口にせり。吾人は我同盟國を以て、單に一國の侵略に抗して、自國存亡の爲めに戦ひつゝあるものと思惟せり。然も我同盟國の見る所は、甚だ異なれり。同國は自國を以て、西洋諸國の野心の爲めに累卵の危きに居る東洋諸國の一なりと思惟せり。吾人動もすれば、日本が多年露國に對して、戦争の準備をなしたるを云ふも、同盟談が吾人に持込まれたるに先ち、先づ露國に對ひ提議せられたるの事實を忘却し居れり。これ我國にして、日本と同盟を結ばずんば、露國と手を握るべ

ことの警告にあらすして何ぞや。英人は自國外の事を思索するに、頗る困難を感ずる人種なり。故に日本の地位を明かに知らんと欲せば、東西位置を顛倒し、我國を以て恰も日本と同様なるものとなし、日本が歐羅巴諸國に圍繞せらるゝが如く、我國も亦幾多の貪婪なる亞細亞諸國に圍繞せらるるものと想像せよ。我近海の貿易を以て、殆ど全部日本人の手中にあるものとなし、我近海を以て常に東洋諸國の海軍の巡邏する所なりと想像せよ。スカンデネヴィアを以て、東洋的スラヴ帝國の西部境界なりとし、此スラヴ帝國は獨逸北部を蠶食し、ハンプルヒへの鐵道敷設權を得、且つ同地に強固なる武備を行ひたりと想像せよ。ハーブルを以て、清國領の海港なりとし、ロシア平原を以て、清國の勢力範圍なりとし、ロシア、ポルドヤを以て、日本の手中にありとなし、葡萄牙及び一部西班牙を以て、マレーの屬國なりとし、北阿弗利加亦日本の勢力範圍なりと想像せよ。我歐羅巴の葛藤に對し、東洋諸國の干涉ありと想像せよ。例へば獨逸は、一八七一年佛國の領土を割讓せしむること能はざりしと想像せよ。例へば吾人は、南阿戰爭後、利益を收むる能はざりしと想像せよ。斯くても諸君はなほ日本を圍繞し居れる壓迫を明

かに想像する能はざるならん。何となれば、吾人は未だ米國の壓迫に譬ふべき相當のものを有せざるなり。

吾人は右の如き地位にあり。吾人果して一國のみ恐るべきや否や。吾人は寧ろ東洋全體を恐るゝことなかるべきか。吾人は悉く東洋諸國を歐羅巴より驅逐して初めて息を吐くべきなり。吾人は英國を英人の專有物、濠洲を以て濠洲人の專有物、亞米利加を以て亞米利加人の專有物なりと絶叫すれども、菲律賓人、ホッテントット人、支那人にして、又これと同様の言をなす時は、吾人は之を以て極めて不合理なりとは思惟するなり。思ふに日本にして、東洋(日本は東洋の盟主なり)の爲め、斯くの如き絶叫をなさんには、吾人は不合理にも之を憤るなるべし。

これ日本に取り、新らしきことにあらず。今を去る三百年、西洋は其迷信、腐敗を靡らして日本に至り、日本を蠶毒せんとせり。然も將軍家康是等の、真正の法の不敬者を國外に放逐し、自後二百年間、儼としてまた西洋を容れず。

西半球を救へんが爲め、暫時日本が西洋と相和し、西洋より商會と戦法とを學ぶの餘儀なきに至りたるは、五十年前、東洋諸國の運命に顧みて、孤立も遂に自國を

吾人は右の如き地位にあり。吾人果して一國のみ恐るべきや否や。吾人は寧ろ東洋全體を恐るゝことなかるべきか。吾人は悉く東洋諸國を歐羅巴より驅逐して初めて息を吐くべきなり。吾人は英國を英人の專有物、濠洲を以て濠洲人の專有物、亞米利加を以て亞米利加人の專有物なりと絶叫すれども、菲律賓人、ホッテントット人、支那人にして、又これと同様の言をなす時は、吾人は之を以て極めて不合理なりとは思惟するなり。思ふに日本にして、東洋(日本は東洋の盟主なり)の爲め、斯くの如き絶叫をなさんには、吾人は不合理にも之を憤るなるべし。

これ日本に取り、新らしきことにあらず。今を去る三百年、西洋は其迷信、腐敗を靡らして日本に至り、日本を蠶毒せんとせり。然も將軍家康是等の、真正の法の不敬者を國外に放逐し、自後二百年間、儼としてまた西洋を容れず。

西半球を救へんが爲め、暫時日本が西洋と相和し、西洋より商會と戦法とを學ぶの餘儀なきに至りたるは、五十年前、東洋諸國の運命に顧みて、孤立も遂に自國を

救ふこと能はざるを覺りて漸く然るのみ。エリサベス時代以來、日本の踏襲し來りて嘗て手放さざるに、彼の政策は連綿として恐ろしくも打續くべき様子なり。然も同國近頃の發達は、人をして此政策の變化したるにあらざるやを思はしめんとす。危いかな、變化は政策の變化にあらざる方法の變化なり。

日本は露國(日本が同盟を結ばんことを熱望したる)と斯くも善く戦ひ、斯くも美事に之を破れり。人之を見て、日本の適合性(西洋の同化したるの意)あるをいふ。然れども此適合性なるものは、如何に日本が目的の爲めに手段を顧みざるかの其計策の一部を示すものなり。政治家の上乗は、二途を握りて、交互に之を操縦するにあり。吾人は、我國が日本の同盟國として利用せられ、露國が日本の敵として壓碎せられたる其妙手を嘆賞するものなれども、更に又今回の英露が、其地位を顛倒することも容易に有り得べかりし所なるを思つては、日本の妙手を嘆賞するの念愈深からざるを得ず。

故に吾人たるもの、日本の目的を覺悟し、同國の政策を助くべきか、はた亦遮ざるべきか、機に後れて又々馬鹿を見るに先ち、我政策を一定して機先を制し、以て利

益を收めざるべからず。日本の目的とは、疑ひもなく東洋の確固たる保全を行ふにあり。勿論同國が如何なる範圍を以て東洋と見做すべきやは之を知ること難しと雖、少なくとも日本と支那が、此中に包含せらるべきは云ふまでもなし。これ實際に於て、歐羅巴の勢力を太平洋より撤退せしむるを意味す。これ頗る不愉快なることなるが如しと雖、若干の利益あり、熟考の價值ありと云ふべし。蓋し清國は多年歐洲諸國葛藤の舞臺たらんとしつゝあり。吾人は清國を取上げらるゝも、何等の損害を被むることなく、且つや吾人は二十年前太平洋に於ける優越國なりしに拘らず、爾來我勢力は非常の速度を以て墜落し來り、今や吾人は清國分割せらるゝも、最少の分け前を得るに過ぎざらんとす。又日本が太平洋の主權者となりたる上は、貿易上の便益に對し、若干の檢束を加ふるやも知るべからず。されど斯くの如き檢束は、我本國附近に於て吾人の負へる檢束に比して遙に輕し。

東洋に領地を有せる歐羅巴諸國が、是より撤退せよとの通告を受くるに先ち、早や吾人は日本を助けて威海衛を元の持主に還すことならん。若し又其後幾星霜を経て、香港の撤退續いて起らば、海陸軍根據地としての同地の效用は、消失せし

むることならん。實に我支那艦隊存在の日數は既に數ふるに堪へたり。右に云へる所より、なほ其以後のことは、今よりいふこと難し。日本は支那を覺醒して、自國同様の聰明野心を吹込む事業の如何に困難なるべきを熟知せり。日本は支那を以て、有益なる補助物となすとあらん。然れども支那を以て、黃禍論者の豫言するが如く、基督教國に對する咎となすことは殆ど困難なりと云ふべし。要するに日本の勝利は、東方亞細亞より歐羅巴を放逐することとなるも、吾人は貿易上殆ど失ふ所なかるべし。

之に反し、茲に看過すべからざる一事あり。即ち日本は露國の進行を遮りたるを以て、よし浦鹽は露國の手に残るとするも、露國は必らずや他方面に進路を求むることとなるべし。

同國は西伯利亞に對し、不凍港を與へんが爲め、幾百萬の金を費したり。而も今や太平洋より追はる。他の大洋を捜すべきは素より必然なり。吾人は同國を地中海より放逐するに助力したり。吾人は確に同國の北海に現はるゝを憤らん。されば、今同國に對する出口として残れるものは波斯灣あるのみ。故に太平洋より驅逐

せられたる同國は、必らずや波斯國を横斷して、波斯灣に出でんとするならん。これ工學上の壓力問題と同様なり。斯くの如き危機(此危機は吾人が日本を助けて得しめたる利益より來れる直接の影響なり)に際し、日本は吾人を助けざるべきか。責任ある社會にては、日本と攻守同盟を結ぶべしとの説あり。然れども、吾人が何等の手を下したるものあるにあらざるを記憶せざるべからず。故に同國より、これ以上の犠牲を豫期するが如きは無稽なりといふべし。吾人は日本に對し、吾人が受くべき援助を與ふるにあらざれば、同國より援助を受くる能はず。我海岸の防禦は、専ら艦隊に委任せられ、而も其艦隊は戦争に備ふるが爲め、常に本國海面に束縛せらるゝを以て、如何にして日本より援助を受くるを得べきかを知るに苦しむ。吾人は目を開いて目下の實勢を見ざるべからず。吾人は何人にも用をせざる陸軍を有し、吾人にのみ用をなす海軍を有す。若し吾人にして國家を保險するを怠らば、吾人は國家滅亡の危険を冒さざるべからず。

日本の感情に關し、吾人は自ら欺けるものなり。吾人は流行を追うて知れ渡りたる點に於て日本を褒む、これ誤れり。日本は吾人の説くが如く、平々凡々の點に於

て褒むべきものにあらず。日本は凡ての點に於て、吾人よりも大國民にして、同國は疑ひもなく之を知れり。同國の吾人よりも優秀なるは、軍人國が商買國よりも優秀なるが如く、美術家國が工匠國よりも優秀なるが如く、愛國者國が政治屋國よりも優秀なるが如く、紳士國が田夫國よりも優秀なるが如し。然り同國は、人生の各技術を研究したり。これ吾人の嘲笑したる所なり。同國は驚くべき勇氣を以て、偉大の重荷を受け入れたり。これ吾人が、女々しくも廻避したる所なり。若し日本にして、吾人を輕蔑することなしとせば、これ甚だ不思議なることなり。吾人は不條理にも、吾人自身を嘆賞するものと思惟するが如きは、大間違ひなり。若し日本にして、吾人を同盟國とするの用ありとせば、それは太平洋の問題に關し、別に一因子のあるあるが爲めなり。一因子とは何ぞや。米國是なり。米國の海軍にして、今日の膨脹の度を以て進まば、今後六年には世界第二の大海軍となるべく、十年を経なば敵なきに至るべし。而してパナマ運河は、之に先ち竣工して、米國は太平、大西兩洋に便益を被むるべく、隨つて日本は商業的にも、はた亦政治的にも、蠶食を被むらんとするに至るべし。日本は我英國の食慾の減退しつつあるを熱

知せり。故に若し吾人にして、援助を日本に與ふることを得ば、それは吾人が大西洋にありて、我勢力を維持するの點にあらん。これ日本の知る所なり。

これ極めて遠きことならん。然れども、これは日本政治家が幾年前既に達觀せる所なり。吾人たるもの、日本の勝利を認め、其當然の結果に面を向けざるべからず。

第三節 日韓の關係に對する彼等の觀察

此關係に對する彼等の觀察如何を知らんには、少しく調印前に遡らざるを得ざるものあり。ノウオスチは論じて曰く。

日本は獨り、對清政策の困難に苦しむのみならず、亦朝鮮の運命に於て、惱む所少なしとせず。韓人は毎に日本の政策を尊重せず、否寧ろ其價值を問ふを欲せざるの趣ありて、既に日露の戰爭中、幾度か排日の騒亂を醸し、機を見て其壓迫を免かれんとを望むものゝ如し。故に若し露國にして、戰勝の美果を收めたらんには、必らずや韓人は倨傲の態度を以て日本に抵抗を試むるなるべし。回顧すれば、日本

は曩に朝鮮獨立のため、清國と戦うて其目的を達し、直に朝鮮の内治を釐革せんことをせしが、忽ち王妃弑逆の亂を生じて、大に其威信を殞し、國王、難を露の公使館に避くること、十一箇月の長きに及べり。王は露國の保護を多とし、端なく鴨綠江の伐材を許し、一九〇三年、日露兩國の争點は主として朝鮮の上において、滿洲は恰も従たるの狀ありたり。即ち日露の戦端は、一に此間の消息に基因したるは、既に普く世人の知る所の如し。

今や媾和の時に臨み、朝鮮は其將來の如何を苦慮し、諸強國に向つて、獨立のため保護を依頼すること頻りなるも、各國は之に對し、抑も如何なる應援を與ふるや否やは、吾人今之を豫知すること能はず。然れども朝鮮は、恐らくは日清戦後に於けるときの如く、這次亦深く日本に頼るを、欲せざるべく、此點こそ將來朝鮮問題の紛紜を醸すの伏線となるや、亦疑ふべくもあらず。且つや滿洲と云ひ、朝鮮と云ひ、共に日露兩國何れよりも、攻略せられたるにあらざるを以て、日露兩國の専斷にて恣に之を處置すること能はざるべく、従つて滿韓の兩土は、將來再び列強の紛争を喚起することなしと謂ふべからずと。

ケナン氏はアウトルグ誌上に論じて曰く。

目下極東に於て、歴史上に前例を見ざる程重要にして趣味ある社會的、政治的の實驗行はれ、東洋の記録に於て、初めて亞細亞の一國民が、他の國民を誘導啓發せんとして、至大の力を盡しつゝあるを見る。願ふに亞細亞の國民は、數百年前に於て、既に其思想、技術、工藝品の交換をなせし事あり。文化の度進みたりしものは、因つて以て劣等の者に、其智識を傳へたることありしと雖、意識的に隣國を扶植せんとせるものは、今回日本が韓國を占有して之を改造せんとするを以て創始とす。日本の此實驗の重要にして趣味あるは、必らずしも其前例なき新業なるが爲めにあらず。蓋し實驗は嶄新なりと雖、人生の進歩發展に何等の關係なきものあればなり。抑も日本が朝鮮に試みつゝあるものゝ如きは、嘗に幾百萬の蒼生の利益幸福に至大の結果を來し、朝鮮半島の社會的、政治的の狀態を刷新するのみならず、延いて支那大帝國の啓發をなすべきものにして、決して空漠なる一場の議論にあらざるなり。今回の戦争は、日本をして東部亞細亞の霸權を握るに至らしめたるが故に、日本が所謂黄色人種の誘導者たるべきは疑ひを容れず。韓國に於

ける實驗によりて、吾人は誘導者たる日本人の伎倆を見ると共に、其戦捷により得たる廣大なる舞臺に於て、幾何の活動をなし得るかを知るを得ん。日本人は自己を改造し刷新せり。されど日本は、よく對馬海峽の彼方なる腐敗せる國民を刷新改造し、進んで黃海を孕める老大帝國を覺醒し、誘導すべき能力あるや如何に。予は茲に韓國上下の状態を述べ、日本が將に解決せんとする設題に説き及ばざらん。

日本より韓國に越くものは、日本國民の清潔なる秩序的なる勤勉なる繁榮なる状態に比し、韓國臣民の汚穢なる亂雜なる怠惰なる衰頹の状態に驚くならむ。兩國民は、人種的關係あるが如く、其骨格膚色を同じくせるに拘らず、其道德に於て智識に於て相異せること、和蘭人のヴェネツィア人に於けるが如きものあり。日本人は機敏勇敢にして、教育あり且つ非常に勤勉なるに反し、韓人は魯鈍暗愚にして、氣力なく怠惰なること甚だし。歴史によりて之を觀るに、兩國民は其文化發達の状態を同じくせるのみならず、當初は韓國は却つて日本を指導するの地位にありたり。されど日本國民は、封建制度其他の結果として、自ら進歩し改良し、個人と

しても國民としても、高尚なる性格を形づくりたるに反し、韓人は次第に衰頹し、其本性と文化を喪失し、終にハイチ、サントミンゴの標準と等しき程度に墮落し了りたるものゝ如し。米國に於ては、韓國は其固有の文化を有せるも、而も其文化は發展の歩武を止め、支那に於ける如く、凝滯の状態を來せるものなりと説くものあるも、吾人の見る所を以てすれば、韓國の文化は凝滯せるにあらずして、分崩潰壊せるものなり、全然腐敗し盡くせるものなり。支那が其進運を阻遏せられたるものとなすは或は然らん。韓國に至りては、其進運の勢力を喪ふまで病的となれるものなり。故に長年月の醫治を加ふるにあらざれば、到底完全なる状態に回復する能はざるなり。韓國扶植問題の容易ならざるは、蓋し以上の簡單なる緒論により明白ならんと信ず。予は之を詳論するに當り、便宜三項に區分して、まづ韓國上下の状態を論ずべし。即ち(一)皇帝、(二)政府、(三)人民是なり。

(一)皇帝 昨年二月日本政府は、韓國政府と正式の協商をなしたりしが、此協商により、日本は韓國皇室の安全と、韓國の獨立及び領土保安を保障し、韓國は之に對し、日本政府に十分の信用を置き、内政改革に關して、其忠言を聽くべきを約した

り。其結果として、日本は韓國の蓋革を實行する上に於て、現在の韓國政府の手を通じ、若くは韓國皇帝と其官僚の手を通せざるべからず。之が爲め、日本が其手腕を掣肘せらるゝは免れざる所なり。試みに吾人(米國)が、菲律賓を刷新せんとするに當り、同地に皇室あり、又之を輔佐する土人の閣員、及び百僚が、十分に其責任を負ふべき地位に立てるものありと假定せよ。此場合に於て、吾人が此群島を改革せんとして困難を感ずるは、正に日本人の韓國に對するものゝ如くなるべし。されど菲律賓土人たるダガログスの如き、ヴイサヤンスの如きは、これを韓國人の民衆に比すれば、其天性に於て教育に於て遙に優る所あるを以て、吾人の事業は日本の韓國改新の事業に比して、猶容易なる者あるべし。日本人の慘憺たる苦心を要する亦推察し易からずや。此理由を證明すべき事實は頗る多し。吾人はまづ、韓國皇帝につき述ぶる所あらん。極めて公平にして、判断を誤らざる一米人にして、多年韓國に居住し、詳しく皇帝の人となりを知悉せるものあり。かの韓國皇帝に對する觀察實に左の如し。曰く、韓國皇帝は温良なる小形の人物にして、空々として其在位の年月を經過し、今に於て將に國家の破滅せんとするを知らずして、帝

座に坐する者なり。帝は愉快なる面貌に常に笑ひを湛え居れり。近來其齒に黄色を帯び、眼下に皺を生ずるに至りしも、猶其美貌たるを失はず。帝は其容貌に於ても、其音聲に於ても、疎野なる形跡あることなし。其飲食を節するは特に著しく、又喫烟をなさず、只衣服の美を好み、外國より贈與せられたる各種の勳章を佩用するを喜ぶ。其性小兒の如く無意識に、ポーア人の如く頑冥に、支那人の如く無學に、ホツラントット人の如く虛榮心に富む。帝は何等の學を修めたることなく、四十年間聽きし所は阿諛諂言のみ。其周圍は實に無學無智の集團にして、隨つて帝は小鹿の如く怯懦なり。帝は又極めて迷信深く、其學術的智識の缺陷より生ずる疑惑は、常にあやしげなる巫女の詭宣等によりて解決し、後宮に國事を決すること少なからず。又日として、死靈より使節あらざるなし。而して又親切心なきにあらず。嘗て其行遊に當り、一労働者の貧困の状態を見て之を救助せんとし、特別の恩賜ありたりと云ふ。帝は其臣民を好まず。何となれば、彼等は其獨立俱樂部等の結社により、帝を驚動せしむればなり。また其老兄弟と親善ならず、其死を希望せらるゝものゝ如し。又其皇姪の日本にあるものを恐れ、一日も早く之を除かんと欲せり。

米國にある義和宮は、其父皇の下にあらざるを安全なりとす。蓋し義和宮は、數其父皇に逆ひたるが爲め、邦國に歸れば其生命を保ち難かるべければなり。かくの如く柔弱なる婦人に擁せられ、實に精神に異状ある小兒なり。其邦國を以て快樂を求むるの原料となし、人民を以て其殺戮心のまゝなる鶏羊の群となすものなり云々。

前述の韓國皇帝の人物評は、極めて正確なるものなりと雖、然も統治者としての帝の真相は、猶未だ盡さざる所あり。抑も韓帝は、人物と事件に關して、正確なる裁斷をなすの能力なく、之が爲め帝は其朝臣の甘言に欺かるゝを常とし、巫女陰陽師若くは死靈が、露軍の日軍を韓國以外に驅逐すべきを云へば、帝は直に滿腹の信用を捧げ、因つて以て其態度政略を變ずるに至る。外國の貴賓あるに當り、之を饗應せんが爲めに或宮殿を撰定せる後、陰陽師が其場處の不吉なるを告ぐるあらば、直に其場處の變更を命じ、其準備の既に全く整ひたるに頓着することなし。帝の饗應を受けたる外國人は、予に語りて曰く、陰陽師の一言ありたるが爲め、一時間の中に三度まで場處變更の通知に接したることありと。

然れども、斯くの如きは比較的小事なり。其身體に對する恐怖の念より、其内閣員の頑強なる壓迫より、又は巫女、陰陽師等の片言隻辭により、極めて慘忍峻酷なる行爲を敢てすることあり。五年以前、帝は適當なる處分をなすべしと約して、日本より二人の脱走政治家を召還せしが、召還後直に日本に對する契約を破りて、密に之を獄中に殺害せしめたり。近年に至るまで各種の體刑は、韓國法律の要部として存在し、政府は皇帝の裁可を得て、熱議を以て罪人を焚殺し、或は壓搾器を以て其骨を摧き、或は其手足を牡犢につなぎて之を引き裂く等、其殘忍人をして慄然たらしむるものあり。一八九六年、帝が在京城露國公使館に逃避せられし時、露國公使ウーベル氏は、前述の如き殘忍なる刑罰の廢止を強要し、帝亦之を容れたりしも、然も其極刑の廢止は六箇月の期間なりしのみ。帝が再び其宮殿に還御ありし時は、即ち罪人拷問の再度の開始なりき。

韓國に於ては、重罪人の頭を京城小西門に梟首し、其身體を分解して之を各州に別ち、以て人民に對する戒となすの蠻習あり。此習慣に對して、皇帝が幾何の責任を負ふべきかは、予の知らざる所なりと雖、かくの如き殘忍なる所業を敢てした

るもの、却つて其官位を進め、稱讃の辭を受くること少なからず。金玉均の暗殺者は、宮中の要職を得、朴永孝を刺さんとせるものは、後法部大臣となりたり。盜賊、強奪者、刺客、貨幣製造者、酷吏の輩が、屢次皇帝の内閣員となり、現在の軍部大臣たる李容翊の如きは、實に無教育なる苦力の出身にして、醜惡厭ふべく、在京城の外人は何れも彼を以て下等なる冒險者となし、強奪によりて、其私財を作りたるものとなし、帝の需用に應じて金銭を献上するにより、其所要の位置を保つものなりとなし、之を指彈せざるものなきなり。

惡徳の君主は、其個人的勇氣によりて、多少の善處を見るものなるが、韓帝に至りては、雷に暗愚なるのみならず、又極めて怯懦なり。かの閔妃の殺害あるや、帝は別宮殿に移轉し、外國公使館の保護を受け、且つ殿中に於ては、一切の舊慣を廢し、以て危険を免れんと計り、夜間は周圍に宮人陰陽師を集めて一睡をも取らず、曉に至りて初めて床に入り、朝食は日没時となり、晝食は夜半の一時とし、夕食は都市の住民の正に起床せんとする際となし、其習慣を保つこと數年なりき。皇妃殺害の後數週間は、帝は其毒殺せらるゝを恐怖すること甚だしく、某米國宣教師の料

理せるものにして、之を密封せる箱に入れて奉ずるものゝ外、一物をも食せざりき。且つ殿内の最も堅固に障壁もて圍める一室の外に出づる事なく、多くは他室の中位に位せる十呎平方の一室に時を消したりしが、此室は極めて陰鬱にして、仲夏の乾燥せる候と雖、數人工により濕氣を去りたりと云ふ。かくの如き陰鬱にして、むし暑き穴藏の中にて官人に圍繞せられ、韓帝は初めて其心を安んずることを得たりと云ふ。猶帝は此土藏の中に住すること一年に過ぎたりとぞ。

斯くの如きは、則ち日本政府が其安全と自主とを保障せる韓國皇帝の人となりの一斑にして、然も日本政府は、韓國の改革につきて此人に忠告せざるべからず。日本政府の施設の困難なる、猶餘を以て槽に滿ちたる水を汲み乾さんとするに等しからずとせんや。

(二)政府 政府の名目の下に總括せらるゝものを區別せば、大凡そ左の四種となすを得べし。

(イ)九人の國務大臣より成れる内閣

(ロ)魔術師、豫言者、卜者、巫女の一團。これは政治上に大關係あるのみならず、時に

大政の裁断をなすことあり。

(一)千三道の長官

(二)三百四十四縣の知事

(三)に屬する官吏の任命は、表面皇帝の權内にありと雖、其候補者の選定は、全然各種の情實と私縁に基づくのみならず、又賣官の習慣あり。候補者中にて最も高き價を拂ふものを任命す。故に各道の長官の如きは、韓貨一萬弗より四萬弗を拂ふものあるに至る。然れども既に長官の職を贏ち得れば、直に治下の人民を酷剝して、再び財産を作るを常とす。韓國には獨立の裁判所なく、各道の長官乃至各知縣は、行政官たると共に一方司法官として訴訟を裁断するが故に、財産を強奪せられたる韓人は、其救ひを當該強奪者に求めざるを得ず。適、多少の勇氣あり、又其樞機を有するものありて、進んで京城の高等法廷に訴へ出づるあるも、然も此高等法廷の判官は、何れも該強奪者を長官、若くは知縣に選べる宮中官吏の與黨なるが爲め、其訴訟は畢竟盜賊第一號より盜賊第二號の手に移りたるに過ぎず。故に其哀訴人が、盜賊第一號により、更に殘りの財産を掠奪せられずして止まば、特

に多幸なりと云ふべし。

官吏が人民の財産を掠奪する方法は、或は不法の課税により、或は壓制的に官用を命ずることにより、或は罪を誣ひて拘禁することにより、或は奇怪不條理殆ど信すべからざる口實を以て、露骨に奪掠を行ふことによる。予の聞ける一例を述べんに、敏才なる一奪掠者あり。内閣大臣に贈賄じ、北邊某州の一韓人に勳章を與ふることよし、彼は此勳章を手にして、直に其犠牲たるべき該韓人を訪ひ、之に謂つて曰く、予は汝に對する吉報と恩賞の持參者たるを喜ぶ。皇帝陛下は汝に梅花章第二等勳章を授け玉ひ、予をして之を汝に傳達せしめらるゝものなりと。即ち其衣袖の中より燦爛たる勳章を取り出し、驚きに打たれて言葉なき該韓人に之を手渡し、且つ曰く、此貴重なる勳章の授與に關する費用五千弗なり、汝之を出金せざるべからずと。

該韓人は之を拒みて曰く、某は未だ此くの如き貴重の勳章を受領すべき功績あることなし。且つ某は之に對し出金する能はず、何となれば、五千弗は某の所有せる總ての財産に超過すればなりと。

奪掠者は佛然として色を作じ叱して曰く、果して然らば、汝は皇帝の贈與を輕んじ、又皇帝を辱しむるものなり。予は將に之を長官に訴へんと。直に道廳に赴き、長官に賂ひ、該韓人を捉へ、不敬罪を以て之を拘禁せり。憫れむべし。此韓人は獄にあること日久しくして苦悶に堪へず、終に其私財を擲ち、赤裸々となりて梅花章第二等勳章を受領したりとぞ。此奇談は、恐らくは奪掠の極端なるものならんも、然も之に類似せる無法の行爲は必らず少なからざるべし。各道の長官、又は知縣の如き、何れも其口實を作りて人民に罪過を誣ひ、其免除の償金を出ださざるものは、直に財産を沒收し、其人を獄に投ずるが如き、殆ど平常の事として怪じます。予は京城に於て、平壤の農夫七十人が、前の同道長官の爲めに掠取せられたる韓貨百五十萬弗に相當せる財産の回復運動をなせるを見たり。これ實に地方官吏が無法の強奪をなし、其犠牲となりし農夫等が、一時拘禁と壓虐の爲めに黙じ居たりし明證にあらずや。斯くの如く表面に顯はれたる類例のみにても、實に數十件を以て數ふべし。其外部に表はれず、暗中に葬り去られたるは、果して幾百件あるかを知るを得ざるなり。

然れども、韓國人民は數百年來官吏の不法課税と奪掠を受けたるを以て、今日に至りては寧ろ之を見て常となすものゝ如し。故に人民は奪掠の程度極端に出づるにあらざれば、敢て之に反抗せず。各道長官又は知縣の輩は、其量を料りて不法の課税、若くは強奪を行へば、何事もなく其腹を肥すを得べし。然れども時に極惡非道のものあり。正當の租税の外に、十倍二十倍の苛税を課するあれば、韓人と雖、容易に之に服せざるなり。要するに、人民の一部より總ての財産を奪ふか、若くは總ての人民より一部の財産を奪へば可なりと雖、總ての人民より總ての財産を奪取するに至れば、其奪掠者は終に其家より引き出され、打擲せられ、蹴殺さるゝを免れず。此一例は去る九日に於て、京城を距る十哩なる某縣に於て起りたることあり。近時往々知縣が一揆の爲めに逐斥せられたるを聞けるは、皆この類なり。蓋し此リンチ法は、韓國農夫を保護する唯一の法律と云ふべきか。

斯くの如き事情に對する自然にして避くべからざる結果は、即ち國民の貧困と腐敗なり。韓人は其貧しき生活を支ふべき資料以上に利得することあれば、そは直に不法強慾の官吏の爲めに奪取せらるゝが故に、彼等は殆ど勤勉の刺激を失

軍は只一隻の砲艦のみなるに、経費は實に四十五萬六千四百弗なり。前述の各條項を注意し、一隻の砲艦の要する経費四十五萬弗なるを見、年々の官廳の建設費が二萬三千若くは二萬七千弗と云ふに至りては、何人も其費目の不可思議なるを怪しまざるを得ざらん。

猶一步を進めて、皇帝の快樂と安全との爲めに要する経費を以て、國民教育、公共事業、國民保護の爲めに要する経費と比較せば、極めて面白き對照を見る。

皇室費	一、一〇三、三五九弗
皇室祭典費	一八六、〇四一弗
宮殿建築費	三〇〇、〇〇〇弗
宮殿警衛費	一六〇、二五六弗
以上特別費	八一、九七八弗
計	一、七四一、六三四弗
國民教育費	二七、七一八弗
公共事業費	四二、四四弗

盜賊捕拿費	五〇〇弗
計	二八、六四二弗

統治者の警護と、娛樂の爲めに百七十萬弗を支出し、被治者千二百萬人の教育事業、公共事業、盜賊捕拿の爲めに僅に二萬八千弗を支出するに過ぎざるは、實に非常に其權衡を失するものと云はざるを得ず。附言韓一弗は米貨一弗の約四分の一に當る。

財政年表に於て、尤も大なる費目は陸軍費の五百十八萬六千四百弗なり。然れども此費用を要せる陸軍の状態、甚だ憐れむべきものあるは、次の事實により推斷するを得べし。昨年平壤の軍隊が、鴨綠江の北方に派遣せられたる時、其隊長は兵士を集め、此任務に就かんと欲するものは、擧手すべきを命じたりしも、然も此中二百名は中途より隊列を脱して逃走せりと云ふ。

官廳の経費を瞞着し、以て自家の腹中を肥せる大臣、宦官、陰陽師、卜者、巫女、妃嬪は、以て足れりさせず、更に土地の二重賣買、政府の特權の私行をなすに至る。宮中の大臣連は、これを以て副業となし、大臣の如きは公然貨幣の鑄型を併用し、無限に

私錢を鑄造す。韓國の正貨たるニッケル五錢貨は其實價二錢に過ぎざるを以て、大臣が不規則に之を鑄造するは非常の利益なり。何となれば政府の標準によりて正當に鑄造するも、猶六十パーセントの利益あり。况んや大臣等猶其標準を降し、半錢の定價だもなきものを鑄造し、之を使用するに於てをや。

韓國官憲が、皇帝より人民より金錢を奪取するにつきては、前述の如くにして猶足らざるを覺ふ。然れども予は此點につきてはこゝに擱筆し、他の點につき述べざるを得ざるものあり。即ち韓國政府部内に於ける異様の状態是なり。歴史は時として喜劇に扱まれたる至極の悲劇を示し、或は然るを得ざるが如き事情の下に、相反的對象を顯はすことなきにあらざるも、然も韓國の如く不可思議なるは稀なり。二千年に亘れる流血、反逆、虐待の記録を有せる韓國に於て、改革者を殺戮し、之を梟首し、其死體を分解して各州縣に別つが如きことあるを怪しまず。雖然も其殺戮者たるものが宮殿に集まり、重要なる政務を處理しつつあり。一方に於て慘酷なる蠻的行動を敢てせるものが、一方に於て平然宮廷に翱翔すると云ふに至つては、何人か一驚を喫せざるものあらんや。現今の韓國宮廷は、實に

此相反的現象の集合なり。予は唯詳細にその事實を陳ぶるの餘白なきを惜しむのみ。

昨年正月平壤に於ける巡查と兵士とが、其副業として夜盜を試み、人民を奪掠せる事あり。此時同地の知事、之を檢舉せんとせしに、巡查と兵士とは甚だ怒り、自ら解隊して同地を無警察無守備となすべしと脅迫せり。韓國の兵士は、其制服を賣却し、又は質入するを禁せらるゝも、然も集會をなして上官の命令せる場處に行くべきや否やを會議し、之を投票により決するを許さる。韓國の官吏は、奪掠、壓虐殺人を行ひて、依然其位置を保つを得るも、近親の喪に會せば、辭任せざるべからず。某處の韓民は、盜賊として悪人を訴へたるに、同地の知縣は却つて證據不分明なりとて、該韓民の兩眼を抉出せり。これと殆ど同時に、某地方官は人民の絹製の椅子により、絹製の衣服を着するを禁じ、而して官妓の外婦人の人力車に乗するを禁せり。皇帝が徳義を重んじ、職務に忠實なるべしと詔勅を下したる傍ら、警務長官と二人の國務次官は、宮中にて博奕せりと云ふ廉にて彈劾せられたり。本論に引照せる事實は、何れも人民の苦惱の種子ならざるなきに拘らず、京城の各商

店に於ける支那文の看板には、大抵左の如き文字あり。

人民和平幸福、我是神農之子孫而救斯民、天地在於此家、春光融々、朝來萬寶集、純金一萬斤、重散而濟斯民、是福徳之門、仁義禮智信。

斯くの如き文字を見れば、新に韓國に來りしものは、必らず其人民の徳高く、富み且つ幸ひなるを思はん。然れども一度宮廷に入りて官吏輩の不法を見るに及ばば、眞に此等の文字の、其看板に過ぎざるに驚くならん。

政府の機能を約言すれば、大要下の如くなるべし。曰く、政府は直接間接に人民より徵發し得べきだけのものを剥ぎ取り、然も人民には何者をも與へず。政府は國民の財産生命を保護せず、一の教育機關を與へず、道路を開通せず、港灣を改良せず、海岸に燈臺を建設せず、街道を清潔にせず、衛生に注意せず、流行病を防遏せず、商業工業を獎勵せず、政府自ら不實、不正、不義、慘酷等の例を示して、國民を腐敗せしむ。只一事人民に獎勵する所は、最下限の迷信の形式のみ。ジ・エム・ス・エ・ゲール博士嘗て曰く、腐敗骨髄に及びしもの韓政府の如き世界未だあらざる所なりと。嗚呼、これ實に日本國民が通じて以て韓國々民の改善を計らんとする政府なり。

(三)人民 韓國に上陸し、人民の状態を知らんとして、在留外人の意見を聞く者は、其所説の區々なるが爲め、之を綜合するに苦しむならん。甲宣教師は曰はん、韓國人は他の東洋人に比して多くアングロサクソンの特性を有すと。乙者は云はん、韓國人は到底文明の趨勢に伴ひて思索し行動すると能はずと。丙者は云はん、韓國人は威嚴あり、信用あり、且つ親切なる人種なりと。丁者は云はん、韓國人は虚言者なり、盜賊なり、泥酔者なり、阿片を喫することなき外は、暗弱なる異教徒によさはしき、あらゆる惡徳を備へたるものなりと。平壤若くは元山の教師は、韓國人を以て日本人に勝ること多しと思考するに反し、京城若くは釜山の教師は、韓國の風俗習慣は人生の最劣等の地位に墮落せるものなりと云ふことを躊躇せず。かくの如く異説紛々たるが故に、實地の視察者は、勢ひ自己の判断により諸説を取捨せざるを得ず。予は爾かなしつゝ下の如き結論に歸着せり。

韓國人民が公平なる新來の視察者に與ふる第一の印象は、極めて韓國人民に不利なるものなり。其奇妙なる明代の服装をなしたる様は、恰も競馬場に於ける田舎漢の如く、又喜劇に於ける端役の道化に似たり。是既に彼等の人物の重んずる

に足らざるを思はしむるが上に、下層社會の住居習慣は汚穢を極め、小官吏や閑散なる紳士の顔容は、空々漠々として、特殊の性格と事物に注意するが如き痕跡なく、其悠々として扇子を使ひ、又は長き煙管にて煙草を燻らしつゝ、街道を徐行する様は、特に茫然として何等の感覺なきものゝ如し。怠惰なる労働者が、むさくるしき白色の木綿の上衣に、麤の如き袴を穿ち、街路の其處や此處やに睡眠をむさぼり、其まぶたの上に無数の蠅の集まり來るも知らざる状態は、如何にしても之を清潔にして勤勉なる日本労働者と比較するを得ず。要するに、韓國民は一般に、威嚴と智識と氣力の缺乏せるを見るべし。

吾人の視察、其度を重ね、其範圍を弘くすると共に、吾人は益々韓國民の不快なる人民たるを感ず。韓國民は見るに従ひて益々怠惰となり、不潔となり、不正直となり、愚昧となる。かの個人的威力と價值を自覺するより生ずる自尊の念の如きは、毛頭之を認むるを得ざるなり。蓋し韓國民は未開の蠻民にあらずして、廢頽せる東洋文明の腐敗的生産物なるのみ。予は本篇に於て日本の解決せんとせる問題の重要分子として、韓國民の状態につき詳細に述ぶる所あらんとす。

歴史的に韓國民を學び、彼等の祖先より其性質を推論せば、何人も韓國民の少なくも天性の能力あり、古代の發見と發明の結果の殘れるを想はざるを得ざるべし。彼等は物貨交換の媒介として、千年以前既に貨幣を使用せりき。彼等は基督紀元一四〇一年に於て、既に鑄造模型を使用せりき。彼等は一四〇五年の以前に於て、既に商標文字を所有せりき。彼等は一五二五年に於て、既に航海用羅針盤を知りたりき。彼等は一五五〇年に於て、既に天計と稱する天文機械を製作したりき。彼等は一五九二年に於て、既に破裂彈丸を發射すべき臼砲を使用したりき。是此機械の歐洲に知られたる久しき以前なりき。同じ年に於て、彼等は鐵を裝ひたる軍艦を以て、日本の侵入軍を攻撃したりき。大凡そ、此等の機械は、何れも彼等自身の發明、若くは模造せるものなりしなり。九世紀頃の人にして、初めて韓國の事を記述したる亞刺比亞の地理學者コラダトベーは、針、鞍、繻子、陶器を以て、韓國の産とせり。日本人の記録によれば、日本は其進歩したる北隣より、製絲機械の法、庭園花卉の整頓法、建築、印刷、繪畫、音樂等の美術を學び、なほ馬具、錦繡、繪畫、武器、旗幟等の器具を輸入せりと云ふ。斯くの如き機械の多くは、韓國の支那より學び得たる

ものなるに相違なしと雖、然も彼等が數百年前に於て、已に之を所有し、之を製造し、且つ之を使用したりし事は、動かすべからざる事實にして、之を今日の現狀に比し、文化の度遙に進みたりしを見るに足る。韓國の不完全ながらも有望なりし古代の文化が、如何にして又何故にかくまで頽廢するに至りしかば、吾人の知るに苦しむ所なり。封建制度が十分の發達をなさずして中絶せしは、勇敢の性を喪失するに多少の影響ありしならん。支那に則りし、教育制度も亦國民の性格に拘束的勢力を加へしならむ。特に國民を壓虐せる官僚政治は、大に個人の獨創的性質を失はしめ、企業心を喪はしめ、又其自由を奪取し盡せるものゝ如し。是等の事實を以て、韓國文明頽廢の原因とするに足るとするも、吾人は猶日本の近時の勃興と對照して、怪訝に堪へざるものあり。

本篇に於て、便宜上韓國人を二種に區別して之を評すべし。(一)兩班(二)勞働者はなり。兩班は何事をもなさず、又何物をも作らざるもの、勞働者は凡てを作り、而も何物をも享くる能はざるものなり。兩階級共に同様の惡性あり。只異なるは、一は馬鞍にあり、他は足下に踏まるゝの一點のみ。勞働者が馬鞍にあるの身となり、貴紳

が足下に踏まるゝに至るも、國家の事は何等の異なる所なかるべし。何となれば、正直に國政に任すべき節操と、現時の事情に通すべき智識と、國家の富強を計るべき愛國心の缺如せることは、双方共に同じければなり。腐敗せる兩階級は兩々相抱きて奈落の底に落下せるなり。

一、兩班貴族と稱すべき階級。韓國人民に同情を有せるウイガム氏は、韓國貴族の事を次の如く記述せり。曰く、緩濶なる白衣を纏ひ、縁廣き馬尾帽を戴き、顎下に紐を垂れたる異様の状態と牛に似たる眼と一叢の疎髯を垂れ、今にも落下せんとする如き顎とを聯想せば、吾人は韓國人をクエーカー宗徒と山羊との混合物と云ふを躊躇せず。他の言を以て之を評せば、韓國人は千年前に於ける支那人の幽霊と云ふべし。韓人は支那人よりも一層祖先崇拜の念深く、支那人よりも一層孔子の教を迷信し、支那人よりも一層其服裝を固守し、社會の風俗習慣固定して、改良すべからざる想像以外にあり。若しも支那人の風習を改むる甚だ困難なりとせば、韓國人の俗慣を改むることは百層倍の難事なりと云ふべし。

以上の記述は確實なり。然れども保守的傾向は、韓國兩班の最惡の性質にあらず。

彼等は其温良の資質あるに拘らず、恐るべき兇行を敢てするなり。市民として考ふるも、爲政者として考ふるも、兩班の最悪の性質は其怠惰、不實、無耻、詭詐、貪慾なるにあり。彼等は一度政治的位置を得れば、直に其官權を利用して、不幸なる百姓を酷剝し、少しも人民の利益を増大せんとはせず、一旦官を離るれば、又直に在官者を排斥せんとして、詐欺、賄賂、偽證等あらゆる醜行を敢てして、權力争奪の爲め、與黨互に相陥擠するに至りては、殆ど手段の如何を問はず、我競争者に対しては、不法拘禁、投獄、拷問、誅殺を行ひて、恬として耻づることを知らず。國事に關しては、何等心を注ぐことなく、所謂忠君愛國の觀念は、一點も之を認むべき所なく、其智識はエスキモー人よりも暗愚なり。渠等は實に其骨髓まで怠惰なり。但し多少の除外例なきにあらず、そは後段に於て之を論ずべし。

以上に於て、予は詳かに爲政者としての兩班の惡事を記述せり。故にこゝには、單に其一箇の私人としての特性をのみ説くべし。抑も韓國兩班は、一箇の市民としては無上の閑散なる紳士なり。手藝は彼等の好まざる所なるのみならず、其なすを耻とする所あり。官吏としては其精神的機能を活動せしむる場合あるも、然も

他人にて辨すべき用務につきては、全然其手足を動かすことをなさず、彼等は勞働的業務の絶對的指揮者なり。其貧して窮するに際しては、寧ろ富有なる親族に寄食するも、斷じて勞働に従事することをなさず。婦人に對する態度は、輕蔑にあざれば無頓着なり。又家政上の許す限りは、彼等は妾を蓄ふるを常とす。妻は家政に於て、主人よりも遙に必要にして、且つ主人に缺けたる種々の美德あり。兩班は又式典を重んずること甚だしく、其形式を尙ふと、節操よりも愛國心よりも甚だし。渠等は多少の教育あることあるも、然も其教育は支那の書法と支那古典の訓詁に止まり、現在の事情に對して全然無用なること、投石器と破城槌との今日の軍事に無用なるに異ならず。時として醫師となることあり、然れども、其外科治療法は、單に鍼治と灸點とに止まり、其處方書に於ける醫藥は、精神病に麝香袋、消化器病に牛膽、肝臟病に熊膽、腫物に牛糞、心臟病に龍齒、呼吸器病に蜈蚣、發狂に蛆、疝痛に乾燥せる蛇皮と云ふに過ぎず。而もかくの如き智識の程度にありて、彼等は西洋の科學を嘲笑しつゝあるなり。

ウイガム氏の謂へるが如く、兩班は甚だ頑冥にして不靈なり。故に彼等は外界の

空氣と觸接せしめ、新智識を呼吸せしむることは、牡蠣が其殻を離脱して陸を踏え、他の海底に移轉するより困難なるべし。宗教は表面祖先崇拜に儒教を加味したるものなりと雖、然も之に對する兩班の信念は、惡魔、妖怪、惡靈に詔ひ仕へ、怖れ仕ふるに比して篤からず。總ての都市には、多數の妖術者、卜者あり。上は宮殿に於ける皇帝より、下は陋屋の土民に至るまで、皆之を尊信す。京城に於ては、近來に至るまで千人以上の妖術者と妖僧とありしと云ふ。日本人の市中を支配するに及び、彼等は何れも市外に放逐せられ、其器具は街道に於て燒毀せられたり。然れども、宮中に於ては彼等は依然として尊信せられ、妃嬪、官妓と共に帝室の恩遇を受け居れり。

有力なる外國觀察者は、何れも韓國兩班の智識的衰頹を以て、支那の學問の人心を痲痺せしめたるに歸す。ゲール氏は評して曰く、小兒の時代より支那の學問を吸入し、之が爲め次第に天然の感覺を喪ひ、層一層假面的となり、個人の現質を離れて却つて太古の鬼精たるに至る。吾人は修學者に向つて、社會の現狀に對する實用的機能の發達を希ふ。されど韓人はかくの如き點につきて、些の思慮あるこ

となし。韓人は其教育に於て、却つて人心を凝結せしめ、氣絶せしめ、現代を脱離して太古の狀態に背進せしめんとするものなり。吾人の理想は發展にあり。韓人の理想は制限にあり。吾人の教育は、人心を開發せんが爲め、機能の練習を主とし、韓國の教育は支那人の纏足の如く、心的活動を壓迫す。故に韓國の所謂適當の教育行はるゝと共に、凡百の發達進歩はこゝに全く廢絶するなりと、フルベルト氏は曰く、韓國の青年は現時の文化に向つて進み、善良なる事情の來たるを迎へんとせず、却つて太古の榮譽と訣別を惜みつゝあるなりと。

教育を支那の古典に制限せることは、兩班の智識の衰頹を説明するに十分なるべし。然れども、彼等の道德の墮落は如何。孔子は決して貪慾、詐欺、破廉耻、奸惡なるべきを教へざりき。然るに韓國の上流社會は、何時となく總ての惡徳に感染せるなり。孔子の道德教につき、何事をも學び居らざるなり。

怠惰なる、愚昧なる、迷信深き、私利のみを考ふる、時として甚だ殘忍なる兩班は、絶對的に無能なり。適特殊の感化を受けて、全然其人格を改造せる者あり。基督教の感化と教育、若くは韓人の外國旅行が、僅少の貴族をして機敏にして信用すべ

く、且つ愛國心強き人たらしめたるものなり。少數のもの既にかくの如しとすれば、他の總てのもの亦其改造の望みなきにあらず、少なくとも次期の人民に於て然るを見るべし。現外務協辨尹致具は、節操あり、智識あり、愛國心篤き好官吏なり。其他官僚に彼の如きもの數人あり。京城の隔離病院長たる某は、教育ある兩班の爲め、化學、病理學、微菌學の教科書の準備に忙がしく、以て韓國醫學生の用に供せんとして、倦まず盡力しつゝあり。釜山に於ける鐵道器械局、平壤の北なる米國金礦、京城なる電燈會社等に於て、多少の技能ある勤勉なる技手あり。是等は、韓國人の性格が、壓制稅政、古式教育の爲めに不具にせられたりと雖、然も全然潰滅し盡したるにあらざるを證するものなりと。日本の古諺に一寸の虫も五分の魂ありと云へるが如く、韓國人も亦獎勵指導の方法宜しきを得ば、其一部分の人には、或は其廢殘の精神を興奮し、以て相當に機能を活動せしむるに至るを得べきか。韓國評論記者フルペルト氏は、半島の人民に同情厚き人なるが、彼嘗て曰く、善良にして正義ある爲政者たるを得るものは、僅々隻手の指を以て數ふるに足るのみ。故に韓國が善良なる韓國人の政府を有することは、真正の教育普及せし後に

あらざれば、全然望むべからざる事なりと。氏及び在留外人多數の意向を聞くに、韓國人は彼等の自力によりては、到底現状以上に進歩する能はず。何となれば爲政者の階級は、回復すべからざる程腐敗し、一般人民は自己を改造すべき能力を喪ひ盡したればなりと。蓋し韓國人は、他より道徳を強制するを得べきも、決して自己の力により、道徳の境に達するを得ず。恰も天然の力に依り、回復する能はざる病體の如しと云はん。改革の業務につき少數の韓國人は、他の忠告と友誼的援助を肯諾すと雖、然も猶宮中に充滿せる醜穢の分子と格闘するの勇氣なく、一方權勢あるものは、全然公徳を缺くが爲め、其特權に容喙し、人民に對して有せる利益を減殺すべき忠言に耳を傾くべくもあらず。彼等の愚昧、貪慾、迷信、破廉耻は現在に於て到底之を打破するを得ざるなり。

二、労働者と農民 韓國の労働者は、その生殖力減少する傾向なく、又其體格は極めて強健なり。彼等は日本の同業者より健康にして、身體一層巨大なり。然れども島國人の如き氣力なく、又勤勉ならず。彼等が一箇月にして漸くなし遂ぐる仕事は、日本人の一週間の仕事に超ゆる能はず。都市に於ては、彼等は自ら労働の種類

を制限し日本人の需用に應じて其仕事を變じ決して或仕事の彼の前に轉び來たるを待つことなきと趣を異にす。韓國の擔夫は他人が其擔ふべき物品を與ふるにあらざれば大地に横臥して睡眠を貪るを常とす。然れども外國人は決して日本人の晝間仕事をもなさず又は睡眠を貪るものあるを見ること能はざるべし。都市以外に於ては韓國労働者は悉く農夫なり。京釜鐵道沿線と平壤附近大同江の河畔に於ける沃地の部分が耕作せられたるを見れば彼等亦相當に勤勉なるを知るに足る。蓋し彼等と雖勤勉の生計費を剩し得て幾分の蓄積をなし得るを知れるなり。但し官憲の不法なる奪掠あり剩餘を蓄積するを得ざる處に於ては全然勤勉の跡を認むる能はず。韓國下層社會の住居と俗慣は甚だ嫌忌すべきものあり。予の見たるものにつき之を評せば衣服は之を洗濯するも一領の質入價格五錢に過ぐる能はざるべく其生活せるむさくるじき陋屋は不潔を極め文明社會の家畜は豚にあらざれば決して之に入らざるべしと思はるゝ程なり。彼等は衣服を洗濯することなく又常に同一のものを着用す。其衣服に發生する虱蚤等は指先の爪にて之を狩り立て又は縫目を口にて咬みて之を殺すを常とす。彼

等は如何なる惡臭をも感覺せざるものゝ如く排泄物の充満せる糞つぼの附近に於て平氣に飲食し喫煙す。時々虎列刺の大流行あり其原因は全然其俗習と家屋の不潔なるにありと雖然も彼等は以て然りとせず飲料水に注意し其建築法を改良するをなさず病原は家鼠にありとなし之を驅除せんが爲め猫皮を假扮せしものを摩擦し或は門戸に猫の紙形を貼布す。京城の東五哩漢江に沿うて猫と稱する一小村あり該村の住民は虎列刺の決して侵入し來らざるべきを確信す。蓋し其村名猫なるが爲め虎列刺の病原たるべき家鼠の來らざるべきを思へるなり。韓國農夫の道德は愚昧にして且つ壓虐せられたる人民に望まれ得べき底のものにして其支配者は渠等に實例を以て醜惡の事を教ふ。又宗教は人心に起るべき惡念を禁遏せんとはせず外界の慘烈なる現象を起すものと想像せられたる惡魔の心を緩和することを義務とす。如何なる韓國民も賄賂を贈り犠牲を供して以て山岳樹木空氣の惡神と調和するの必要を認む。然れども自己の徳性を練磨するの必要を思はざること猶衛生法により虎列刺を豫防せんと思へざるが如し。彼等は死せる祖先を崇拜するも然も祖先の道德を學ばんとはせ

す。又子孫に對して尊敬すべき祖先たらんとするの念慮あることなし。渠等は其祖先に對し、其子孫に對し、何等義務責任の念慮あることなし。宣教師として、八年間韓國に在住せるギョフオールド氏の言によれば、韓國國民には虚言は普通に行はれ、盗行亦然り、嚴禁あるに拘らず博奕殆ど公行す。社會的の悪行は言語同断にして、愛國心の如き、公德心の如きは棄にしたくも之を見出すことを得ずと。これ少しく過酷の評言たるを免れざるべきも、然も事實は決して之を否定する餘地を與へず。予は思ふ、韓國人は一般に道德の標準甚だ卑しと雖、之をサンドミンゴ一人に比するは、少しく躊躇せざるを得ず。何となれば天然の智識に於て、稍勝る處あるを感ずればなり。然れども之をタガロック人、グイサヤン人、菲律賓賓人に比すれば、韓民は到底其上に出づる能はず。國民の性格は、多く統治者の影響を受く。西班牙政府の施政は甚だしき缺點ありしに拘らず、人民の進歩に對しては、韓國皇帝と兩班の施政に勝る處ありたるものゝ如し。韓國に於ては、統治者は常に下層國民の繁榮を破壊し、其元氣を消滅せしめたるのみならず、又彼等に廢頽せる東洋文明の土地に繁殖し得べき、あらゆる惡徳の模範を示したるなり。

予は韓國國民の怠惰、無耻、不道德に比して、其愚昧殘酷の一層驚くべきものあるを見る。マックギル博士は、韓國評論紙上に、京城を距る南方百哩に過ぎざる黃州と云へる一縣の實地視察談を登載せり。氏は同地に於ける迷信者の一團が、肺より出血するに至るまで舞踏をつゞり、其出血を見て體內に宿れる惡靈、之と共に外部に排泄せられたりとなせる談話を掲げ、次に小兒の一團が下水より犬の死體を引き出し、毛を焼き切りたるのみにて之を食ひつゝあるを見たることを記せり。猶進んで種々の實驗談をなして曰く、一日予は四人の男子と一人の婦人の絞殺せられたるを告げんとて來れる、我兒子の爲めに驚かされたり。次日子は此處に赴きたるに、村落を距る遠からずして、柳樹に下れる三個の死屍を見るを得たり。婦人と小兒の死屍は夜中に切り降されたるものにして、二條の切斷せる繩は即ち其名殘を止めたるものなり。此婦人は殺人罪を犯したるものにして、即ち八目鰻を米飯の中に混じて、之を其夫に食はしめ、因つて以て夫を毒殺し、猶夫の顔を毀損して何人なるやを認め得ざらしめたりといふと。また同評論への書狀に於て、博士は更に下の如き通報をなせり。曰く、予は牢獄に赴き、扉に通る小孔より内

なる囚人と談話をなすことを得たり。囚人は盜賊と殺人犯者にして、總數三十七人あり。その中一人は稍、事理を解するものゝ如く、予に語れる所によれば、彼は葬式の歸途同行三人と争鬪を起し、一人之に死したり。當時四人何れも醉中にありしなり。此牢内の三十七人は、概ね爾後一週間の内に絞殺せられたり。予はその外、一箇月の中に絞殺せられたるもの四十五人ありしことを知れり。予は九人の囚人が面々摩するまでに密接し、一條の樹枝にさがれるものを見たりき。當時二人の小兒、予の傍にありて泣けり。予はその何故なるを尋ねしに、小兒は死屍の一人を指してこれ我父なりと答へき。二三日の後、此等の死屍は取り降されたるが、或ものは溝渠の中に放棄せられ、或ものは形ばかりの埋葬を受けたるが、手足は地上に露はれ、群犬これを嚼み食ふ。其慘憺たる光景、心肝を塞からしむるものありき。予は其歸途、鎌を手にせる一老婦に出會し、其何處に行かんとするかを尋ねたるに、老婦は今絞殺せられたる子息を取り下ささんが爲めに行くなりと答へき。予はなほ一人の老婦と小兒を伴へる二人の若き婦人に出會せしが、これ等は何れもさきの老婦と同様の目的を以て來れるなりき。彼等は予に語るらく、引續き

絞殺せらるべきもの約四十人ありと。予の従僕會て夕暮に當り、某處を通行せし時、九人の巡查彼の後へにあるを見たりし刹那、傍への旅宿の門扉開くよと見る間に銃聲一發、一巡查は斃れ、他の八人は蜘蛛の子を散らすが如く逃げ去りたり。後に聞けば、三人の盜賊該旅宿に食事中なりしが、彼等は巡查の爲め騒がさるゝを好まず、機先を制して巡查を追ひまくりたるものなりと云々。以上のマツギル氏の書狀に對して、同評論の記者フルベルト氏附言して曰く、斯くの如き酸鼻なる事件を公表するは好まじからぬ事なれど、事實大に韓國土人の状態を詳かにするを得るものあり。殘虐兇暴、人命の廉價なる、特に注意するに足らずとせんや。而して斯くの如き事實は、特に黃州に止まらずして、韓國全部を通じて、隨所に實見するを得るところなりと。北韓地方にありて、金嶺の搜索に従事し、數箇月を送りたりし一米國嶺山技師が、余に語れるを聞くに、或日の午後技師が内地深く入りたる時、惡魔拂ひを行ひつゝありし韓國人の一團に逢着せり。彼等は一段高きプラットフォーム様の處を取り圍みたりしが、其中央に何物か蠢動し苦惱せるものあるを認め、近づきて之を掃